# 第2章
# 法人報告
# 事業報告

# 2022年度けいじゅヘルスケアシステム方針

## 継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

## 単年度方針

2020年初めから、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のしたたかさに翻弄され続けた。この新興感染症に加えて、地球温暖化の影響もあってか日本中で台風や洪水などの天災が激甚化した。われわれは想定外に備えながら、同時に、これから来る生産年齢人口減少という社会構造の変化に対応しなくてはならない。想定外に対応しながら、少ない生産人口で医療・介護・サービスの質を上げ、実績を上げる。そのためには、仕組みを変えるしか方法はない。

想定外でも、想定内でも、現場にうまくいかないことはないのか？患者・利用者も職員も満足できないことはないのか？それを、人のせいにしていないのか？できない理由を何に求めているのか？自分を責めただけでは前に進まない。

2022年度方針を

### 人を責めるな、しくみを責めろ

とする。問題があれば、仕組みに問題があるのだ。仕組みを創る、変えることが質向上、満足度向上と生産性向上の唯一の方法なのだ。

# TQM発表大会（董仙会）

**前期 第24回 2022年9月13日、14日、15日 オンライン開催**

**大会1日目「増収、生産性増、顧客満足度100%、職員満足度100%、健康経営」**

| 部署 | | テーマ |
|---|---|---|
| | 恵寿金沢病院 看護部、リハビリテーション科、栄養科 | 摂食機能療法算定にむけた仕組み作り |
| | けいじゅ金沢訪問看護ステーション、<br>恵寿金沢病院 2階病棟・3階病棟 | 確実な退院時共同指導加算取得に向けての仕組み作り |
| | 本院 事務部管理課、診療部 | 医師の勤務管理の仕組みづくり |
| 1位 | 恵寿金沢病院 臨床検査課、放射線課、<br>人間ドックセンター、管理課 | ドック受検者の理解度向上のための仕組みづくり～動画による検査説明の導入～ |
| | 恵寿金沢病院 薬剤科、看護部、内科 | 抗体医薬の安全な投与と経過観察最適化の仕組み作り |
| | 本院 健康管理センター | 職員が身近に感じられる特定保健指導のしくみづくり |

**大会2日目「新サービス 創出、ルーチン業務の再評価」**

| 部署 | | テーマ |
|---|---|---|
| | 本院 看護部（外来・3病棟2階・5病棟3階・手術室・<br>血液浄化センター）、医療秘書課 | 入院患者の他科受診をオンライン診療とする「しくみ」つくり |
| | 恵寿金沢病院 地域連携課、看護部、医事課、管理課 | オンラインによる関係機関、家族等の面会のしくみの確立 |
| | 本部 生活未来課 | めぐみとベンリー共同にて、めぐみの業務をサポートするしくみづくり |
| | 本院 リハビリテーションセンター、5病棟5階、5病棟4階、<br>医療福祉相談課 | 回復期リハビリテーション病棟入院料１を維持する仕組みづくり |
| 1位 | 本院 医療安全管理部会、感染制御課 | タスク・シフト（静脈路確保）推進の仕組みづくり |
| | 本院 放射線センター放射線課 | 業務拡大による静脈路確保にてタスクシフト・シェアする仕組みつくり |
| | 本院 臨床検査課 | タスクシフト事業の推進－採血室業務における静脈路確保の仕組み－ |

**大会3日目「新サービス創出、ルーチン業務の再評価、人材・後継育成」**

| 部署 | | テーマ |
|---|---|---|
| | ケアマネステーション恵寿 | 新規利用者獲得に向けてのしくみづくり |
| 1位 | 本院 サービス課 | 予約外患者の受付業務を見直し、待ち時間を短縮する仕組み作り |
| | 本院 医療秘書課、外来看護部 | 環境を整理し、働きやすい職場にするしくみを作る |
| | 本部 財務部資財課 | クラウド型業務ソフトの有効利用ータブレットPC活用による作業時間削減の仕組みづくりー |
| | 本院 内視鏡課 | ESDの術前訪問を開始して ～不安を軽減するための内視鏡看護師の関わりと仕組み作り～ |

**後期 第25回 2023年3月11日 七尾市文化ホール**

**セッション1 増収、顧客満足度100%、職員満足度100%、質の向上・データ分析、新サービス創出**

| 部署 | | テーマ |
|---|---|---|
| 1位 | 本院 入退院管理センター 地域連携課 | 恵寿式戦略的集患対策の仕組み作り |
| | 本部 総務部 総務課 車両係 | 楽のり君送迎時間の全体最適のしくみづくり～乗客満足度向上を目指そう！～ |
| | 鶴友苑 | 介護施設における「優しさの提供」とは<br>～「優しさの提供」における優しさの定義と「提供」の仕組み作り～ |
| | 本院 看護部 | 救急センター受診時、必要検査をスムーズに実施する仕組みづくり |
| | ほのぼの（通所介護事業） | LIFEフィードバックデータの活用によるサービスの質の向上の仕組みづくり |
| | 恵寿みおや | BCPの見直しと周知～地域と連携する仕組み作り～ |

**セッション2 新サービス 創出、ルーチン業務の再評価**

| 部署 | | テーマ |
|---|---|---|
| | けいじゅ一本杉 | 防災意識を高める仕組み作り～地域と支え合うために～ |
| | 本院 臨床栄養課（協力:けいじゅケアマネステーション、<br>訪問看護ステーション、入退院支援センター、<br>医療福祉相談課、地域連携課） | 栄養相談ができる窓口づくりから訪問栄養指導の実施につなげる仕組みづくり |
| | 介護医療院 恵寿鳩ケ丘 | 介護医療院 恵寿鳩ケ丘におけるACPの更なる展開と実践における仕組みづくり |
| | 本院 薬剤管理センター、<br>看護部持参薬チーム（5西、HCU、3-3、5東） | 持参薬運用のしくみ改革 vol1 －まずは薬剤課のしくみ改革から－ |
| 1位 | 本院 入退院管理センター、看護部（本館6階西・<br>5病棟４階・５病棟５階・訪問看護ステーション） | 入退院管理センターの取り組み ～PFMによる体制強化の仕組みづくりを目指して～ |
| | 本部 総務部 総務課 | 労務管理の仕組みづくり ～電子化クラウドシステムの導入～ |

**セッション3 ルーチン業務の再評価、ブランディング、新サービス創出**

| 部署 | | テーマ |
|---|---|---|
| | 本院 臨床工学センター 臨床工学課 | 透析支援システムFutureNet Web+の運用見直しとサブツールの有効活用による仕組みづくり |
| | 恵寿金沢病院 看護部、医事課 | 入院業務一連に対するしくみ作り～入院業務のシンプル化に向けて |
| | 本部 情報部 情報管理課 | 医療情報システムをウィルスや災害から護る仕組みづくり |
| | 本部 財務部 経理課 | 改正電子帳簿保存法に対応する仕組みづくり |
| | リスクマネジメント部会（文化調査グループ）、<br>医療安全管理課 | 医療安全文化調査結果の活用 |
| 1位 | 和光苑 | 多くの人に知られるくらいのブランド力の獲得を目指して～SNS活用の仕組みづくり～ |
| | デイサービスセンター いこい | 趣味を活かしたレクリエーション活動の仕組みづくり～小規模レクからマイスターを目指そう～ |

# 事例研究大会（徳充会）

**2023年2月10日開催　大会テーマ：人を責めるな、仕組みを責めろ**

| | 所属 | 発表者 | テーマ |
|---|---|---|---|
| 優秀賞 | 青山彩光苑　本部事務局 | 神野 由美子 | 総務4S　改革　～シンプル・スピード・正確に・誠意をもって～ |
| | 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター | 中尾 美幸 | 特性に合った支援で少しずつ前へ |
| | 石川県精育園 | 藤井 めぐみ | 自立が導く笑顔と自信 |
| 奨励賞 | 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜 | 竹中 翔亮 | 個々の能力をきちんと評価する　～評価表（しくみ）の見直し |
| 最優秀賞 | 青山彩光苑ライフサポートセンター | 奥村 桜子 | 『食べたい』を生きる力に |
| | 青山彩光苑リハビリテーションセンター | 馬場 夏実 | 安全で痛みの少ない入浴動作を目指して |
| | さいこうえんの障害者生活支援センター | 山崎 亮一 | 地域交流を通した利用者支援<br>～地域共生社会の実現を目指して |
| 奨励賞 | ローレルハイツ恵寿 | 林 ゆん | マンネリからの脱出！Pepperの力を借りて…<br>～利用者と職員が笑顔になるように～ |
| | エレガンテなぎの浦 | 松本 雅予 | Foot活プロジェクトを広めよう　～楽しく歩いて健康に～ |
| 優秀賞 | ふれあいの里 | 甲谷 一美 | 喜ばれる入浴を目指して　～プログラムの見直し～ |
| 奨励賞 | エレガンテ田鶴浜・もみの木苑 | 亀井 真巳 | まんぷく大作戦　～笑顔と元気を引き出す支援～ |
| | 自立ホームけいじゅ<br>ヘルパーステーション銀河 | 大能 美保 | 止めちゃダメ！！　～コロナ禍における地域支援のあり方～ |

# 新聞掲載（董仙会）

| 日付 | 内容 | 施設 | 掲載媒体 |
|---|---|---|---|
| 2022.4.2 | 84人が地域医療へ | 董仙会 | 北國新聞 |
| 2022.4.17 | 七尾未来アワード公開プレゼン / 未来アワードグランプリ | 董仙会 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2022.4.20 | 外国人受け入れ 認証制度を更新 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.4.23 | 新採職員がマナー研修 | 董仙会 | 北國新聞 |
| 2022.4.26 | 外国人患者受け入れ 25年まで認証更新 | 恵寿総合病院 | 北陸中日新聞 |
| 2022.5.12 | 先端機器で介護負担軽減 | 董仙会 | 日本経済新聞 |
| 2022.5.17 | 医療情報伝えて1300回 恵寿病院・神野理事長 | 董仙会 | 北國新聞 |
| 2022.6.10 | 心療内科を開設 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.6.11 | 恵寿病院に心療内科 認知症治療に力 介護相談室も | 恵寿総合病院 | 北陸中日新聞 |
| 2022.6.18 | 実習生に辞令交付 / インドネシアから介護の道 決意 実習生の辞令交付式 / 介護技能実習生ら活動開始 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 / 北陸中日新聞<br>読売新聞 |
| 2022.6.20 | フレイル予防学ぶ | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.6.29 | 涼やか 七夕の吹き流し 職員手作り | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.7.2 | 新採職員に辞令、研修 | 董仙会 | 北國新聞 |
| 2022.7.6 | 腕のリハビリに新装置 / 助っ人活躍 リハビリ楽に ロボット型装置導入 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2022.7.10 | 健康へ歩き方診断 | 恵寿金沢病院 | 北國新聞 |
| 2022.8.3 | 将来の仕事 これからも 七尾高生体験 | 恵寿総合病院 | 北陸中日新聞 |
| 2022.8.3 | 介護技能を競う | 董仙会 | 北國新聞 |
| 2022.8.6 | 七尾高2、3年生がインターンシップ 市立図書館などで | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.8.19 | 羽咋高の2年生 医療の仕事学ぶ | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.8.19 | よりよい介護へ 選抜10人競う オンラインで「グランプリ」 | 董仙会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.8.22 | 医療の魅力 高校生に | 恵寿総合病院 | 北陸中日新聞 |
| 2022.8.26 | 「介護部」を新設 / 恵寿病院に介護部新設 治療から生活 切れ目なく | 恵寿総合病院 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2022.8.27 | 七尾高生に医療 オンラインツアー | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.9.14 | メールで受診促す「カルテコ」 | 恵寿総合病院<br>恵寿金沢病院 | 北國新聞 |
| 2022.9.20 | 恵寿総合病院に和菓子 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.9.26 | 障害者就職へ 説明・面接会 | 董仙会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.9.27 | 医療機関「作業減り、患者に集中」 対象外の問い合わせ増懸念 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.10.4 | 不要の軽症者 健康相談69件 全数把握簡略化1週間で県内 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.10.6 | 看護師特定行為 5人が研修修了 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.10.12 | たん吸引の研修開始 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.10.13 | 介護技能競い 県内7氏が受賞 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.10.15 | デイサービス「いこい」閉鎖 / デイサービスいこい閉鎖へ | 董仙会 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2022.10.15 | 百歳 / 中能登の諏訪さん100歳おめでとう | 和光苑 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2022.10.18 | 介護職の魅力 従事者ら発信 県産業展示館でフェスタ | 董仙会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.10.22 | これからも元気でいてね 七尾の石井さん | 和光苑 | 北陸中日新聞 |
| 2022.10.28 | 七尾の「董仙会」がたん吸引研修開講 | 董仙会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.11.10 | スポーツで健康増進 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.11.30 | 障害のある入所者 リハビリ協議競う | 董仙会 / 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.12.8 | あすからのイルミネーションPR | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.12.9 | 利用者の移動補助学ぶ | 董仙会 | 北國新聞 |
| 2022.12.10 | 光のショー華やか | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |

| 日付 | 内容 | 施設 | 掲載媒体 |
|---|---|---|---|
| 2022.12.11 | ツリーや観覧車 わくわくイルミ | 董仙会 / 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.12.15 | 認定看護師、新たに3人 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2022.12.29 | デイサービス「いこい」に別れ 中能登で閉所式 / 中能登デイサービス「いこい」31日に閉所 | 董仙会 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2022.12.30 | 永年勤続者を表彰 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2023.1.5 | 七尾・恵寿病院 / 20歳迎える職員 決意新たに誓い | 董仙会 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2023.1.27 | 大地震発生を想定 恵寿病院で防災訓練 / 災害時の情報共有確認 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2023.2.7 | 診察券をアプリで一括管理 / 「スマホ＝診察券」導入予約状況の表示も | 恵寿総合病院 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2023.2.12 | ハート形のイルミ登場 / 七尾の高齢者施設 期間限定♡イルミ | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2023.2.14 | 透析中にも体操、筋力維持 / 透析中 気軽に筋トレ | 恵寿ローレルクリニック | 北國新聞 / 北陸中日新聞 |
| 2023.2.15 | 医療に感謝、花贈る 県花商事業協同組合 | 恵寿金沢病院 | 北國新聞 |
| 2023.3.9 | 健康経営優良法人 上位に石川12団体 経産省発表 | 董仙会 | 北國新聞 |
| 2023.3.11 | 「君ソム」の原画並ぶ | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2023.3.15 | 人間ドックラウンジ一新 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |
| 2023.3.15 | 健康優良法人認定「董仙会」6年連続 | 董仙会 | 北陸中日新聞 |
| 2023.3.21 | 作中の七尾 写真と見比べて 恵寿病院で「インソムニア」展 | 恵寿総合病院 | 北陸中日新聞 |
| 2023.3.25 | 研修医6人が修了 | 恵寿総合病院 | 北國新聞 |

# 新聞掲載（徳充会）

| 日付 | 内容 | 施設 | 掲載媒体 |
|---|---|---|---|
| 2022.4.3 | 施設通貨　健康の励みに / 還元祭でお買い物 | ふれあいの里 | 北陸中日新聞 |
| 2022.6.11 | 潮騒の道　きれいに | 石川県精育園 | 北陸中日新聞 |
| 2022.6.18 | 実習生に辞令交付 / インドネシアから介護の道 決意 実習生の辞令交付式 / 介護技能実習生ら活動開始 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 / 北陸中日新聞<br>読売新聞 |
| 2022.6.24 | 85歳理容師 現役を続行 | ローレルハイツ恵寿 | 北國新聞 |
| 2022.6.24 | 施設理容師今年も力に | ローレルハイツ恵寿 | 北陸中日新聞 |
| 2022.8.2 | 組子細工で脳トレ 田鶴浜高、高齢者と交流 | ローレルハイツ恵寿 | 北國新聞 |
| 2022.8.3 | 介護技能を競う | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.8.19 | よりよい介護へ 選抜10人競う | 董仙会 / 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.8.19 | 桶屋さん県道など冊子解説 | 青山彩光苑ライフサポートセンター | 北陸中日新聞 |
| 2022.9.11 | 折り紙手順パネル紹介 高齢者施設に寄贈 | もみの木苑 | 北國新聞 |
| 2022.9.13 | グラウンドゴルフ秋季大会 | ふれあいの里 | 北國新聞 |
| 2022.10.2 | 七尾初のA型事業所「LABO」が開所式 | 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.10.5 | 折り紙で昆虫 作り方解説 | もみの木苑 | 北陸中日新聞 |
| 2022.10.12 | 喀痰吸引等の研修開始 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.10.28 | 喀痰吸引等　研修開講 | 董仙会 / 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.10.13 | 介護技能競い県内7氏が受賞 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.10.18 | 介護職の魅力 従事者ら発信 | 董仙会 / 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.10.18 | 国民文化祭プレイベント　障がい者がアート制作 | 穴水ライフ / 精育園 | 北國新聞 |
| 2022.11.7 | 紙箱 社会参加の一歩に コロナ禍で疎遠 | もみの木苑 | 北陸中日新聞 |
| 2022.11.9 | アートでつながる穴水　百万石文化祭プレ行事 | 穴水ライフ / 精育園 | 北陸中日新聞 |
| 2022.11.10 | スポーツで健康増進 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.11.25 | 穴水で障がい者作品展 国民文化祭プレ行事 | 穴水ライフ / 精育園 | 北國新聞 |
| 2022.11.30 | 障害のある入所者 リハビリ競技競う | 董仙会 / 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.12.8 | 園児と障がい者　レクで交流　穴水リモートで結ぶ | 石川県精育園 | 北陸中日新聞 |
| 2022.12.8 | あすからのイルミネーションPR | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.12.10 | 光のショー華やか | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.12.11 | ツリーや観覧車わくわくイルミ | 董仙会 / 徳充会 | 北陸中日新聞 |
| 2022.12.11 | 精育園利用者が対抗戦ゲーム満喫 | 石川県精育園 | 北陸中日新聞 |
| 2022.12.30 | 永年勤続者を表彰 | 董仙会 / 徳充会 | 北國新聞 |
| 2022.12.31 | 大浴場に赤富士壁画 ふれあいの里 シール8700枚使用 | ふれあいの里 | 北國新聞 |
| 2023.2.12 | ハート形のイルミ登場 | ローレルハイツ恵寿 | 北國新聞 |
| 2023.2.12 | 七尾の高齢者施設 期間限定♡イルミ | ローレルハイツ恵寿 | 北陸中日新聞 |
| 2023.2.18 | あふれる思い詩集に託し | セェレーナ青山 | 北陸中日新聞 |
| 2023.3.28 | 100歳を中能登町長祝う | エレガンテなぎの浦 | 北陸中日新聞 |

## 来訪者一覧（董仙会）

| 日付 | 見学者 | 見学内容 |
|---|---|---|
| 2022.6.13 | 富山大学芸術文化学部 教授他計3名 | デザイン経営 |
| 2022.8.24 | 石川県立羽咋高等学校 計10名（オンライン） | 医療職の紹介 |
| 2022.8.26 | 石川県立七尾高等学校 計85名（オンライン） | 医療職の紹介 |
| 2022.9.7 | 社会医療法人光生病院 理事長他計4名 | 情報システム |
| 2022.9.8,9 | 横浜市立大学 計15名（オンライン） | 医療経営合同インターンシップ |
| 2022.11.18 | 横浜市立大学 教授他計3名 | 医療経営人材育成 |
| 2022.12.16 | 医療法人佐藤病院 理事長他計9名、昭和設計 計3名 | 病院建築 |
| 2023.1.27 | 若手経営者の会 計5名 | けいじゅヘルスケアシステム |
| 2023.1.31 | 愛生館小林記念病院 理事長他計4名 | 地域連携、入退院管理センター |
| 2023.2.13 | 鵬学園高等学校 計10名 | 給食システム |
| 2023.3.3 | 医療法人社団如水会今村病院 計1名 | けいじゅヘルスケアシステム |
| 2023.3.14 | 国立病院機構 計6名 | 介護部 |
| 2023.3.22 | 神戸市民病院機構 計11名 | DXに関する取り組み |
| 2023.3.27 | 衣笠病院附属在宅クリニック 専務理事他計8名（オンライン） | けいじゅヘルスケアシステム |

## 来訪者一覧（徳充会）

| 日付 | 来訪者 | 見学内容 |
|---|---|---|
| 2022.5.12 | 田鶴浜地区民生委員 | 【もみの木苑】 窓拭きボランティア |
| 2022.12.19 | のと共栄信用金庫職員 | 【青山彩光苑】 窓ふきボランティア |
| 2023.3.17 | のと共栄信用金庫職員 | 【青山彩光苑】 窓ふきボランティア |

# 董仙会中期計画　2021-2023（2021年策定）

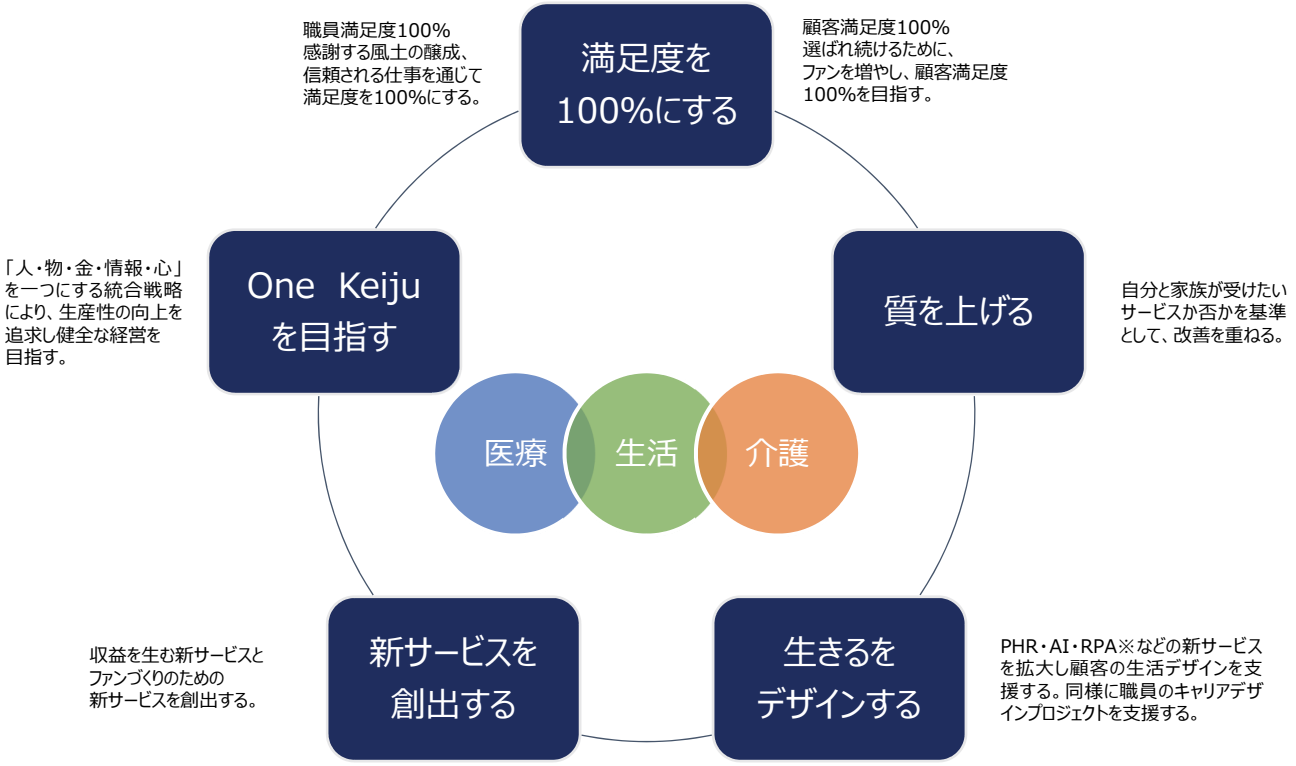
## ■継続的基本方針

### □ 継続的基本方針を達成するための基本戦略

2021-2023中期計画の基本戦略は、従前の戦略を受け継ぎ、更なる成熟を目指し、下記の5施策とする。

- **■ 満足度を100%にする**
- **■ One Keijuを目指す**
- **■ 新サービスを創出する**
- **■ 生きるをデザインする**
- **■ 質を上げる**

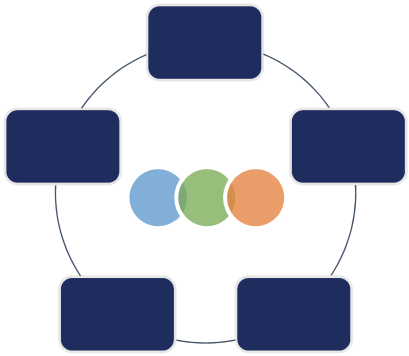
董仙会の職員は、前向きで努力を忘れない資質に恵まれ、真面目である。その資質を活かし、地域と仲間にファンを作ることは、難しいことではない。自分と家族が受けたいサービスか否かを基準として、常に自分の仕事を見直し、昨日より良いサービスを作り続けよう。その時、感謝する風土を醸成し、心温かな職場にしよう。また、ITリテラシーの高さは、非常に自信を持っていただきたい。新サービス創出に向けて、ITリテラシーの高さを武器に、発想の転換を図り工夫を重ねていただきたい。生産性の向上を主眼とし、IT・PHR・AI・RPAなどを積極的に利用し、自分たちが利用したい未来を築いていこう！答えは、自らの心の中にある。




※ PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質（QOL）維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会ではMDV社の「カルテコ」を導入。

## ■継続的基本方針を実現するためのSWOT分析

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら3カ年で目指す将来像に到達することを目標とする。



目指す将来像

**【積極戦略】**
**顧客満足度100%**
**“恵寿式”地域包括ヘルスケアサービスの完成**

**【差別化戦略】**
**未来型新サービスの創出**
**地域事業者との戦略的な連携・協働**

**【改善戦略】**
**職員満足度100%**
**BSC目標管理と人事評価の連動**

**【克服戦略】**
**人材育成**
**BSC・TQM・ISOの連動による経営の質改善**

現状の姿

| 強み S | 弱み W |
|---|---|
| 共通　医療・介護医療・介護の一体的取組み<br>SDGsの明確化<br>日本で唯一のしくみ、ITの強み<br>新事業開始スピードの速さ<br>RPAを導入<br>BCM/BCP | 共通　5年後中堅層のリーダー不足<br>夜勤しない職員増<br>医師による積極的リクルート不足 |
| 本院　発熱外来がある<br>AI問診、PHRを導入している | 本院　顧客減少<br>脳神経領域の戦力低下 |
| 金沢　血液内科専門病院<br>NTTグループとの繋がり<br>大学病院との連携 | 金沢　病床数89床のため、採算性増加の難しさ<br>整形外科・眼科の方向性 |
| 介護　産総研、東京藝大など産学との研究可能<br>ノーリフト介護の浸透<br>外国人材の導入 | 介護　介護のやりがい感の醸成が不十分<br>施設の老朽化 |
| **機会 O** | **脅威 T** |
| PHSに代わる連絡ツール（スマホ・5Gなど）<br>健診新メニュー（フレイル予防、遺伝子検査）<br>能登総合病院との新たな関係<br>AI問診、PHRの拡大 | 目標管理と人事評価における妥当性<br>職員満足度・くれない族の増加<br>小松市民病院に血液内科設立 |

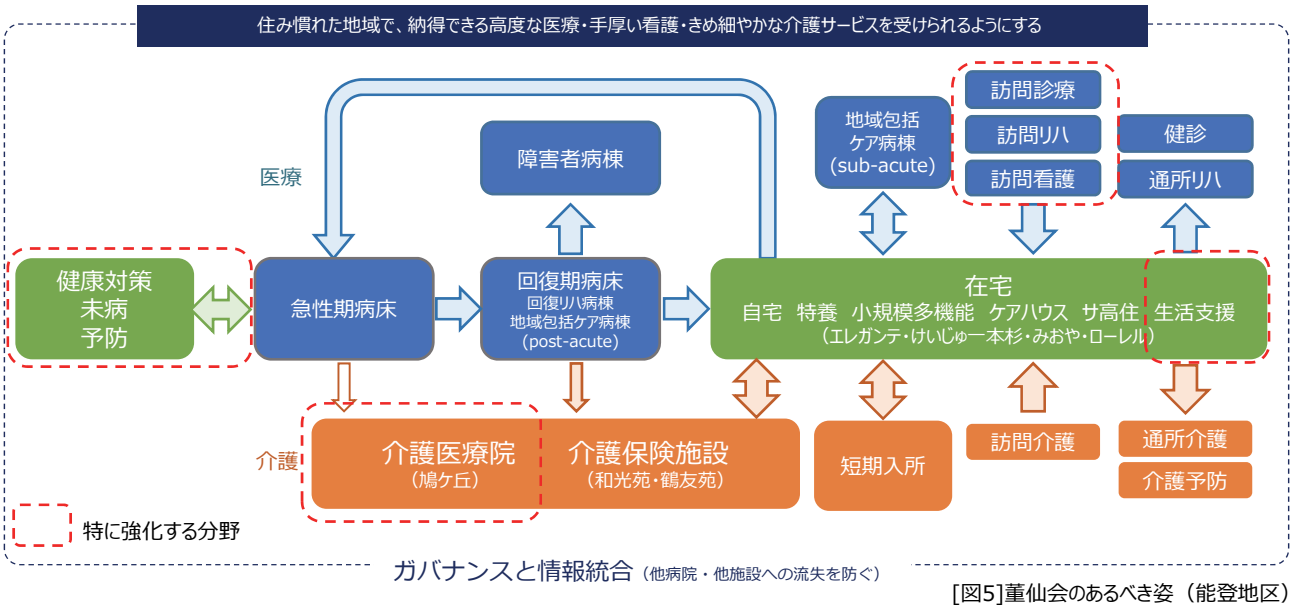
## ■継続的基本方針を実現するための董仙会のあるべき姿

### □ 能登地区方針

[図5]董仙会のあるべき姿の中では、鳩ヶ丘が介護医療院となり、地域ニーズに対応して訪問看護ステーションを設置した。健康対策として未病・予防へ注力することが未来を創る戦略となる。これまで医療療養型施設がなかったため、医療ニーズの高い患者は、他院（浜野西、富来、加藤、北村病院）に転院していた。しかし、これらの病院も介護医療院に転換したため、鳩ヶ丘の果たすべき役割は、重要となった。生活支援事業における新サービスを充実させ、地域の信頼を得ることが肝要である。

医療　介護　生活

董仙会のあるべき姿（能登地区）2023年

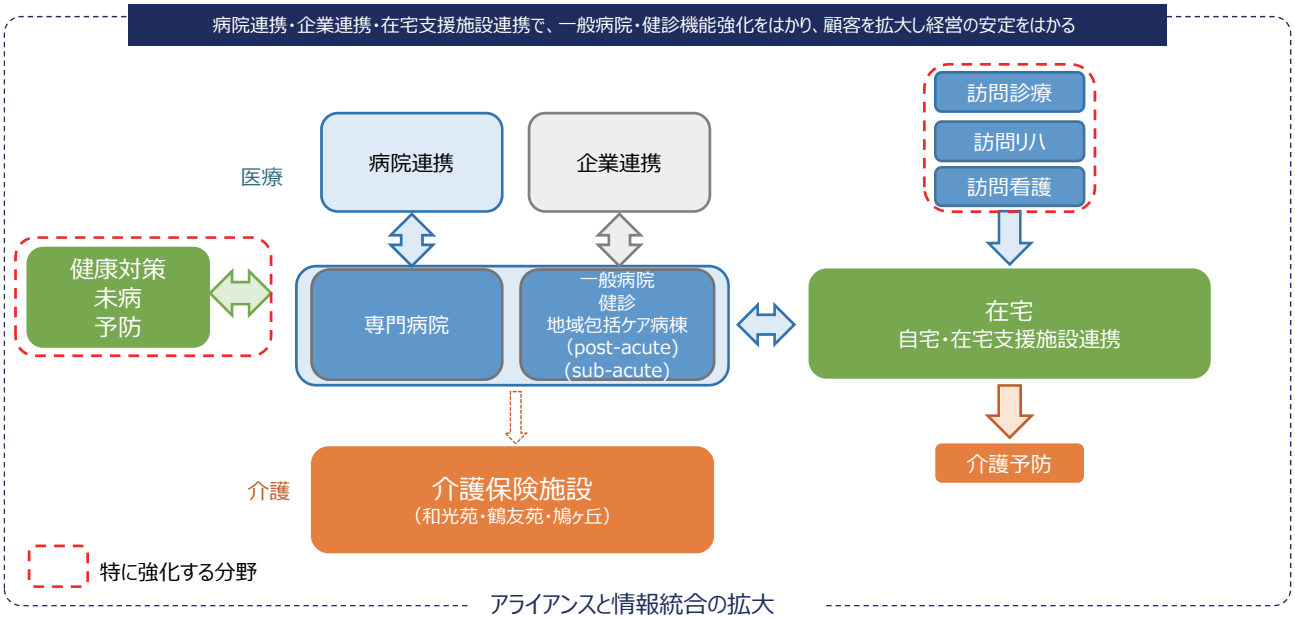



[図5]董仙会のあるべき姿（能登地区）

### □ 金沢地区方針

[図6]董仙会のあるべき姿の中では、訪問事業の充実を図る事が大切である。また協力連携する介護施設を明確にし、介護を必要とする高齢者患者にも対応していかねばならない。NTT関係会社の健康を預かる病院として、未病・予防などの健康対策に注力されたい。新金沢病院（89床）における+αの目的を明確にし、経営改善と新病院構想を同時に行い、新築移転に備える事が必須である。

董仙会のあるべき姿（金沢地区）2023年




[図6]董仙会のあるべき姿（金沢地区）

## ■継続的基本方針を実現するための戦略目標（成功のストーリー）

KGI（重要業績達成指標）は、医業収入151億円とする。

2023年度までに継続的基本方針を達成するための5施策に対する具体的な戦略目標例を示す。

- ■ 満足度を100%にする
- ■ One Keijuを目指す
- ■ 新サービスを創出する
- ■ 生きるをデザインする
- ■ 質を上げる

### ■ 満足度を100%にする

**「介護で働くなら恵寿」、「医療で働くなら恵寿」を完成する**

【学習と成長の視点】 外国人実習生の受け入れについて学ぶ。腰痛予防のためのノーリフティング対策を学ぶ。
生涯賃金増となる就業規則を学ぶ。健康経営について学ぶ。

【業務の視点】 「ありがとう」「助かりました」感謝を表す風土を醸成しよう。
元気な挨拶「おはようございます」「こんにちは」で温かな職場を創る。

【顧客の視点】 仲間・顧客の役に立つというやりがい感を創出する。

【財務の視点】 素晴らしい仲間が増え、業務に余裕が生まれ、顧客へのサービスがよりよくなり、評判となる。
職場の雰囲気の良さが恵寿ブランドとして定着する。

### ■ One Keijuを目指す

**人・物・金・情報・心の統合で新金沢病院着工へ**

【学習と成長の視点】 各事業、部門の採算性を学ぶ。新金沢病院の構想(サ高住、回復期リハ、緩和ケア)を練る。

【業務の視点】 各事業、部門の統廃合を実施する。新金沢病院基本計画の策定。

【顧客の視点】 新金沢病院基本計画にて、職員のモチベーションを上げる。

【財務の視点】 One Keijuとして収益に貢献する。

**人・物・金・情報・心の統合で稼働率を上げる**

【学習と成長の視点】 介護施設受入の際、ボトルネックとして、能登総合病院かかりつけ医問題がある。
けいじゅヘルスケアシステムの切れ目のないサービス提供において、支障をきたすことが多々あるため、
このような場合、患者・家族に対し、積極的にかかりつけ医変更依頼を行う。
二人主治医性についての説明のしかたを学ぶ。

【業務の視点】 能登総合病院からの新しい形の紹介を実施。病院・介護施設で介護相談外来を展開する。

【顧客の視点】 けいじゅヘルスケアシステムのサービスに満足していただくため、顧客の願いを汲み取る。
顧客の多様性を知り、新しいサービスを恐れず創り出す。

【財務の視点】 One keijuとして、稼働率を上げる。

## ■ 新サービスを創出する

### 董仙会のあるべき姿の定着を目指す（ITリテラシーの強みを活かす）

【学習と成長の視点】ITの強みを最大限に生かせる学習の実施

【業務の視点】　オンライン診療やサテライト外来を構築する。遠隔による診療支援も導入する。AI問診を金沢病院、各クリニックにも導入する。金沢病院にもPHR（カルテコ）を導入する。

【顧客の視点】　医療関係者、患者側の満足度を上げ、稼動率改善につなげる。

【財務の視点】　稼動率改善により、収入増となる。

### 新しい働き方で生産性を上げる（ITリテラシーの強みを活かす）

【学習と成長の視点】事務・看護業務の作業分解を学習し、RPAに業務を移行する。その過程と効果を学ぶ。介護ロボットの可能性を正しく理解する。

【業務の視点】　RPA、介護ロボットなど文明の利器を活用し、働き方改革を行い、生産性を上げる。

【顧客の視点】　RPA、介護ロボットによる業務代替による負担軽減を目指す。

【財務の視点】　生産性管理の実施。生産性改善により、支出減となる。

## ■ 生きるをデザインする

### 生きるためのトータルコーディネーターとなる

### 1.病後のトータルコーディネート　2.生きるをデザインする　3.未病　4.予防　5.生活支援

【学習と成長の視点】 未来の健康についてアイデアを出し続ける。

【業務の視点】　強みのIT・PHRを活用し、顧客参加の仕組みを作る。

【顧客の視点】　病前病後のトータルコーディネートは、漏れなくダブりなくできているかを確認する。

【財務の視点】　生活・健康・介護・病気　人生の不安を任せられる企業として大きな信頼を得て、顧客増となる。

### キャリアデザインを展開し、各部署に3級リーダーを配属する

【学習と成長の視点】 資格要件・業務ラダーの連動について学ぶ。仕事や役職が自らを育てる事を学ぶ。

【業務の視点】　董仙会の未来を築く3級リーダーを育てる。

【顧客の視点】　やりがい感を醸成する。

【財務の視点】　人材確保により、安定経営が可能。

## ■ 質を上げる

### 老朽化施設の改修によるハードの質、専門性・安心・安全のサービスの質、レジリエンスを発揮する経営の質向上

【学習と成長の視点】 自分と家族が受けたいサービスか否かを基準として、上質とは何かを学ぶ。質が向上するためにはどうすれば良いかを探し出す。どのようにすれば上質にたどり着くのかを考える。

【業務の視点】　業務の質を上げる。人間の質（人間力）を上げる。

【顧客の視点】　顧客・仲間が心地よさを感じるよう努力を惜しまない。

【財務の視点】　入院・入所・入職希望者が増え、董仙会がさらに成長する。

董仙会本部
事務管理統括部門

# 董仙会本部

■常務理事　神野 厚美
■理事長補佐　神野 正隆
■本部長　進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**

「人を責めるな、しくみを責めよ」取り組みを下記に示す。

| | |
|---|---|
| DX推進 | ・全職員にMicrosoftアカウント付与<br>・全職員をTeams「非常事態報告」メンバーに利用推進<br>・2023年4月PHS廃止、iPhone500台を本院に先行導入<br>・すべてをiPhoneで業務可能となるようにしくみ構築（モバイル電子カルテ、ナースコール、内線、放送）<br>・本院に入退院支援システム、ポケメド（モバイル診察券、待ち時間連絡、Web予約、Web予防接種予約）導入 |
| | 財務部：基幹業務ソフトのクラウド化、RPA４稼働<br>総務部：ストレスチェック、労務管理等のオンライン化<br>情報部：全施設のIT資産統合管理ソフトを導入<br>企画部：Teams業務拡大 |
| 新型コロナ対応 | ・Teams感染クロノロジーにて、情報共有の推進<br>・介護施設での新型コロナ患者対応<br>・各種補助金の獲得<br>・新型コロナ危険手当、休暇の継続 |
| 手当等見直し | ・本院夜間入院手当（オーバーナイト手当等）<br>・看護職等の地位向上のため処遇改善手当<br>・2023年度ベースアップ、事務職資格手当新設などの準備 |

■事業報告

① 経営の健全化のため、コンサルを入れての収益改善ミーティングを強化、介護の収益改善ミーティングも開始、経営会議の時間も延長した。中能登町の指定管理のいこいを閉鎖し、ほのぼのと統合した。フランチャイズのベンリー七尾店は、クロージング準備に入った。

② DX推進と共に働き方改革を主導した。６年連続、健康経営ホワイト500、本院で未許可だった産科・血浄化センター業務の宿日直許可を取得した。

③ 本院に介護部を設立し、介護人材の育成、確保、統合の拠点化とした。初めて特定技能外国人を5名採用（ベトナム2名、ミャンマー3名）、2023年度の受け入れを目指し、ベトナムダナン大学と看護生インターンシッププログラム覚書にも調印した。

④ リクルートとして、医師は、本院に初めて、病理診断医1名、心療内科医1名、その他、家庭医療科医1名、金沢病院で人間ドックセンター医1名を採用した。外国人受入れが可能となり、介護の特定技能実習生、インドネシア6名採用した。中国人看護師は2名採用できた。

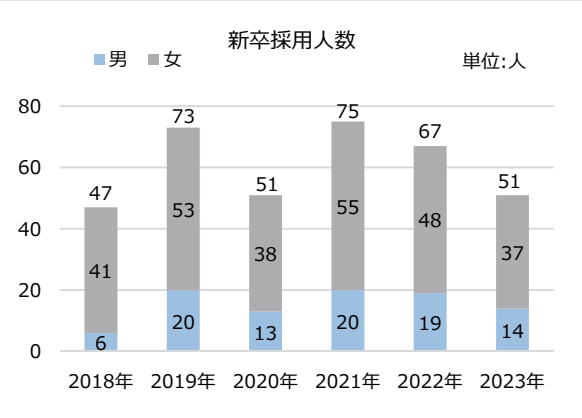
⑤ ホームページのリニューアル、プレスリリースを年で43回、新聞、ラジオ、TVでの広報活動を展開し、「七尾未来アワード」にエントリー最終選考に残り、賞も取得した。

## 総務部

■部長
松田 久良

**■2022年度のトピックス**

2023年新卒の採用実績は51名と昨年実績よりも減少した。採用活動の中心となる年度初めにコロナ感染症が再度蔓延したこともあって、苦戦した。しかし、採用の活動の幅を広げた結果、既卒者の採用も2名実現した。




■事業報告

① 産科・透析科の業務に限定して個別に宿日直許可申請を行い、許可を受けた。

② 新型コロナ対策として危険手当、入退院の効率化を目指したオーバーナイト手当、看護職等の地位向上のため処遇改善手当などの整備に努めた。また、インフレ進行から、職員の生活を守るため、次年度のベースアップや事務職資格手当新設などに備え、就業規則の改正を行った。

③ 新たに職場つみたてNISA制度を導入した。

④ 介護部設立やデータセンター創設など組織改編に対応して、組織規程の整備やシステム改編の対応を行った。

⑤ 董仙会のFM体制強化のため、総務部内に施設管理係を配置、新しい係長を採用した。

⑥ DX推進し、労働保険料申請、ストレスチェック、労務管理のオンライン化を実現した。文書管理のペーパレス化にも着手した。

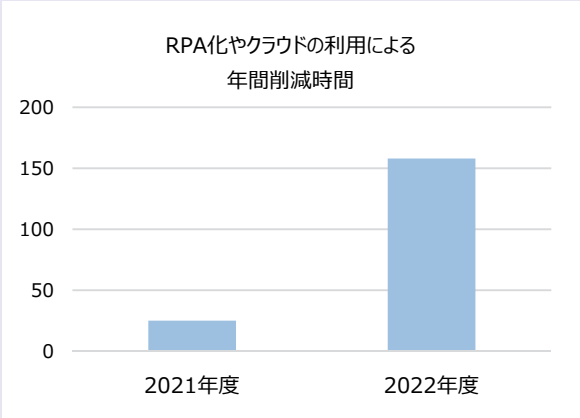
⑦ 人材の多様化の観点から、特定技能外国人を5名採用（ベトナム2名、ミャンマー3名）。次年度の受け入れを目指し、ベトナムダナン大学と看護生インターンシッププログラムの覚書にも調印した。

## 財務部

■部長
安井 智美

**■2022年度のトピックス**

業務の効率化・生産性の向上は、どの部門でも喫緊の課題である。ルーティン業務の「しくみ」を見直し、RPA化やクラウドの利用を進めることにより作業時間の削減を図った。




■事業報告

① 医薬品SPD業務の新委託先への移行について、各所との調整など支援を行いスムーズに移行を完了する事ができた。引き続き委託先との窓口として良好な関係を維持できるようにサポートを続ける。

② 財務部の基幹業務ソフトをクラウド化した事により、資財課では物品の検収業務にもソフトを活用し、作業時間の短縮など業務の効率化を図った。同時にMicrosoftのTeams利用を拡大し、資料の共同編集作業による効率化と情報共有、業務負担の軽減につなげた。

③ コロナ禍の影響で延期されていた、恵寿総合病院の副医局並びに副病院長室の改修工事が実施され、それに伴い全面的な什器の入れ替えを行った。

④ 経理課では業務のRPA化を進め、計4体稼働している。RPAの検討は業務の棚卸しにもつながるため、今後も積極的に取り組んでいきたい。

⑤ 各種補助金の獲得に向けて情報収集を行い、省エネ対策の補助金や物価（光熱費）高騰に対する補助金などの申請を行った。また、介護施設のコロナ陽性者施設内療養に関する補助金申請についても取り纏めて申請を行った。

## 財務部 経理課

■課長
河合 隆志

**■2022年度のトピックス**

・物価（水道光熱費）高騰対策関連補助金獲得

| 市町村別 | 獲得件数 |
|---|---|
| 穴水町 | 1件 |
| 金沢市 | 1件 |
| 中能登町 | 3件 |
| 合 計 | 5件 |

■事業報告

① 水道光熱費高騰対策として3市町村合計5件の補助金を獲得した。また、法人として北陸電力節電キャンペーンに参画し、特典金額を獲得した。

② 改正電子帳簿保存法対応の準備として、電子取引とスキャナ保存のワークフローを構築した。

③ RPAを4体稼働させた。（2021年度1業務+2022年度新規3業務）

## 財務部 資財課

■課長
池岡 一彦

**■2022年度のトピックス**

本院医局改修準備期間(2022/12/15～2023/02/12)
工事期間(2023/02/13～2023/03/14)

| | |
|---|---|
| 荷物減量指定 | 仮医局1、外部倉庫3箱分の段ボールと指定 |
| 仮医局設置 | 私物棚設置・什器レンタル・ネットワーク整備 |
| 私物保管 | 外部倉庫へ棚設置、段ボール保管 |
| 定例改修会議 | 1回/1～2週、計9回実施 |
| | 本院関係者・大成有楽・ITOKI・丸菱・ほくつう・北研エンジニアリング |

■事業報告

① 業務ソフトをクラウド型へ移行、WEBカメラ、Teams等も活用し、業務時間削減と業務負担軽減を実現。

② 病院へ導入：本院産科病棟へ新型黄疸光線療法器、金沢病院へマンモグラフィー装置・下部消化管ファイバー、心電図モニタ16台総入れ替え

③ 介護施設へ導入：移乗支援ロボットHug、全身運動トレーニング機器クロスステップ、昇降式サンディングボード

## 企画部

■常務理事
神野 厚美

■部長
進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**

能登地区や七尾市に元気を与え、社会や地域に寄与する優れた活動を表彰する「七尾未来アワード」に、『人生100年時代 Foot活プロジェクト～子どもから大人まで～』でエントリーした。ファイナリスト10組に選ばれ、Foot活プロジェクトの活動や今後実施していきたいイベントについて最終選考会で発表した。結果、会場投票で1番共感を集めた発表として会場共感賞を受賞した。

| 企画部の主な活動 | |
|---|---|
| 発表 | 七尾未来アワード『人生100年時代 Foot活プロジェクト～子どもから大人まで～』 |
| 制作物 | 業績集、広報誌（4,000部/年4回発行）、リクルートブック（全11職種）、恵寿まるわかりブック、検査説明用パンフレット・動画など |
| メディア出演 | ラジオななお（年50回放送）、エフエム石川・金沢ケーブルとFoot活プロジェクトコラボ企画実施 |

■事業報告

① マスコミ向けのプレスリリースを年間で43回行い、新聞掲載やテレビ放映を通じて、董仙会のPRに繋げた。

② エフエム石川・金沢ケーブルと「健康UP!ACADEMY～歩くチカラをプレゼント～」を企画し、ケーブルテレビやラジオで放送した。

③ 2021年度の業績集を作成し、6月中旬に配布した。

④ 恵寿まるわかりブック（恵寿総合病院、恵寿金沢病院）を各病院の地域連携担当者の協力のもと作成し、連携医療機関への広報ツールとして配布した。

⑤ 地元の高校生に向けて、医療・介護の魅力を紹介するイベント「医療へのいざない」をオンラインで開催した。2つの高校から合計93名の参加があった。

⑥ 七尾まちあるきセンター、七尾市、ポニーキャニオンと共同企画した「君は放課後インソムニア複製原画展」を3月に開催した。原画と写真を見比べながら七尾市の風景が楽しめるように展示内容を工夫し、多くの方に見てもらうことができた。

⑦ 董仙会、恵寿総合病院、恵寿金沢病院のホームページをリニューアルするために、病院・施設の全部署から情報収集を行った。

## 情報部 情報管理課

■部長　　■課長
進藤 浩美　　小澤 竹夫

**■2022年度のトピックス**

| | |
|---|---|
| 全施設 | IT資産統合管理ソフト導入 |
| 恵寿総合病院 | 入退院支援システム<br>院内ネットワーク機器更改<br>ポケメド導入<br>予防接種システム導入<br>NewtonsMobile2導入<br>パソコン200台入替 |
| 病院・クリニック | 患者用Wi-Fiの構築 |
| 恵寿総合病院・鳩ヶ丘 | 検査・放射線機器接続 |

■事業報告

① 今年度は個人情報保護法の改正対応としてIT資産統合管理システムを導入し、情報システムのセキュリティ強度を高めた。

② 電子カルテのサブシステムとして入退院支援システム、ポケメド、予防接種システム、NewtonsMobile2を導入。

③ 患者用のWi-Fiを病院・クリニックに設置した。

## 生活未来部 生活未来課（めぐみ）

■部長　　■常務理事　　■本部長
安井 智美　　神野 厚美　　進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**

| めぐみニュース紹介内容 |
|---|
| 脳活アイス、家族介護用品支給事業 |
| 室内シューズ、歩行器 |
| Foot活サンダル、スリップオン、コンタクトレンズ |
| 車いす、手すり、かいごの相談室 |
| 福祉用具月間、らくらく点眼、シャワーチェア |
| 脳活アイス、薬用入浴剤、レッグウォーマー |
| 電動車いす・カート、段差昇降用手すり、おむつ支給券 |

■事業報告

① めぐみニュースの発行を通じて、めぐみの取り組みや取り扱い商品を、法人内外の各事業所並びに職員に周知し、利用促進を図っている。

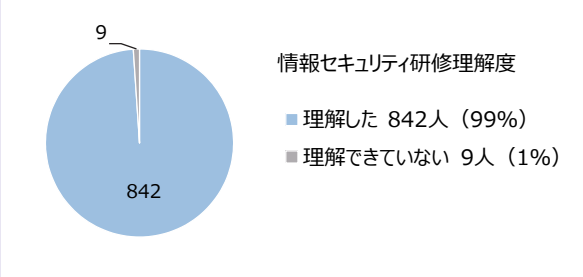
② 業務の効率化とトラブル防止のため、情報共有の方法を見直した。

事務管理統括部門
董仙会本部 委員会・プロジェクト

## 個人情報管理委員会

■委員長・個人情報保護管理者
進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① DARKTRACE社のセキュリティ診断を受けた。問題なし
② 董仙会プライバシーポリシーの見直しをした。
③ オンライン画像録画についてのルールを検討。
④ 「千年カルテ」事業における、委託業者への指導。
⑤ case study研修：USB紛失ヒヤリハット事例とその模範報告書での学び（USBを使用しない）
⑥ 情報セキュリティ研修：オンデマンド形式。851名受講

## 広報委員会

■委員長
進藤 浩美

■常務理事
神野 厚美

**■2022年度のトピックス**

エフエム石川・金沢ケーブルと「健康UP!ACADEMY～歩くチカラをプレゼント～」を企画し、Foot活についてPRした。

| | プロジェクト内容 |
|---|---|
| 制作物 | 広報誌、マンスリーレター、ホームページ、業績集、恵寿まるわかりブック、各種パンフレット・チラシ、動画 |
| メディア | ラジオななお、プレスリリース |
| 特別企画 | 金沢ケーブル・エフエム石川コラボ特別番組「健康UP!ACADEMY～歩くチカラをプレゼント～」 |

■事業報告

① 恵寿総合病院・恵寿金沢病院ホームページのリニューアルに向けて、委員会で進捗確認を行い、2023年4月に公開できるよう準備をすすめた。
② 年間でプレスリリースを43回行い、職員にもメール・ポータルで周知し、法人の活動について情報共有を行った。ラジオななお収録・放送を年間50回実施した。

## けいじゅFM委員会

■委員長

安井 智美

**■2022年度のトピックス**

石川県医療機関等省エネ投資緊急支援補助金について、補助対象の設備や規格、省エネ効果など厳しく設定されていたため、本院の照明器具LED化を中心に申請した。

| 種類 | 場所 |
|---|---|
| 非常灯・誘導灯LED | 3病棟全体 |
| 天井照明LED | 3病棟1～3階 |
| 天井照明LED | 5病棟3～4階 |
| 空調機 | 3病棟2階の一部病室 |

事業報告

① コロナ禍の影響で延期されてきた、本院の副病院長室、医局、医局更衣室の改修工事を実施した。

② 設備の老朽化が進んでいる恵寿金沢病院のGHP（電気設備）については調達の目途がつき、気温・天候の落ち着く2023年春の工事を予定すると同時に、不測の事態に対応できる体制も整えた。

## TQM委員会

■委員長

安井 智美

**■2022年度のトピックス**

テーマ『人を責めるな、しくみを責めろ』 優秀賞は以下の通り。

| |
|---|
| 2022年9月13日（火）、14日（水）、15日（木） |
| 1日目　恵寿金沢　臨床検査課、放射線課、人間ドックセンター、管理課 |
| 2日目　本院　医療安全管理部会、感染制御課 |
| 3日目　本院　サービス課 |
| 2023年3月11日（土）　場所：七尾市文化ホール（ハイブリッド） |
| セッション1　本院　入退院管理センター地域連携課 |
| セッション2　本院　入退院管理センター、看護部（6西・5-4・5-5・訪問看護） |
| セッション3　和光苑 |

■事業報告

① 前期の発表大会は、昨年度に引き続きオンラインによる平日の分散開催を実施した。

② 後期の発表大会は、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてきた事もあり、2年半ぶりにサンライフプラザでの現地開催を実施した。同時にZoomによる中継も行う、初めてのハイブリッド開催となった。

## 福利厚生委員会

■委員長

安井 智美

**■2022年度のトピックス**

職員の財産形成の研修を下記の通りオンラインで実施した。

| 日時 | 研修内容 |
|---|---|
| 12月15日 | 職場つみたてNISA説明会 |
| 12月29日 | DCオンラインセミナー　2023年はどんな年 |
| 3月1日 | DC新商品・アクティブファンド2銘柄追加 |
| 3月8日 | 4月給与から職場つみたてNISA開始 |

■事業報告

① 12月に例年通り「お楽しみ抽選会」を実施した。

② 中止したイベントは、けいじゅヘルスケアシステム大忘年会、七尾港まつり総踊り、ボーリング大会、ソフトバレーボール大会、ストレッチ教室である。

③ 企画部とのコラボで、一谷運動指導士による「メンタルに効く！呼吸法とマット運動」をYouTubeにアップした。

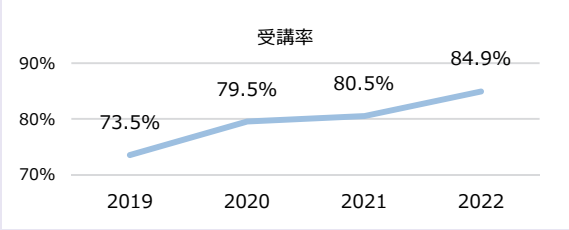
## キャリアデザインプロジェクト

■委員長

松田 久良

**■2022年度のトピックス**

E-Learning受講率は年々向上し、本年度は85%となった。




■事業報告

① E-Learningコンテンツは必要なものはアップデートし、特に「Teamsの基本操作」については、全面改定した。

② E-Learning受講率を人事評価項目に追加したことで、受講率が大きく改善した。

③ 新入職員フォローアップ研修のワークショップ研修において初めて外部教材を導入した。内容の充実とスタッフの業務負担軽減につながった。

## 健康委員会

■委員長
松田 久良

**■2022年度のトピックス**

健康経営優良法人2023（大規模部門、ホワイト500）に申請して6年連続認定を受けた。

2023
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

■事業報告

① けいじゅ健康保険組合とコラボ、運動習慣定着のため、石川県のウォーキングアプリを利用して1ヶ月の歩行歩数を職員で競う「チャレンジ10万歩」を企画し、実行した。
② 健保へのレセプト請求額が減少し、健康保険料引き下げ実現した。
③ 来年度のオプション検査の健保による半額補助も決定した。

## 給食戦略プロジェクト

■リーダー
神野 厚美

■副リーダー
進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**

美味しさの追求のため、様々な取り組みを実施した。

| 場所 | 内容 |
|---|---|
| 全施設 | はじめて創立記念日祝い膳 |
| | じゃがいも品質向上作戦（ゆでてから調理） |
| 恵寿総合病院<br>地元企業とコラボ | 産科病棟： トップ１さんのお弁当<br>シャトレーゼさんの糖質オフ菓子 |
| | 人間ドック： シャールベルベさんのサンドイッチ弁当 |

■事業報告

① (株)シダックスの事例動画で、当法人の給食が取り上げられ、全国発信となる。
② 健康経営としてのスマートミール更新認証を受けた。
③ お米などの食材費が値上がりした。
④ 本院職員食堂も新型コロナで食数が減ったのと重なり赤字が継続している。
⑤ 最低賃金が上がり、各病院、施設管理費を見直した。

## 病院・施設委員会

■委員長
吉田 茂和

**■2022年度のトピックス**

| 委員会で情報共有した主な内容 |
|---|
| 病院と各施設の稼働状況と、患者・利用者の動向 |
| 新型コロナウィルスの最新状況とその対応 |
| 各種マイスター研修（Foot活/おむつ/ノーリフト）の進捗 |
| オンライン「けいじゅ介護技能グランプリ」の開催 |
| 介護ロボットなどの導入効果と情報交換 |

■事業報告

① 各施設の感染予防対策などの情報共有
感染者状況の推移などを共有し、その最新対応策や応援体制・検査体制などの情報を共有した。
② 始業時体操の周知
職員の労働災害を未然に防ぐ目的などから、始業前に身体をほぐすため、簡単な体操を取り入れることとし、その必要性などについても情報共有・周知を行った。

## クリーン＆5Sプロジェクト

■リーダー
神野 厚美

■副リーダー
進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**

① 初めて　みんなで『わくわく草むしり』
(株)明祥裏の草むしりを、パートナー企業(株)明祥、(株)大成有楽不動産、(株)オリックスと職員で実施。
② ようやく　本院本館スタッフバックヤードの5S
本院介護部で、バックヤードの5Sのモデル病棟をつくり、平準化をはかった。

■事業報告

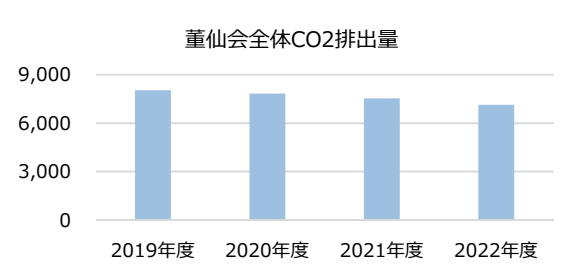
① 粗大ごみ回収年間計画、各部署5S支援計画を実施。
② (株)オリックスに介護事業所の清掃教室を本年も依頼。
③ 新型コロナ対応として、本院本館の換気・湿度のバランス不均衡によるカビ発生や介護施設での陽性者介護のため、感染性廃棄50箱/日の廃棄処理が必要だった。
④ 鶴友苑でトロミサーバーのコード小火あり、全施設、コンセントと延長コードを見直し、和光苑対応が必要だった。

## 地球温暖化

■エネルギー管理規格推進者

森下 毅

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 地球温暖化対策 夏・冬大作戦を指示した。

② 使用料を経理課が会議フォルダに毎月入力する仕組みとし、電気、重油等のエネルギー使用量を把握、削減できた。

③ ECOの補助金を使用したLED化も徐々に実施、CO2排出量は年々減少。エネルギー使用量は、県、中部経済産業局、東海北陸厚生局に報告している。

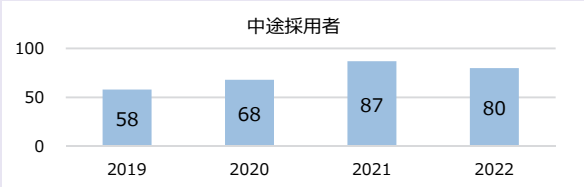
## リクルートプロジェクト

■リーダー

松田 久良

**■2022年度のトピックス**

ジョブシェア、ジョブタスクシフト強化のため、職能を限定した職種の採用に注力した。




■事業報告

① 家庭医療科医1名、心療内科医1名、病理診断医1名を採用した。

② 毎週リクルート会議を開催し、各部署の適正人員配置に努めた。

③ 内定者の就職に必要な提出書類を電子クラウド化し、雇用条件通知書もペーパーレス化実現し、正確性の確保と職員の事務負担軽減を図った。

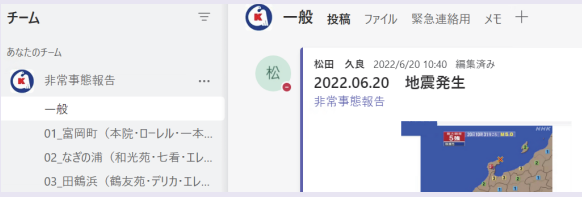
## BCMプロジェクト

■リーダー

松田 久良

**■2022年度のトピックス**

Teams「非常事態報告」を立ち上げ、本格運用開始、有事の報告体制を確立した。




■事業報告

① 職員全員にマイクロソフトアカウントを付与することにより、画像データを利用したビジュアルによる報告、共有体制が可能となった。

② 多数の職員を管理するためにパワーオートメイトを積極的に活用し、正確性、効率化を確保している。

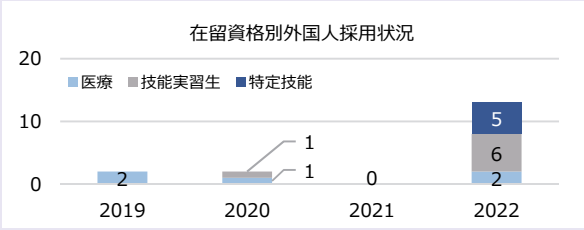
## 外国人職員受け入れプロジェクト

■リーダー

松田 久良

**■2022年度のトピックス**

前年度コロナ対策で受入不能だったが、本年度は復活した。




■事業報告

① 前年度はコロナ対策で外国人受入不能であったが、本年度は緩和され、合計13名の外国人を採用した。

② 今年度は新たに特定技能外国人も5名採用した。

③ 国別では中国2名、インドネシア6名、ミャンマー3名、ベトナム2名。

④ 次年度はベトナムダナン大学と連携しインターンシップ看護学生を受け入れ予定。

# タスクフォース

■常務理事　■理事長補佐　■本部長

神野 厚美　神野 正隆　進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**

今年動いたタスクフォース

| | |
|---|---|
| 理事長補佐 | データ経営・金沢病院収益改善 |
| 常務理事・本部長 | カルテコの普及推進 |
| | ベンリー事業対策 |
| | RPA推進チーム |
| | ダナン大学プロジェクト |
| | 金沢病院移転新築 |
| 総務部長 | BCM |
| | 外国人職員受入れプロジェクト |
| 介護部門長 | 近未来型 通所創造プロジェクト |
| | 介護ロボット導入・定着プロジェクト |

■事業報告

① 様々なデータを用いて経営の可視化が図られ、経営力強化に繋がった（データ経営）。

② 新金沢病院構想として、収益改善を図り、移転先土地取得を図った。

③ ベトナムダナン大学とインターンシップ協定を結び、優秀な外国人採用を計画する。

④ 外国人介護職員は、10名となった。

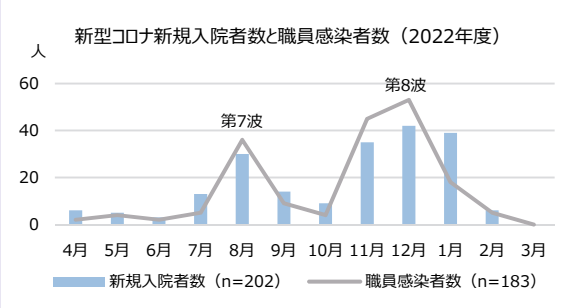
医療事業統括部門
恵寿総合病院

# 恵寿総合病院

■病院長
鎌田 徹

**■2022年度のトピックス**

新型コロナウイルス感染症、第7波と第8波への対応が最大の課題であった。それぞれの流行波では新規入院患者数と職員感染者数がほぼ同数であり、業務負荷とスタッフ不足が深刻であった。全期間で全館面会禁止を継続したが、8月、11月、12月、1月に院内クラスター的感染を経験した。4月に入退院管理センターを設立した。9月には介護部を設立し、治療の一助を担う部署として確立した。




■事業報告

① 新型コロナ対応について
4月に重点医療機関となった。また診療・検査医療機関としての入院及び外来業務、小児を含む新型コロナワクチン接種などの新型コロナ対応を継続した。

② 入院・外来等について（↑：前年比上昇、↓：同低下）
重要な入院指標である病床稼働率、平均在院日数、看護必要度はそれぞれ76.7％↓、11.1日↓、28.9％↓であった。その他救急車受入台数、入院患者数、全身麻酔件数は1,697台↑、6,487人↑、932件↑であった。また地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟、障害者病棟の稼働率はそれぞれ88.6％↑、91.9％↑、80.1％↓であった。紹介率・逆紹介率はそれぞれ64.7％↓、74.1％↓であった。地域医療支援病院として、能登地域の他医療機関で眼科、脳外科、糖尿病、循環器などの専門医が診療を継続した。

③ 教育・業務改善などについて
看護師特定行為研修・救急事例検討会・研修医および専攻医の臨床研修・オープンカンファレンス・オンライン診療・アシストクルー採用・RPAを継続した。2月には病院機能評価3rdGVer2.0を受審と本格的な防災訓練を行った。

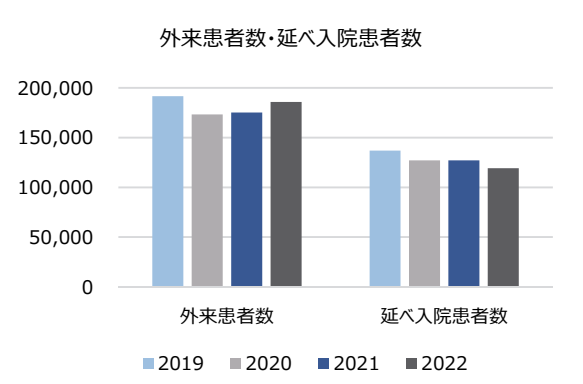
## 診療部

■診療部長
西澤 永晃

■副部長
森永 敏生（医局長）、伊達岡 要、山村 健太

**■2022年度のトピックス**

地域医療支援病院として、連携機関との患者情報共有により密接な医療連携を継続している。新型コロナウイルス感染者の急激な増加傾向の中で、通常診療に加え、2月に全部署協力の元、病院機能評価訪問審査を受審し、更新することができた。




■事業報告

① 地域医療支援病院として、連携機関との患者情報共有（72時間以内の返書作成、逆紹介・二人主治医性の推進）により密接な医療連携を継続した。

② 新型コロナウイルス感染流行の中、一般病棟への感染症持ち込みを防ぎながら、発熱外来の継続及び新型コロナ陽性患者の入院受け入れを積極的に行った。また、全診療科協力の元、新型コロナワクチン接種を継続して行った。

③ 新型コロナウイルス感染者の急激な増加傾向の中で、通常診療に加え、2022年度2月に全部署協力の元、病院機能評価訪問審査を受審、更新することができた。

④ 2023年4月から導入されるiPhoneによるモバイルカルテ（NewtonsMobile2）に向けて準備を行った。

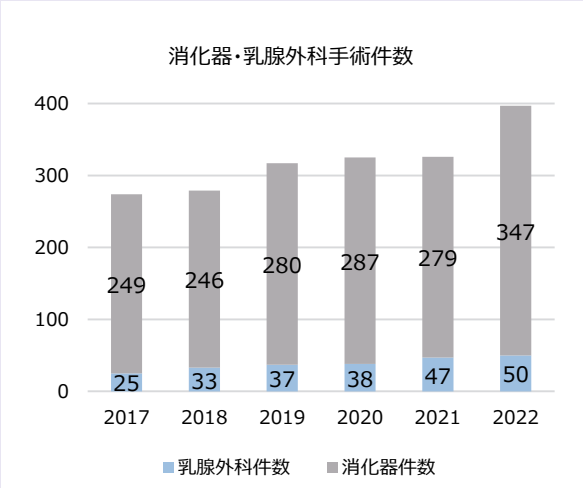
⑤ 総外来患者数・初診患者数は新型コロナ感染症発生前（2019年度）に近い水準に回復している。在院患者数は減少傾向であったが、新入院患者数は、新型コロナ感染症発生前（2019年度）を上回った。
新入院患者数:6,393→5,678→5,694→6,487
在院患者数:13.7万→12.7万→12.7万→11.9万
外来患者数:19.1万→17.4万→17.8万→18.6万

## 消化器外科

■所属医師
能登 正浩、久野 貴広、三田 和芳

**■2022年度のトピックス**

手術件数は昨年度と比べ大幅に増加した。緊急手術も年々増加している。




■事業報告

① 胃癌・大腸癌手術や胆のう・ヘルニア手術など外科の主な手術すべてにおいて件数が増加している。特に、胆のう手術は昨年度比132%、大腸癌手術は昨年度比137%の件数となった。

② いずれの手術においても、平均手術時間は短縮し、入院期間も短縮している。胃癌症例の場合、平均手術時間は71分短縮、平均在院日数は12.9日短縮した。

③ 時間外の手術時間は、前年度145時間から今年度111時間と、34時間分の大幅短縮となった。特に17時以降開始の手術は昨年度より30時間以上短縮した。

④ 今年度より医師1名が乳腺外科専任となったため、3名でチーム診療を行った。

⑤ 今後は手術手技の定型化を進め、手技の安定、時間短縮を目指していく。最適な診療を提供すべく、消化器内科との連携強化を図る。

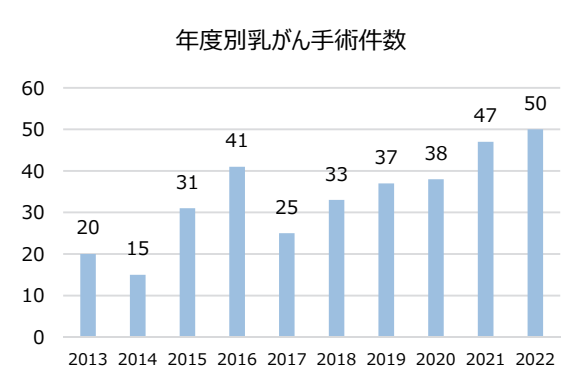
## 乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹、髙井 優輝

**■2022年度のトピックス**

2016年度から当院外科において乳腺外科を専門科として独立し診療を行ってきた。また、本年度より2人体制となり、更に乳腺診療が充実されることとなった。乳癌手術件数も年々増加しており、本年度は50例に達し、それに伴い化学療法症例も増えている。




■事業報告

① 2017年以降、年々乳癌手術件数は増加しており、それに伴い術後放射線治療件数、化学療法導入症例数が増えている。紹介や逆紹介を通じて、また患者の評判などにより、当科に対する能登地区での信頼と期待が大きくなってきていると考える。今年度より乳腺科医師が増員となり、外来は二人体制で診療を行っている。これにより患者の受け入れがより拡充できるものと思われる。

② マンモグラフィー撮影では技術認定を取得した女性放射線技師の存在やトモシンセシス撮影装置など環境設備も整っており、今後はより一層の診療の充実を図りたい。

③ 金沢大学附属病院や金沢医科大学病院の乳腺外科と連携を行い、患者ニーズに応じた医療（治療法）の提供を行っている。

④ 乳腺領域での治療法（薬物療法や術式など）の変遷は他の外科領域に比べかなり速く、診療の質（標準とされる治療）を維持することが難しい。これまでは学会や講演会に足を運ぶのも七尾からでは不便であった。しかし昨今はweb講演会が頻繁に行われており、七尾に居ながらにして日々、診療をupdateしていくことが可能となり、積極的に参加している。

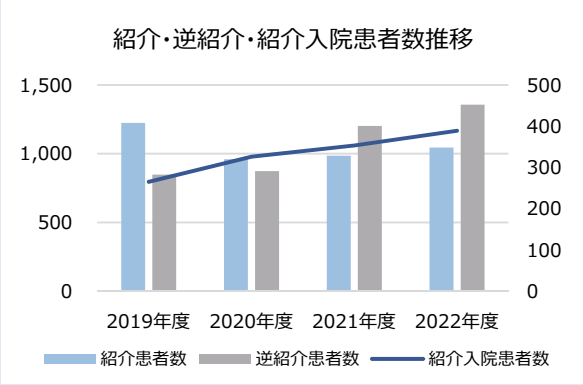
## 内科

■所属医師

宮本 正治、山﨑 雅英、山村 健太、岡田 圭一郎、中川 紀温、熊野 奨、藤井 愛、豊田 洋平、松田 康彦、辻 徹朗、佐久間 愛美

**■2022年度のトピックス**

専門性の高い診療を維持発展しつつ、新型コロナウイルス感染症対応として、発熱外来対応・陽性者入院主治医の主体を担った。連携医療機関との連絡を密にすることで、紹介・逆紹介患者・紹介入院患者、延べ外来患者数、初診患者数、新入院患者数が増加した。




■事業報告

① 新型コロナ感染症対応として、家庭医療科と協力し、発熱外来の実施、新型コロナ感染患者の入院治療を行った。

② 各臓器別内科責任者と分担して連携医療機関を訪問し、ご希望を聞き、直接顔の見える関係を構築した。

③ その結果、逆紹介患者数、紹介入院患者数は2019年度から2022年度にかけて順調に増加した。
逆紹介患者数：848→873→1,202→1,357
紹介入院患者数：265→326→353→389

④ 総外来患者数、新入院患者数も新型コロナ感染による2020年度の落ち込みから回復した。総外来患者数：34,631→29,924→33,939→36,624
新入院患者数：1,708→1,424→1,471→1,704

⑤ 一方で急性期病院として入退院支援を充実することにより、延べ入院患者数は減少した。
（41,134→34,929→36,843→36,249）

⑥ 初診患者数は発熱外来の開始もあり、激増した。
（1,983→1,128→1,530→3,585）

⑦ 同時に金沢大学附属病院、金沢医科大学病院と連携し、専門性の高い診療を維持発展させている。

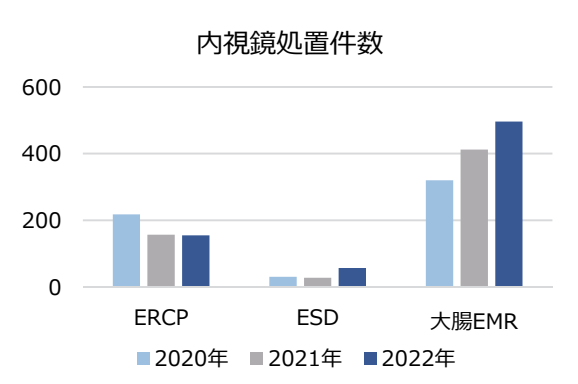
## 消化器内科

■所属医師

神野 正隆、守護 晴彦、藤原 秀、大溝 知英

**■2022年度のトピックス**

内視鏡総件数が9,000件を超え、 ESD件数は約60件、大腸EMR件数は約500件と新型コロナウイルス感染症による受診抑制の解除の影響かここ数年では最も多い内視鏡検査・治療件数となった。また紹介数は712件、逆紹介数は1,055件と年々増加しており、特に逆紹介に注力している。




■事業報告

① 健診における内視鏡検査のニーズに応え、健診内視鏡の受入れ件数を増加させ、また当日内視鏡も検査数の制限を設けず、内視鏡検査数の増加を図った。結果、総件数は9,141件と9,000件を超えた。

② 内視鏡治療は引き続き24時間365日体制で能登北部・中部医療圏の連携医療機関からのご紹介に即対応し速やかに治療まで行った。当科への紹介お断り件数は0であった。ERCPは155件と横ばいであったが、ESDは57件、大腸EMRは499件と件数増となった。

③ クリニカルパスにおいては、既存パスの見直しおよび新規パスの作成を行い、パス利用率は年間を通してほぼ100%で推移した。治療の標準化、医師・看護師・メディカルスタッフの業務負担軽減、生産性・効率性UPに寄与した。

④ 共同購入品を積極的に使用しコスト意識を持ちつつ、その中でより良い処置デバイスを用い、内視鏡処置完遂率も100%に近い成績であった。

⑤ データ分析（自病院分析・ベンチマーク分析等）結果を踏まえ、最適治療を心掛け、指標（平均在院日数や1日単価等）の改善を行った。

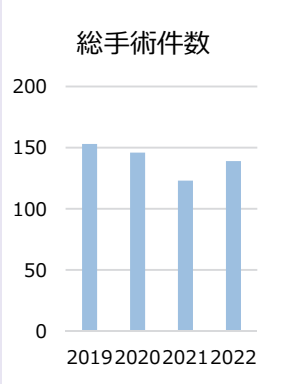
## 心臓血管外科

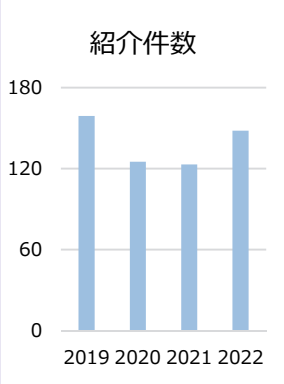
■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

**■2022年度のトピックス**

コロナ禍3年目として、待機開心術がストップした状態が続いたものの、心臓大血管手術の適応患者は、金沢医科大学心臓血管外科と連携している。下肢静脈瘤・透析関連の手術件数は回復傾向であった。外来患者数は減少傾向であったが、紹介患者数は徐々に回復している。




■事業報告

① 2022年度は講演会活動等ができなかったが、ハートセンターとして循環器内科と合同で、中能登・奥能登地域の医療機関と連携を深めるため、継続的に市民公開セミナー及び連携医療機関での講演会を行っていく。

② コロナ禍によること、高齢化率の上昇と人口減少地域であること、開心術がストップしたことを考慮すると手術件数減少の状態であるが、末梢動脈疾患・静脈瘤手術・シャント関連手術の増加により、2021年度より、手術件数は回復している。能登地域の公立病院でシャントトラブルの受け入れ等が開始となった。

③ 下肢静脈瘤手術では、レーザー治療に加えて、大伏在静脈硬化療法の新たな導入により、2023年度は手術件数増加が見込まれる。2021年度より重症下肢虚血に対して足関節近位の末梢バイパスを開始したが、開存性50%である。

④ 循環器疾患の診療件数の底上げになるように、能登地域で唯一循環器内科との協力体制で心臓血管手術ができる施設であることをアピールする。奥能登地域への出張外来が2022年度で4か所に減ったものの、引き続き連携を継続する。

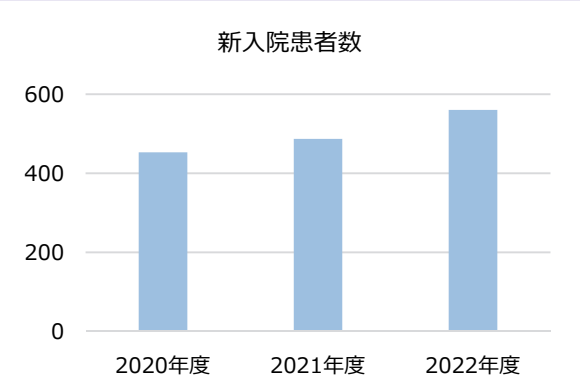
## 循環器内科

■所属医師

金田 朋也、真弓 卓也、末松 哲郎

**■2022年度のトピックス**

日本循環器学会専門医が１名増え、全員が有資格者となった。新入院患者数は増加傾向にある。




■事業報告

① 外来患者数：7,924人（前年比：104.1%）
初診外来患者数：256人（前年比：96.6%）
延べ入院患者数：8,033人（前年比：92.1%）
新入院患者数：560人（前年比：114.9%）

② 治療分野の特化と集中、コスト削減のため、不整脈のカテーテルアブレーション治療から撤退した。

③ 患者の高齢化を踏まえ、患者のアウトカムに影響しない高リスクな手術を控え、薬物治療を強化し、安全で最適な治療を追求した。このため手術件数は前年比74.5%に著減した。

④ 一方で心不全患者が増加したため、新入院患者数はむしろ増加した。退院後、当院の外来に通院する患者が増加し、外来患者数が増加した。

⑤ 以上の結果、患者の再入院が減少し、延べ入院患者数が減少した。

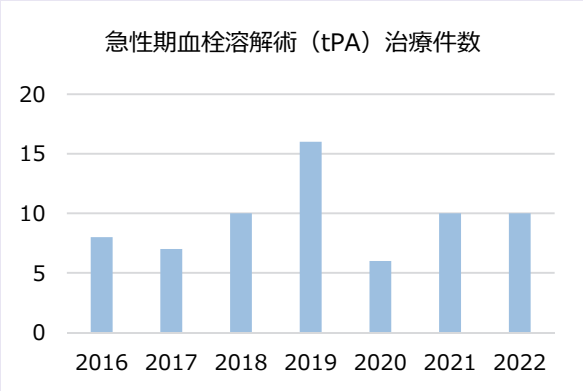
## 脳神経外科

■所属医師

岡田 由恵、東 壮太郎

**■2022年度のトピックス**

脳神経内科常勤医不在となったため、脳神経関係の急患に対しては全て脳神経外科で対応した。公立能登総合病院脳神経外科との連携を更に緊密にし、ベストな治療を提供すべく、血栓回収術や開頭手術が必要な症例の転院搬送ならびに、治療後の速やかな転院受け入れを実施した。




■事業報告

① 2022年診療実績
新入院患者数：181人
手術件数：11件（慢性硬膜下血腫11例）(ここ数年横ばい)
tPA症例：延べ10件 (ここ数年横ばい)

② 入院患者数は30人前後を推移している。

③ 地域医療構想の方針にのっとり、地域医療支援病院として、能登総合病院脳神経外科での超急性期治療終了後の転院依頼に対し、回復期リハビリ病棟に即座に受け入れられない症例を迅速に受け入れている。

④ 毎週木曜にHCUにて、ストロークユニットフィルムカンファレンスを行っている。医師、看護師、リハビリ療法士、研修医等、多職種で症例の病態の理解を深め、情報を共有するとともに、画像を読影する力を深めるために役立てている。

⑤ 緊急手術が必要な症例に関しては、公立能登総合病院、金沢大学病院、県立中央病院、等と連携し、迅速に対応できる体制をとっている。

⑥ 脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤等で、高度な治療が必要な症例に関しては、金沢大学脳神経外科と連携して対応している。

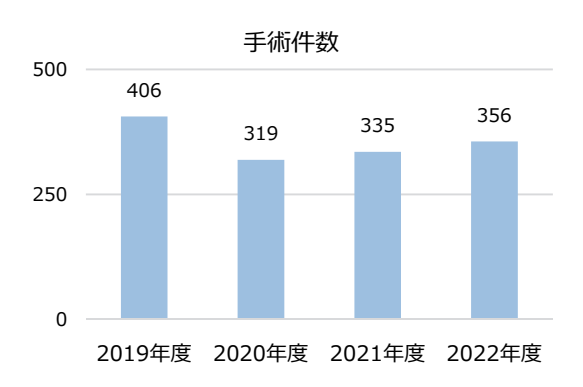
## 整形外科

■所属医師

森永 敏生、阿部 健作、藤丸 直弥

**■2022年度のトピックス**

手術は昨年同様、変形性膝関節症に対する人工関節置換術、骨切り術、関節鏡視下手術に力を入れた。また大腿骨近位部骨折に対し、可及的早期に手術を行うように努力した。手術件数、手術関連項目算定金額とも、コロナ前の水準に戻りつつある。




■事業報告

① 初診患者数は昨年より3人（0.4%）減とほぼ同数で推移した。新入院数、延べ入院数とも昨年より減少したにもかかわらず単価の高い大きな手術に取り組んだため、昨年比0.4%減、一昨年比7.2%増の結果となった。入院診療をメインで行う病院として、ある意味望ましい形に近づいたと言える。

② 毎朝医師3人でカンファレンスを実施、また週に1回は看護師、PT、OT、MSWと合同カンファレンスを実施している。患者の情報をチームで共有するとともに、良質で適切な治療を提供できるように努力を継続している。

③ 骨粗鬆症リエゾンチームでの活動を継続している。今年度より、この二次骨折予防活動に対して保険点数が算定できるようになった。実際にどの程度骨折予防効果があったのかを検証し、リエゾン活動の更なる充実化をはかりたい。大腿骨近位部骨折のみならず、他部位の脆弱性骨折患者にも対象を拡大し、二次骨折予防に努めたい。

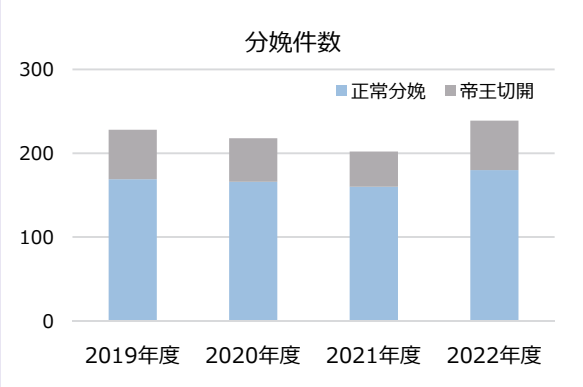
## 産婦人科

■事業報告

新井 隆成、安田 豊、宮田 康一

**■2022年度のトピックス**

2019年度と比較して、産婦人科収益は増加安定の状況にある。特に婦人科主要三手術を中心にした診療の安定的な収益が好結果に結びついている。また、人口減少に伴う分娩数の現象は下げ止まりの様相であり、安全な分娩管理への取り組みが産婦人科診療の好結果に結びついている。




■事業報告

① 産科におけるハイリスク妊婦へのスクリーニング検査・精査の充実、自然妊娠を目指す女性に寄り添う診療、事故のないハイリスク妊娠・分娩管理の推進により、産科診療実績が好結果につながった。

② 婦人科主要三手術の増加、子宮鏡下手術の増加が認められた。後者に関連した帝王切開後の合併症に対するスクリーニングや精査、そして治療体制が整い、当院の女性診療の専門的な領域として定着した。これらは、安全な産科医療の提供という医療サービスにつながるものであり、当院の強みとして、より発展を目指していきたい。そのことによって能登地域の女性の健康に継続的に寄与できるものと期待する。

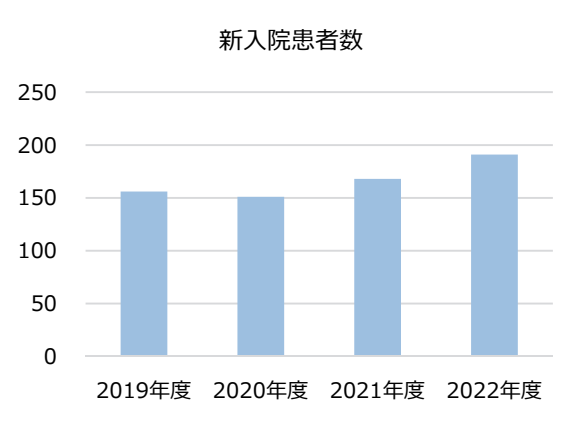
## 総合診療科（家庭医療）

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、上田 一輝

**■2022年度のトピックス**

新入院患者が増加した。その内、急性期病棟における患者数が増加している。これまで通り、レスパイト入院も積極的に受け入れており、当院のレスパイト入院件数の62%が家庭医療科で占めている。




■事業報告

① 新入院患者数は過去4年で最多、延べ入院患者数もコロナ禍前の件数の水準に回復した。

② 主な疾患は、誤嚥性肺炎、腎・尿路感染症であった。在宅あるいは施設への復帰に向けた早期からの対応を心がけており、急性期病棟における平均在院日数は短縮傾向である。

③ レスパイト入院も積極的に受け入れている。件数は前年度より減少した。

④ 紹介件数が増加し、それに伴う入院件数も増加した。他院からのリハビリ目的の紹介に対しても、リハビリテーション科や脳神経外科のバックアップを行っており、地域の回復期リハビリ機能の体制強化にも関与している。

⑤ 積極的に逆紹介を行っている。

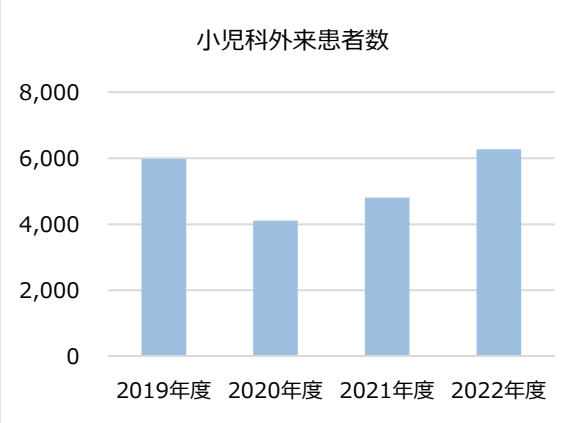
## 小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、清水 一秀

**■2022年度のトピックス**

2022年はコロナ感染の流行に伴い当科発熱外来を受診する患者が、2021年に比して約3倍増加した。そのため年間外来受診数も2021年に比して約1.3倍増加した。外来受診者の増加に伴い、延入院患者数も1.25倍増加した。




■事業報告

① 外来患者数は、2021年に比して1.3倍増加し、2019年のコロナ前の水準に戻ったが、専門外来受診者数は堅調で微増に推移した。発熱外来受診者の大幅増（特に新患者数の増加）が外来患者数の増加に寄与している。

② 予防接種受診者数は、インフルエンザ予防接種数の減少で2割ほど減少しており今後の課題である。

③ 入院患者数は、2021年に比して1.2倍増加したが、新生児入院は増加しておらず、発熱外来受診者の増加に伴う一般小児の入院の増加が目立っている。

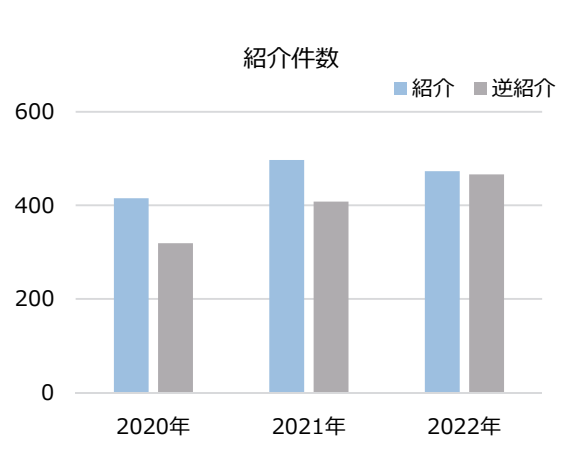
④ 紹介患者数は、2021年に比して0.9倍と微減だが、後半は増加傾向にあり、今後は関連病院との連携を強化して紹介者数の増加に繋げていきたいと考えている。

## 眼科

■所属医師
馬渡 嘉郎

**■2022年度のトピックス**

紹介件数は昨年度の水準を維持、逆紹介件数は昨年度の件数を上回った。他の医療機関との連携を大切にしながら、外来・入院体制の維持を継続して行っていく。




■事業報告

① 連携医療機関の先生方の期待に沿えるよう、最新の知見に基づいた治療の選択肢を提供できるように努力したい。

② 白内障を中心に硝子体、眼瞼、緑内障の手術を提供している。ご高齢の方に耐えうる低侵襲の最新の手技を心掛けている。

③ 外来診療では特に緑内障の薬物治療の方法論にこだわり、患者負担の少ない投薬、通院の仕方を提供できたらよいと考えている。

④ 眼科スリットランプ用カメラシステムを導入し、鮮明に撮影できるカメラで分かりやすい説明が可能となった。

⑤ 手術用顕微鏡の更新やパルスレーザー手術装置の導入など、質の高い手術を提供できるよう設備環境を整えた。白内障の手術機器についても来年度の更新を予定している。

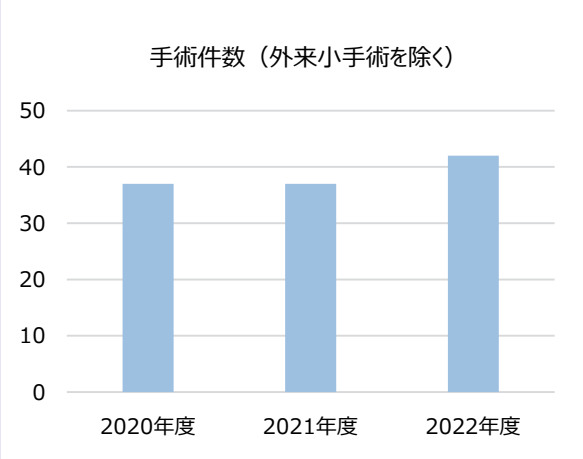
⑥ 働き方改革に留意した仕事の進め方に注力したい。

## 耳鼻咽喉科

■所属医師
山田 和宏

**■2022年度のトピックス**

手術件数（外来小手術を除く）は、例年と同等の件数であった。




■事業報告

① 2022年度
外来患者数：4,767名
初診患者数：307名
新入院患者数：73名
手術件数：112件

② 新入院患者数が増加した。
69名（2020年度）→72名（2021年度）→73名（2022年度）

③ アレルギー性鼻炎の患者様に対し、内服薬や点鼻薬といった保存的治療以外に、外来日帰り手術の下甲介粘膜焼灼術（アルゴンプラズマ凝固）も提案し、治療の選択の幅を広げている。

④ わかりづらい耳鼻咽喉科の疾患について、患者さんに十分に理解していただけるよう、耳・鼻・咽喉頭の解剖の図や模型を用いるなどして丁寧な説明を心がけた。

⑤ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

## 麻酔科

■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦

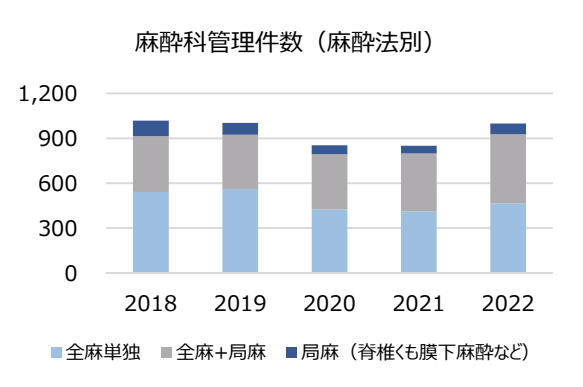
**■2022年度のトピックス**

麻酔科管理件数は増加し、新型コロナウイルス感染拡大以前の数値まで、回復した。

①麻酔科管理手術件数　999件（前年度846件）

②総麻酔管理時間　2,940時間（前年度2,701時間）

③緊急手術割合　36%（前年度32%）




■事業報告

① 麻酔科管理件数 999件

前年度比増加した。新型コロナウイルス感染拡大以前の数値まで、回復した。

② 総麻酔時間 2,940時間

件数の増加に従い時間数も増加した。内視鏡手術など高度で長時間の手術も増えてきている。

③ 緊急手術割合 36%

36%と高い割合を維持している。2名の麻酔科医を有効に配置し、緊急手術に対応した。また、夜間休日の拘束体制を維持した。

④ 無痛分娩取扱数

前年度比横ばいの総分娩数の18%を取り扱った。他院からの紹介や遠方よりの受診も見受けられるようになった。出産数が減少傾向のなか、当院の分娩数は増加しており、今後も母体管理体制を整え安全性と質を高め、より潜在的ニーズを拾い上げていきたい。

⑤ 緩和ケアチーム対応患者数

前年度比大幅に増加した。これからも、多職種や在宅医療と協力ししながら、患者さんが少しでも満足できるよう質の高い対応をしていく。

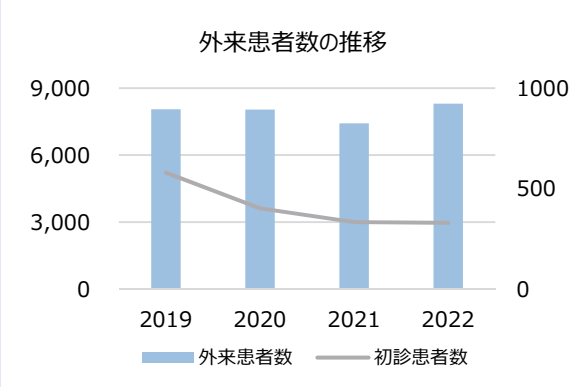
## 皮膚科

■所属医師

二ツ谷 剛俊

**■2022年度のトピックス**

外来での新規の取り組みとして、帯状疱疹の診断のための抗原検査キットを導入した。外来では総外来患者数が約8,000人、新入院患者数が約80人、新規院内紹介患者数が約1,200人となった。入院患者数はコロナ感染症流行前の2019年と比較しても多くなった。




■事業報告

① 患者ニーズにこたえ、帯状疱疹、蜂窩織炎に加えて、様々な疾患の治療を入院で行うこととし、新入院患者数の増加に寄与した。

② クリニカルパスの見直し（蜂窩織炎、帯状疱疹パスの見直し、入院時パス、円形脱毛症のパルス療法）を行い、パス利用率は皮膚科として100%となっている。

③ 診療での新たな取り組みとして、真菌検査時の培養検査、帯状疱疹では抗原検査キットを使用して、患者自身が視覚的に治療の開始に納得いただける検査法を導入した。

④ 新規病棟対診として約1,200件の依頼を受けることとなった。褥瘡などについては対診書なしでの診察を行い、看護師、入院主治医の業務負担軽減に取り組んだ。

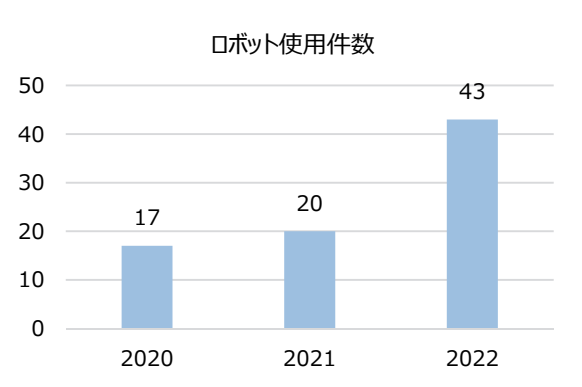
## リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、伊達岡 要

**■2022年度のトピックス**

新しい脳科学に基づく治療をニューロリハという。当院では、麻痺筋の緊張を和らげるボツリヌス治療や新しい電気刺激装置に加え、リハビリロボットを導入し、回復期リハ患者に使用している。2022年は上肢のリハロボットが加わり、リハロボット使用が増加した。




■事業報告

① 入院患者のリハ施行率、リハ処方数は年々増加しており、今年度は入院患者の平均72%実施率となり、年3,400件のリハ処方をおこなった。

② 回復期リハ病棟への紹介入院数は次第に増加しており、今年度は82例となった。また転院依頼から転院までの期間を短縮する努力を行った結果、平均18日であったものが平均8日となった。

③ ボツリヌス治療患者は年々増加しており、回復期での施注も7例あった。また今年度からボトックスに加えゼオマインの使用が可能となり、十分量の注射がしやすくなった。その結果、年間施行回数は90回となり、注射後2週間の入院リハビリも9名に実施した。

④ 認知症ケア回診は毎週継続しており、月に平均9名の回診を行い、月1回症例検討会も実施した。

⑤ 訪問リハ実施件数も次第に増加傾向であるが、今年度は月平均817件施行した。

⑥ 専門資格取得・学会発表・論文発表もコロナ以降今年度は増加し、それぞれ27・29・5件であった。

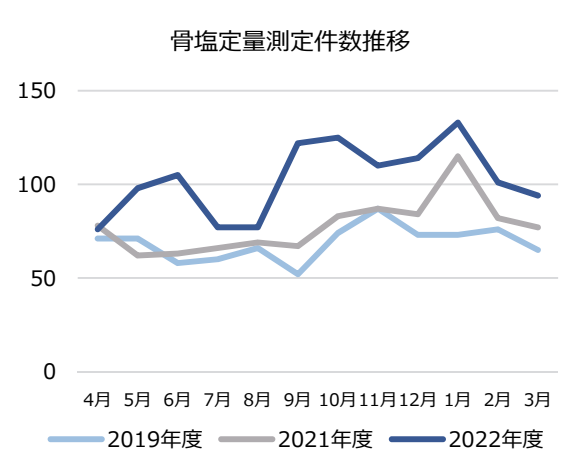
## 放射線科

■所属医師

角 弘諭

**■2022年度のトピックス**

整形外科や健診での骨塩定量測定の検査依頼が増え、検査件数が大幅に増加した。




■事業報告

① 2022年度診療実績

腹部血管塞栓術件数：33件（前年比71.7%）

CTガイド下生検、CTガイド下ドレナージ件数：24件（前年比49.0%）

CT件数：15,077件（前年比83.4%）

MRI件数：4,207件（前年比96.5%）

マンモグラフィ件数：2,964件（前年比105.0%）

骨塩量測定件数：1,232件（前年比132.0%）

健診胃透視件数：719件（前年比89.9%）

共同利用件数：387件（前年比116.2%）

（CT:163件/MRI:121件/PET-CT:103件）

② CT装置1台をAquilion Prime SP（CANON）に更新し、10月より稼働した。

③ 共同利用件数（CT/MRI/PET-CT）が増加した。

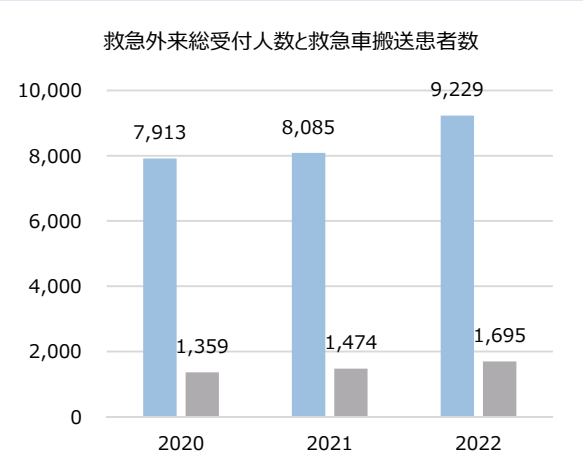
## 救急救命科

■所属医師

米田 高宏

**■2022年度のトピックス**

新型コロナウイルス感染症が流行してから救急車搬送患者数は最高値を記録した。救急外来総患者数も増加傾向にある。




■事業報告

① 救急搬送患者数は1,695人とコロナ禍では最高値となった。

② 救急外来受診数も9,229人とコロナ禍では増加傾向にある。

③ 年間入院数は940人(入院率は56%)と増加した。

④ 救急医学会専門医、麻酔科学会専門医を更新できている。

⑤ 救急車受け入れ不能件数は年間14件と前年比2倍である。

⑥ CT・MRIの読影レポート結果確認率100%であり、さらに必要に応じて患者に報告し受診を促したり、入院・外来主治医に直接届くような仕組みを継続できている。

⑦ 研修医のER研修は継続して力を入れている。

⑧ 救急外来での紹介患者は1,548例だった。

⑨ 逆紹介件数は医療秘書課と連携し、さらに順調に数を伸ばして412件となった。

⑩ 返書作成日数は1.02日と平均を上回っている。

⑪ 「普段かかりつけ医、時々恵寿総合病院」というイメージで各医療機関との連携をすすめている。

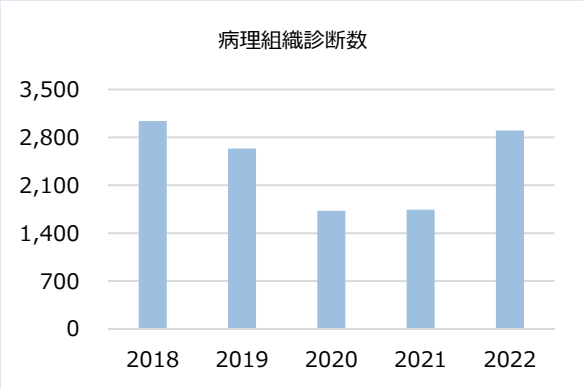
## 病理診断科

■所属医師

上田 善道

**■2022年度のトピックス**

病理診断科は、2022年4月から、常勤病理医1名、非常勤病理医１名、常勤細胞診スクリーナー1名、検査技師3名の体制で新たにスタートした。恵寿総合病院の病理診断、細胞診診断に加え、アルプ病理の受託診断を通じ、恵寿金沢病院ならびに能登地区連携病院の診断も開始した。




■事業報告

① 病理組織診断2,901件（上図は最近5年間の病理組織診断数の推移）、術中迅速診断47件、細胞診診断4,985件、病理解剖1件の診断を行った。

② 病理組織診断では、免疫染色 794例、in situ hybridization49件、T,Bリンパ球のPCR法による遺伝子解析８件を実施した。

③ 研修医 C.P.C.を１回開催し、レポート作製と論文作成を指導した。

④ 恵寿金沢病院の病理組織診断と細胞診診断を2023.3月から開始し、病理組織診断24件、細胞診32件を診断した。

⑤ アルプ病理受託検体の診断（病理組織診断3,378例；細胞診診断219例）を行い地域連携に貢献した。

⑥ アルプ病理組織診断症例を英文医学雑誌に報告し、学術的な貢献を行った。

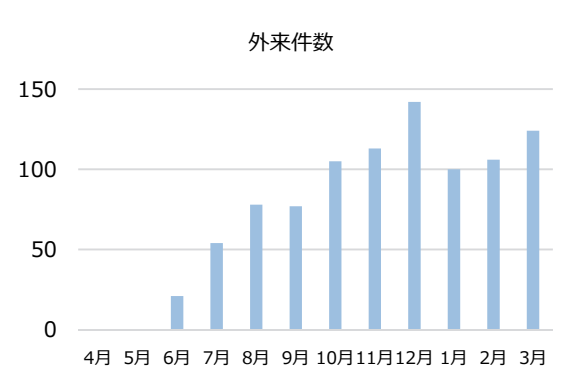
## 心療内科

■所属医師

中川 東夫

**■2022年度のトピックス**

本年6月より心療内科を開設した。不安障害、適応障害、強迫性障害、急性ストレス障害、うつ病性障害などを対象に診療を行っている。2名の公認心理士とともに、外来や入院中の患者に対して、心のこもった対応を心掛けている。




■事業報告

① 6月より、月曜日-木曜日の午後に外来診療を開始した。外来件数は100人/月で推移している。初診患者数は10人/程度である。

② 認知症やせん妄を中心とした、入院患者に対する診療も行っている。また、救急入院となった患者への迅速な診療体制も整えている。

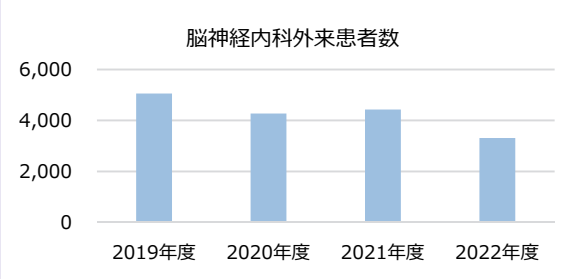
③ 緩和ケアチームにも参画し、がん患者への精神的サポートを行っている。

④ 院内には臨床心理課が設置されており、公認心理士が2名在籍している。チーム医療の一員として、心療内科における心理検査だけでなく、がん患者へのこころのケアなど積極的に活動している。

⑤ 関連病院とも連携している。恵寿金沢病院と定期的にカンファレンスを開催し、問題点の共有、アドバイスを行っている。

## 脳神経内科

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

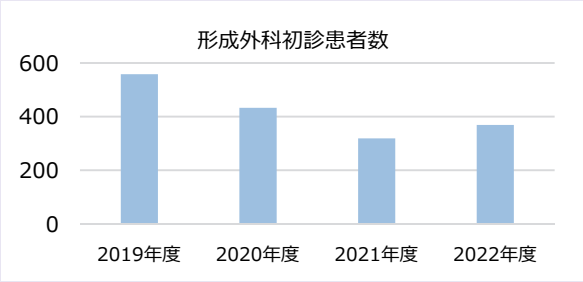
① 常勤医が不在となり、金沢大学脳神経内科からの派遣協力による週3日の診療体制となった。

② 外来患者数および紹介患者数はやや減少した。

③ 脳神経変性疾患を中心とした診療内容である。脳血管障害については、脳神経外科との協働で対応している。

## 形成外科

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 金沢医科大学形成外科からの派遣協力のもと診療を行った。初診患者数は、前年度よりやや増加した。

② 外来手術を主として、年間463件の手術・処置を行った。創傷処置、皮下腫瘍摘出が主な手術内容である。

③ 紹介件数は131件で、昨年度より60件（86%）の増加となった。

## 緩和ケア科

■所属医師

櫛田 康彦

**■2022年度のトピックス**

金曜日ごとの症例検討会、1～2ヶ月ごとの委員会開催を継続（委員会はZoomを用いたハイブリッド開催）緩和医療科での入院した患者さんに、緩和ケア実施計画書を用いた。

委員会開催8回

緩和ケア紹介患者数　52名

■事業報告

① 精神科医として中川医師が緩和ケアチームに加わり、緩和ケア実施計画書を作成後、緩和ケアチームの関与加算が算定できるようになった。

② 医療者対象緩和ケア研修会に講師として参加した。

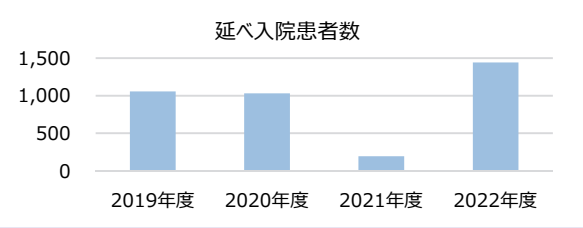
## 泌尿器科

■所属医師

菅 幸大、川村 研二

**■2022年度のトピックス**

延べ入院患者数は昨年度より増加した。




■事業報告

① 外来診療に制限をかけることになり、初診患者数が減少はあったものの、入院診療においては、新入院患者数および延べ入院患者数は増加した。また、他科の院内対診の件数も増加した。

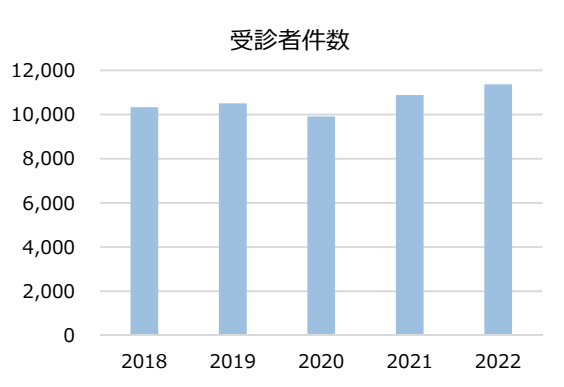
② 看護師との協働で、排尿自立支援にも力を入れている。

## 健康管理部

■センター長　　■副センター長
上野 恭一　　桐山 正人

**■2022年度のトピックス**

総受診者数は増加し、コロナ禍以前を上回る件数であった。特に一泊二日人間ドックは、受入枠の拡大により、前年比117%と増加、脳ドックも前年比112%と増加した。本年度は、受診者の皆様に快適に健康診断を受けていただけるように、センター内の環境整備に努めた。




■事業報告

① 2022年度実績
総受診者数：11,373名
一日当たりの受診者数：47名
一泊二日人間ドック受診者数：603名

② 一泊二日人間ドックの充実
検診体制を強化することで、年間約100件の受入増加を可能にし、健康志向が高まる受診者のニーズに対応すると共に様々な検査を提供した。また、専用ラウンジの全面リニューアルを行い、検査の待ち時間を快適にお過ごしいただけるようにした。更に専用ウエアと日替わりランチもリニューアルし、大変好評をいただいている。

③ 検診フロアのリニューアル
5Sの観点から、計測コーナーの配置を全面的に見直し、明るく清潔な空間で、ゆとりをもって検査を受けていただける環境を整えた。

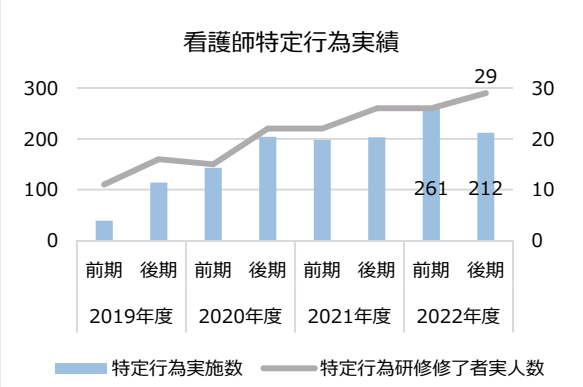
④ 医師2名が、それぞれ「人間ドック健診専門医」・「人間ドック学会認定医」を取得した。今後も受診者の健康寿命を延伸するために、更に質の高い人間ドック・健康診断を提供していく。

## 看護部

■看護部長
本橋 敏美

**■2022年度のトピックス**

① 看護師特定行為研修修了者（区分追加含む）6名
② 抗がん剤投与実践研修修了 7名（在籍者数 58名）
③ 業務の見直し、タスクシフト/シェア、介護部との協働。
④ 新型コロナウイルス感染症重点医療機関登録
コロナ感染症新規入院患者数　144名




■事業報告

① 業務の効率化、生産性向上にむけて、以下項目について検討・実施した。
・入院時看護パス導入による登録の簡素化
・おむつマイスターの指導により交換回数削減、安眠へ
・入院患者外来受診時の待ち時間の短縮

② 業務の洗い出し・業務量調査により業務を見える化した。
・ルーチン業務頻度見直し（オムツ交換、体重測定）
・夜勤帯の検査・外来診察を日勤時間帯へシフトなど

③ 業務量の減少・削減を目指し、検討・実施した。
・記録の簡素化による看護診断の再検討
・気送管の運搬品目の拡大により人的運搬時間削減

④ 一つの業務に要する時間を短縮した。
・看護部委員会の運営方法の見直し（議案書作成、事前準備、タイム管理）他

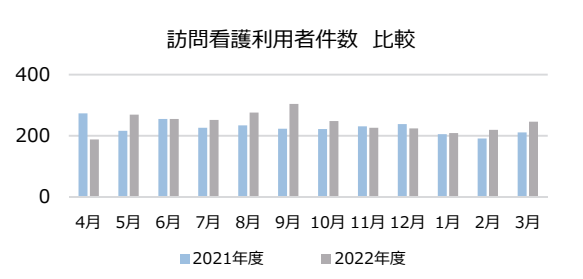
⑤ 多職種との協働、タスクシフト/シェアを強化した。9月に介護部が設立され、協働により絆が生まれた。12月からは地ケア病棟看護補助体制充実加算が算定できた。ほかにも、配膳（管理栄養士）、内服薬服用日印字（薬剤師）、 早番業務（回復リハ）、体重測定・バイタル測定（セラピスト）、静脈確保（検査技師・放射線技師）などと協働体制を構築できた。

## 恵寿総合病院訪問看護ステーション

■所長

久能 恵美

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① のべ利用者件数は、4月188件と200件を下回ったが、以後は200件以上をキープし、9月は304件と過去最高となっている。

② 介護保険利用者/医療保険利用者ともにやや増加しており、1月～3月までの増加は、ほぼ医療保険利用者件数の増加が反映されている。

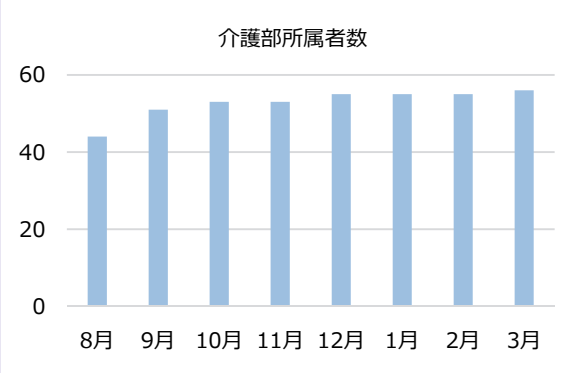
## 介護部

■部長

内田 かおり

**■2022年度のトピックス**

2022年9月、医療・介護・看護の連携で入院患者の生活の質向上を達成するために、生活のお世話を専門とした介護部を設立した。介護職員51人からスタートし、「目指せ！介護部100人！」を掲げ、介護の専門性を活かしたケア提供を実施するため、人数増を目指している。




■事業報告

① 介護部の定着

看護補助者・看護秘書から、介護部所属となった職員と面接を行い、介護部を理解すること、意識づけすることからスタートした。全員が戸惑っていたが、現在は介護部として、それぞれが目標を持ち、課題に取り組んでいる。

② 5Sの意識付けと実施

リーダー会にて周知徹底し、全病棟で断捨離を実施した。本館5階をモデルとし、6階も大がかりな5Sを実施した。今年度は本館のみの実施となった。

③ 職員が働きやすい職場（メンタル・腰痛予防）

一人で悩まず、誰かと話す風土づくりを心掛け、「かおりの部屋」には、職種問わず来訪者があった。（延べ67名）。メンタル不調での退職者は1名だった。ノーリフトの推奨を実施し、腰痛での休職者は0人だった。

④ 介護の育成

5-5をモデル病棟とし、介護の教育を実施した結果、夜勤介護スタッフが3人から8人に増員した。

⑤ 加算取得

看護補助加算を新たに取得できる体制を整備した。夜間看護加算は未取得。介護職員の新規増員は12名で、合計は44名から56名となった。（3月時点）

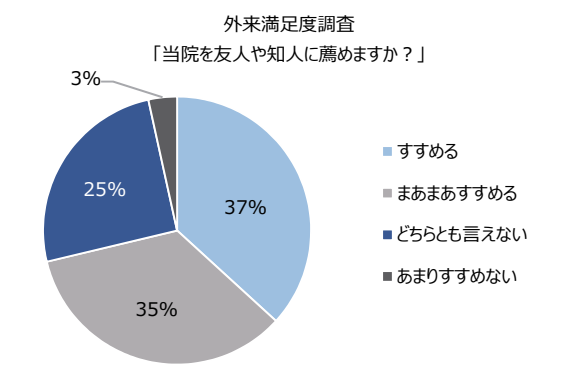
## 事務部

■事務部長

森下 毅

**■2022年度のトピックス**

発熱外来業務、コロナ感染患者数が昨年度を上回り、全部門協働で対応した。そんな中、患者サービスを低下させないよう心掛けている。外来患者および入院患者満足度調査を行った。総合評価は、昨年度と同等の結果となった。外来の初診受付に係る待ち時間が短縮した。




■事業報告

① マイナンバーカードによる健康保険証利用状況は、年間を通して低調であったが、年度末から利用数が増加傾向にある。

② コロナ感染の第7波・8波において、発熱外来患者数が、昨年度を上回り、多忙を極めた。その中で、タブレット端末を活用した保険証の確認など、業務の工夫などを行いながら対応した。

③ 外来受診に関する選定療養費が10月より値上げとなった。算定件数は、4月～9月が954件、10月～3月が552件と下半期は42%減少した。

④ ISO更新審査を受審した。事務部関連では、外来・入院管理・請求プロセス、医療情報管理・診療情報管理プロセス、病院管理・支援プロセス、受付・窓口プロセスにおいて要観察事項等の指摘は無かった。本部事務局、本院事務部門全般において、RPAを用いた業務改善、DX化推進の取り組みなど評価された。

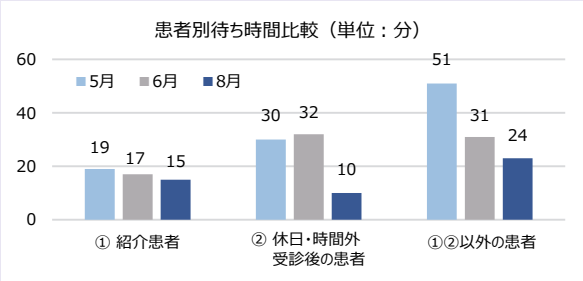
⑤ 患者サポートアプリ「ポケメド」を導入。外来の診察待ち人数を、患者自身のスマホで確認できるようになった。WEB予約機能も搭載しており、実運用を目指している。

## けいじゅサービスセンター
## サービス課

■課長

寺尾 美樹

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 初診・再診予約外患者の受付待ち時間を短縮する仕組み作りに取り組んだ。患者の利便性の強化、繁忙状況に応じた人員調整等で受付待ち時間を短縮することができた。

② コロナ患者が増加した8月より、発熱外来の電話問い合わせに対応し、受診希望者の予約業務を行った。

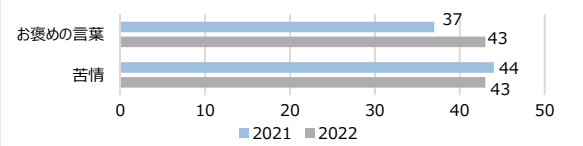
## 医療情報事務センター
## 管理課

■課長

松木 尊紀法

**■2022年度のトピックス**

ご意見箱の投書内容は前年度より「お褒めの言葉」が増えている。事例は医療安全管理委員会が発行する「医の用心」にも毎月掲載しており、モチベーションのアップにつながっている。




■事業報告

2024年から実施予定の医師の働き方改革に向けて各種対応を実施した。

① 時間外労働時間の集計とシミュレーションの実施。

② 産婦人科、血液浄化センターの宿日直日誌を新設した。

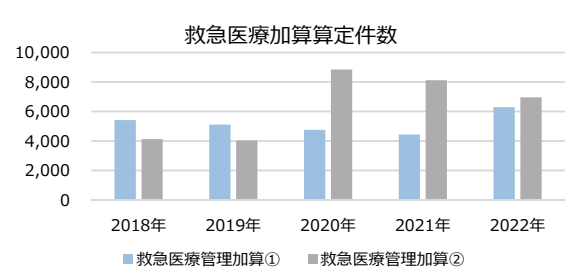
③ 労働基準監督署より、産婦人科の宿日直勤務許可、血液浄化センターの日直勤務許可を取得した。

## 医療情報事務センター
## 医事課

■課長

竹田 慎一

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 救急医療管理加算の算定に力を入れ、医師との連携を強化し、2022年度は特に救急医療管理加算の①を算定することを強く意識した。その結果①の件数が増加した。

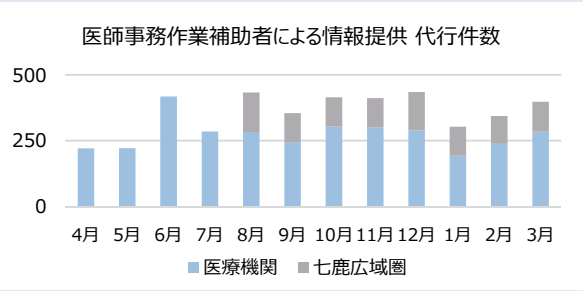
② 発熱外来運営マニュアルを他部署（診療部、コールセンター、医療秘書課、看護部）と協力し作成を行った。

## 医療情報事務センター
## 医療秘書課

■課長

三浦 有紀

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 8月から七尾鹿島広域圏へのフィードバックを実施。代行作成にて迅速な情報提供に努めた。

② 診療情報管理室では538件のがん登録を行った。

③ 新たにドクターズクラーク3名、院内がん登録実務初級認定者1名、社会福祉士1名、医療メディエーター2名が誕生した。

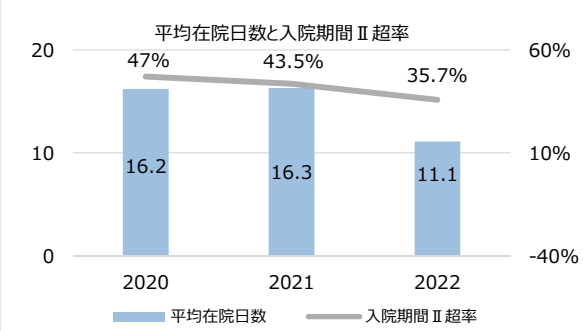
## 入退院管理センター

■部門代表者

神野 正隆、宮田 琴江、櫻 さおり

**■2022年度のトピックス**

PFM（Patient Flow Management）の仕組みの確立・強化のため入退院管理センターを設立した。入院～退院までの流れ（院内PFM）が滞らないように一元管理し、さらに地域全体の視点でも当院と連携医療機関、介護関連施設間での患者の流れ（院外PFM）がスムーズにいくような管理体制を構築した。




■事業報告

① 入退院に関わる指標の徹底的な可視化を行い、エビデンスをもとに転棟・退院・転院のルール作りを行った。センターは院内ベッドコントロール機能をもつコマンダー、入院時支援看護師、診療情報管理士、地域連携課、医療福祉相談課で構成するOne Teamとした。

② 予定入院患者で退院困難な要因をもつ患者には入院前から退院を意識した介入を開始し、また緊急入院患者に対しては、入院時のスクリーニングの見直しと共に退院に至るまでの一連の流れを網羅するフローを作成し、入院初期から積極的介入を行った。

③ 入退院の指標をReal Timeで見られるモニターを内製化し、ベッドコントロールの明確なルールを決めた。全入院患者を常に俯瞰し、DPC期間や日当点等を総合的に加味し、最適なタイミングでの転棟・退院を促進した。

④ 挨拶回り等連携医療機関との連携強化を図りながら、退院/転院に向けての出口戦略も強化し、退院支援対象者に適宜介入が可能となり退院支援が強化できた。

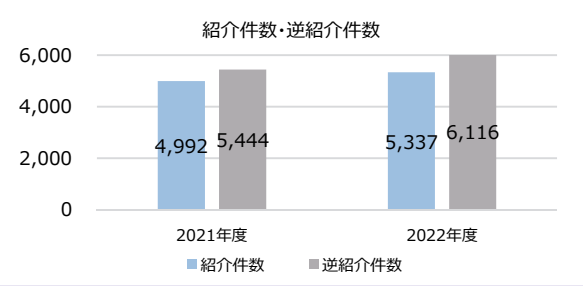
⑤ 結果、センター設立前と比較し平均在院日数は16日→11日程度まで短縮し、1日入院単価の大幅なUP、そして紹介入院患者数は増加し、病院機能の質向上、増収増益に繋がった。

## 入退院管理センター
## 地域連携課

■課長

細谷 幸治

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 「まるわかりブック」を作成し、連携医療機関へ配布することで当院の強みのアピール、理解度向上が図れた。

② 紹介・逆紹介・紹介入院・入院収益などを抽出可能なデータベースを作成し地域連携分析を行えるようにした。

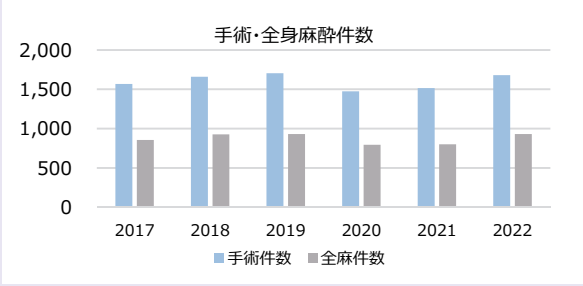
③ 「医師主導の攻めの挨拶回り」を実施した。訪問先の医師より、具体的な症例の相談を受けるなど有意義な訪問となった。

## 手術センター

■部門代表者

長谷川 公一、中田 淳也

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 手術件数は1,680件、前年度と比較するとプラス9.8%と増加し、コロナ前とほぼ同じ件数に回復した。

② 麻酔件数は932件と施設基準を満たすことができている。

③ 本年度より手術総合モニタリングシステムを導入し効率的に手術運営を行うことができた。

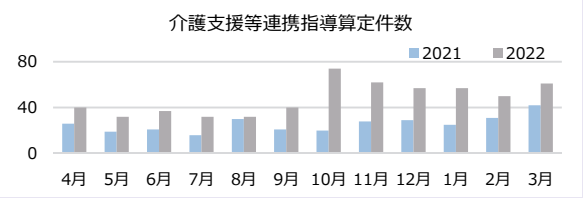
## 入退院管理センター
## 医療福祉相談課

■課長

中川 一美

**■2022年度のトピックス**

入院時より地域のケアマネジャー等との連携を推進し、オンラインも含め介護支援等連携指導を年間574件実施した。




■事業報告

① 入退院管理センターによるPFMの実施、また入退院支援システムの導入と活用により患者支援の仕組みが更に充実した。入退院支援加算の算定件数は2,199件、前年度比161%であった。

② 両立支援コーディネーター2名、医療対話推進者2名資格を取得し、患者相談の専門性向上を図った。

## 血液浄化センター

■部門代表者

熊野 奨、菅野 則之

**■2022年度のトピックス**

恵寿総合病院理学療法士監修のもと、透析中の体操動画を作成しYouTubeにアップした。

■事業報告

① 2023年1月20日より腎臓リハビリテーションを開始した。食事療法と水分管理、薬物療法だけでなく、この運動療法を加えることによって、透析患者さんがもっといきいきと生活できるようになればと考えている。上写真は、恵寿総合病院理学療法課監修の動画の一場面である。

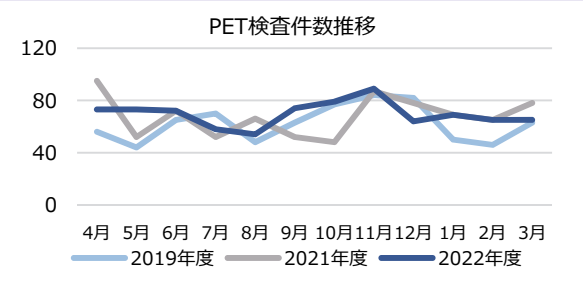
② 新聞社2社の取材も受け、地域へPRすることができた。

## PET・CTリニアックセンター

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① PET-CT件数は835件(前年比102.6%)であった。

② 核医学検査件数は330件(前年比97.1%)であった。

③ 放射線治療照射回数は1,532回(前年比102.2%)であった。

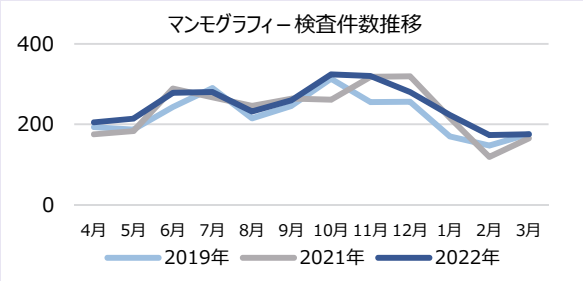
④ 新たに1名が、放射線治療専門放射線技師の認定を受けた。

## 放射線センター 放射線課

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師に、新たに2名が合格した。

② RPAを利用して、CT/MRI/PET-CT検査の読影結果を依頼医が確認できるしくみをつくり、運用した。

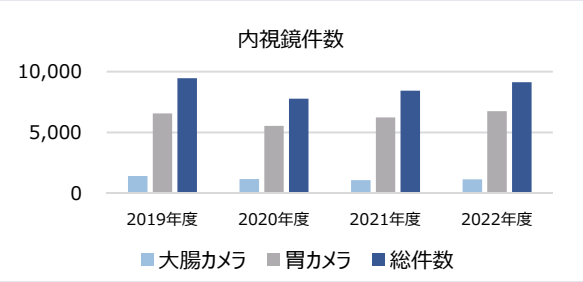
③ 業務拡大に伴う告示研修を、対象となる技師全てが修了し、CT造影検査時等の静脈路確保・抜針業務を開始した。

## 内視鏡センター 内視鏡課

■部門代表者

守護 晴彦、水口 賢

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 内視鏡総件数 9,132件（前年度比 108%）に増加している。

② 全大腸内視鏡検査 1,141件（前年度比 105%）に増加している。（目標は1,200件）

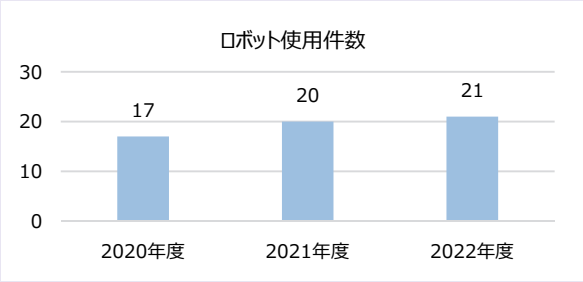
③ 大腸ポリープ切除術は499件（前年度比 111%）に増加し、且つ非常に高い切除率（43.7%）であった。

## リハビリテーションセンター 理学療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、田中 秀明

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 回復期リハ病棟の実績指数にかかわるデータをタイムリーにモニタリングできるシステムを作成した。

② ボツリヌス入院リハ患者数が9例となった。

③ 法人内でオンラインでの症例検討会を6回開催した。

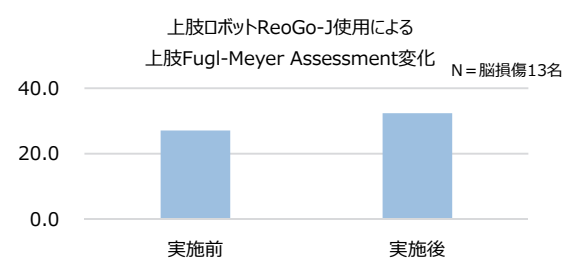
④ 車椅子移乗介助の方法を検討し、2人介助が必要な患者の基準を作成した。

## リハビリテーションセンター
## 作業療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、川上 直子

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 上肢ロボット型運動訓練装置ReoGO-J実施数は21名で、脳損傷者19名、頚髄損傷者2名だった。
平均実施期間38日（3月末継続中5名を除く）

② 手指精密知覚機能検査研修受講者が2名増加した。

③ 学術活動、地域貢献（ケア会議アドバイザーや認定審査会委員など）を継続した。

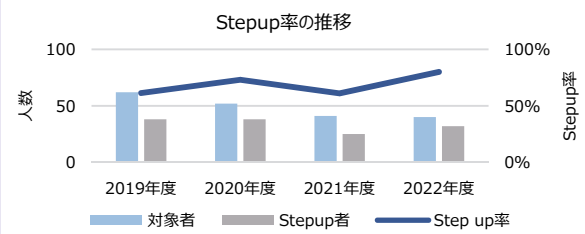
## リハビリテーションセンター
## リハビリテーション教育研修センター

■部門代表者

川北 慎一郎、井舟 正秀

**■2022年度のトピックス**

職員共通評価のStepup率は徐々に向上している。




■事業報告

① 職員共通評価のFeedback実施率を高め、その際の資料の段階付の解説集を作成した。

② 臨床データの分析強化として、臨床データの蓄積、各文書における入力省力化の取り組みを進めた。

③ 指導/評価料の取得漏れなくすべく、取得漏れ防止が容易にできる仕組みを構築した。

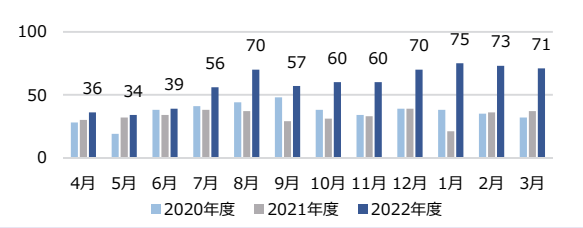
## リハビリテーションセンター
## 言語療法課

■部門代表者名

川北 慎一郎、諏訪 美幸

**■2022年度のトピックス**

摂食機能療法対象者が、システム構築により増加した。




■事業報告

① 摂食機能療法の対象者抽出システムを構築し，看護師と連携し8月より運用開始した。前年同月期間に比し2倍以上増加（実人数の平均33名⇒67名）した。

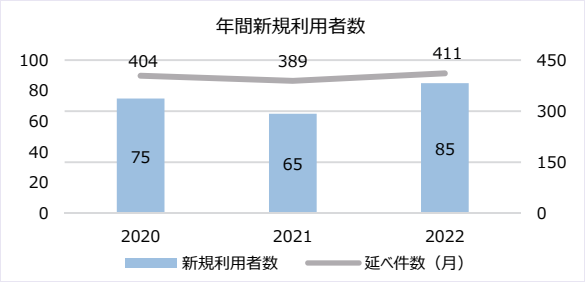
② 学会・研究会で4演題（オンライン3含む）発表した。
研修会平均参加数は15回/療法士数であった。

## 訪問リハビリステーション

■部門代表者

川北 慎一郎、小川 正人

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 年間終了者数が68件から77件と増加した。目標達成者が多く終了へと繋がった。（前年度比13%増）

② 医師参加型の訪問リハビリ会議を積極的に開催、148/285件から178/328件へと増加した。

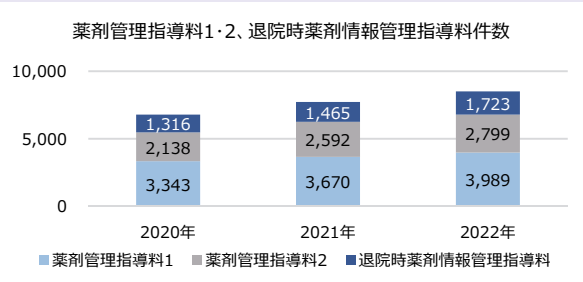
③ 訪問リハビリ会議の効率化を図るためICTを活用、オンライン会議が52件から70件に増加した。

## 薬剤管理センター
# 薬剤課

■部門代表者

神野 正隆、室宮 智彦

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 薬剤管理指導料の算定件数が増加した。
1：前年比108.7%、2：前年比108.0%

② 退院時薬剤情報管理指導は前年比117.6%と増加。

③ 連携充実加算の算定開始し、486件算定した。

④ 後発医薬品使用率は90%以上だった。

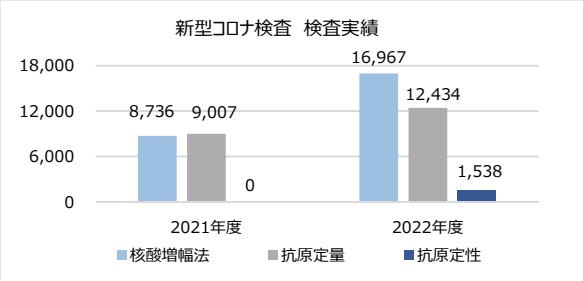
⑤ 持参薬運用のしくみ改革として調剤事務を採用した。
次年度は他職種タスクシフトを予定している。

## 検査管理センター
# 臨床検査課

■部門代表者

西澤 永晃、尾田 真一

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 検体検査総件数 299,292件 前年比 +5.9%
生体検査総件数 32,931件 前年比 +2.9%

② 新型コロナウイルス検査体制の強化
実施総件数 31,210件

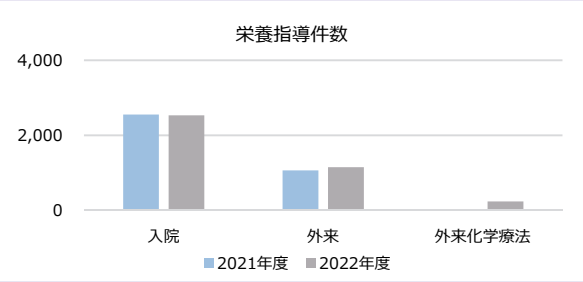
③ 日本臨床衛生検査技師会主催のタスクシフティング業務啓発事業における実技研修に17名受講した。

## 栄養管理センター
# 臨床栄養課

■部門代表者名

豊田 洋平、前田 美穂

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 栄養指導の件数は、入院および外来、集団とも前年度と同程度であった。がん専門管理栄養士による栄養指導を新たに算定した。

② 周術期栄養管理実施加算が算定可能となり、周術期の栄養管理マニュアルに沿って栄養管理を行った。栄養サポートチームによる栄養管理も継続している。

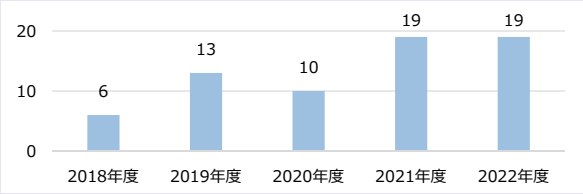
## 臨床工学センター
# 臨床工学課

■部門代表者

長谷川 公一、栃原 康則

**■2022年度のトピックス**

条件付きMRI対応の植込み型心臓不整脈デバイス患者に対するMRI撮像は、増加傾向を示している。




■事業報告

① 循環器・放射線科医師、診療放射線技師、臨床工学技士が所定の研修を修了して「MRI対応植込み型心臓不整脈デバイス患者のMRI検査の施設基準」を満たし、今日まで継続更新して対応を行っている。

② 今年度は臨床工学技士が植込み型心臓不整脈デバイス認定士を取得し、植込・交換手術、外来フォローと、シームレスにデバイス管理へ介入し診療支援を行った。

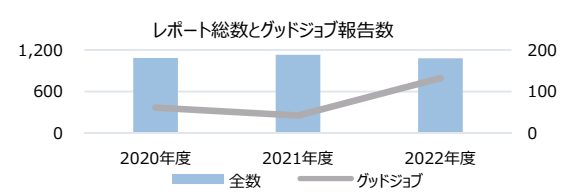
## 医療安全管理センター
## 医療安全管理課

■部門代表者

岡田 由恵、小谷 薫

**■2022年度のトピックス**

ミスを未然に防いだ事例を報告するグッドジョブ報告数が大幅に増加した。




■事業報告

① タスクシフト・シェアの取り組みを放射線課、臨床検査課スタッフとともに進めた。タスクメンバーとして28名が活動している（TQM活動報告）

② 「医療安全文化調査」を実施し、強み・弱みを明らかにし、リスクマネジャーとともに医療安全文化醸成への働きかけを実施した。

## 臨床研修センター

■部門代表者

新井 隆成、松木 尊紀法

**■2022年度のトピックス**

3/24に臨床研修修了式を開催、2年次5名が修了した。5名全員が2年間で論文作成、学会発表を行った。

| 研修医の推移 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1年次基幹型 | 6 | 5 | 4 | 5 | 3 |
| 1年次協力型 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 |
| 2年次基幹型 | 1 | 6 | 5 | 4 | 5 |

■事業報告

① 第8回VHJ機構　臨床研修医・指導医交流会（主管：松波総合病院）に参加した。

② リクルート活動

リアル：2/26レジナビ金沢、3/19レジナビ東京

オンライン：10/5レジナビオンライン、2/25エムスリー

③ 実習、病院見学の受け入れ実績

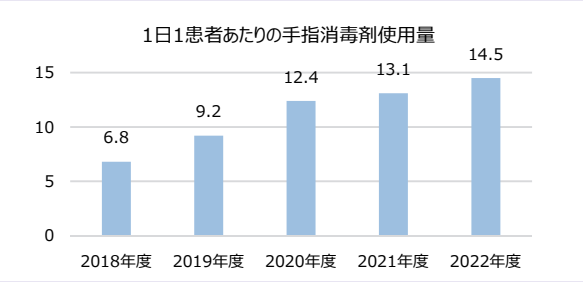
実習：11名、病院見学：12名

## 感染制御センター
## 感染制御課

■部門代表者

山﨑 雅英、谷田部 美千代

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 新型コロナウイルス感染症病床確保体制が、重点医療機関に変更され、積極的な入院受け入れを支援した。

② 新型コロナウイルス感染症入院時パスの作成を行い、約99%の使用率がある。

③ 経口抗菌薬適正使用指針作成し周知した。

④ 新たに1名が抗菌化学療法認定薬剤師資格を取得した。

## 看護師特定行為研修センター

■部門代表者

鎌田 徹、本橋 敏美、松木 尊紀法

**■2022年度のトピックス**

| 受講生 | 第2期生 | 第3期生 | 第4期生 | 第5期生 | 第6期生 | 第7期生 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 開始年月 | 2017年10月 | 2018年10月 | 2019年10月 | 2020年10月 | 2021年10月 | 2022年10月 |
| 院内 | 6 | 5 | 7 | 5 | 3 | 5 |
| 院外 | 1 | 1 | 2 | 0 | 2 | 2 |

■事業報告

① 第6期生5名と追加受講生4名が修了した。6期生のうち2名が外部施設からの受け入れであった。

② 院内の特定行為看護師は29名（10/5時点）となった。

③ 第7期生7名の受講を開始した。外部施設からも受講希望があり、センターの認知度が高まっている。

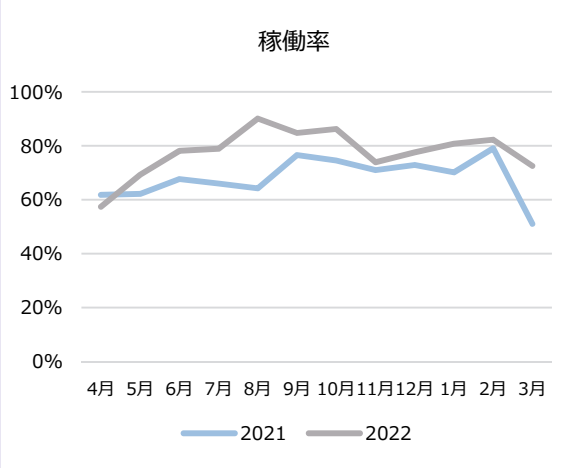
医療事業統括部門
恵寿金沢病院

# 恵寿金沢病院

■病院長
上田 幹夫

**■2022年度のトピックス**

一般内科ポストアキュート・サブアキュート、緩和ケア（終末期医療）にも力を注ぎ、病床稼働率は10%上昇した。当院の特徴である外来化学療法は460件実施した。




■事業報告

① 昨年度の病床稼働率低下を受け、対策として2022年度より一般内科疾患でポストアキュート・サブアキュートや終末期患者を積極的に受け入れた結果、稼働率が前年比114%に回復した。今後も高齢人口の増加に伴いポストアキュート・サブアキュート・終末期患者の増加が予想され、血液病診療に加え地域のニーズに応える診療を展開する方針である。診療医師も金沢大学から循環器、呼吸器、消化器、糖尿病担当医師の派遣を受け充実した。

② 2022年度も新型コロナ拡大で第6波、第7波を経験し、職員・患者で感染が確認された。院内でクラスターは発生せず病院事業に多大な影響はなかったが、入院患者が陽性の場合は個室ゾーニングで対応した。院内感染予防のため、PPEは元より頻回のPCR検査など多大な労力を要した。血液病患者のコロナPCR陰性化には月単位の長期を要する方が多く、血液病治療に難渋した。

③ ドック受検者2,206人の82%がPHR（カルテコ）登録を完了した。画像データや健診結果が自分のスマホで管理できるため、かかりつけ医と共有している方などから好評を得ている。

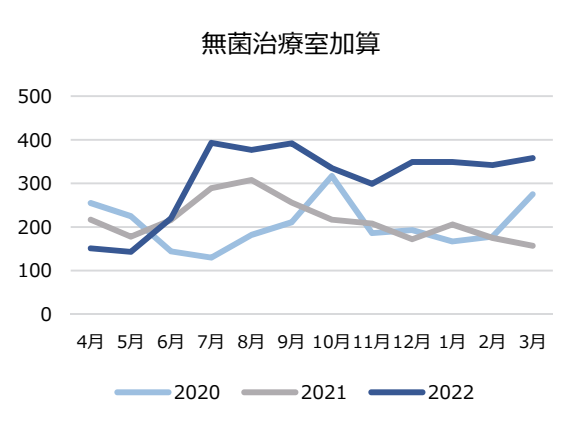
## 内科、血液疾患・骨髄腫センター

■所属医師

村田 了一、上田 幹夫、佐賀 務、山下 剛史、齋藤 千鶴、髙橋 稚奈

**■2022年度のトピックス**

収益改善のため集患活動を行った。金沢大学との連携をさらに強化し紹介が回復した。無菌加算の積極的取得も奏功し収益の改善につながった。今後も集患活動を行っていく。




■事業報告

① 前年度末に発生した新型コロナウイルスによる院内クラスターの影響で、年度初めは入院患者数は大きく減少したが、集患活動などにより血液内科以外の患者も多く受け入れ、前年度を上回る入院患者数となった。
入院患者数：18,219人（前年比：102.0%）
入院化学療法：2,905件（前年比：98.5%）

② 同じく前年度末の院内クラスターの影響で、年度初めは患者数が減少したが、集患活動の効果により昨年度を上回る外来患者数となった。
外来患者数：10,501人（前年比：102.2%）
外来化学療法：389件（前年比：69.1%）

## 外科

■所属医師

道輪 良男

**■2022年度のトピックス**

エンド・オブ・ライフケア目的の入院は12例で、前年の5例より増加した。紹介元の診療科には歯科口腔外科があり、日常の診療で全身管理をあまり行っていない診療科による終末期医療は困難であろうことを改めて考えさせられた。

2022年度エンド・オブ・ライフケア症例（入院）

| | |
|---|---|
| 症例数 | 12例 |
| 年齢（歳） | 53-98（中央値：86） |
| 性（男：女） | 6：6 |
| 悪性：非悪性* | 9：3 |
| 紹介** | 8例（67%） |
| 看取り | 8例（67%） |
| 手術 | 1例（8%） |

*原疾患：肺癌(2)、大腸癌(2)、膵癌(1)、乳癌(1)、卵巣癌(1)、頬部有棘細胞癌(1)、前立腺癌(1)、胃GIST(1)、認知症(1)、脳梗塞(1)

**紹介元診療科：呼吸器内科(2)、消化器内科(1)、消化器外科(1)、乳腺外科(1)、泌尿器科(1)、歯科口腔外科(1)、脳外科(1)

■事業報告

① 患者数は、入院・外来ともに増加した。
入院患者数：1,823人
（前年比：697人増加、161.9%）
外来患者数：1,517人
（前年比：218人増加、116.8%）

② 手術（大腸内視鏡を含む）件数は190件で、前年比55件増加、140.7%の増加であった。

③ エンド・オブ・ライフケア目的の入院は12例（前年比：7人増加）で、他院の様々な診療科から紹介をいただいた。非がんの症例も経験することができた。

④ 日本乳癌学会学術総会でoligometastasisに関する発表をした。乳癌のoligometastasisについては、大規模な臨床研究が行われているようである。

⑤ 当院がんサロン（こもれびサロン）で「がんと漢方」について講演をした。

## 整形外科・リウマチ科

■所属医師

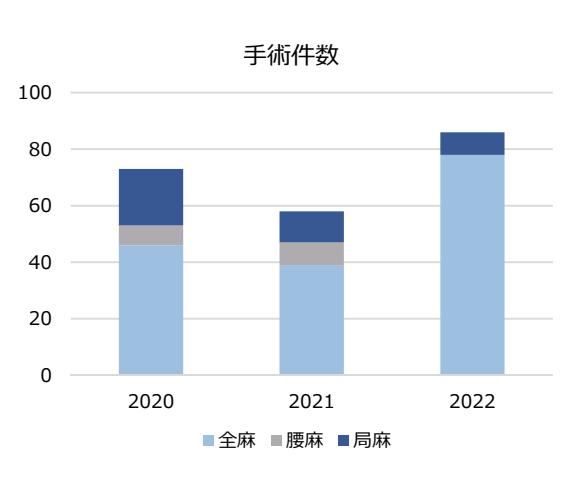
米澤 克隆、相馬 大輔、辻口 友貴

**■2022年度のトピックス**

手術件数　86件

（前年度比　148.3%　28件増加）

※全麻件数　78件、前年度比　200.0%




■事業報告

① 2022年度7月より科長が交代となり、一人体制での診療を行っている。

入院患者数：4,997人

（前年比：2,180人増加、177.4%）

外来患者数：7,083人

（前年比：779人減少、90.1%）

② 現在は当院外来患者を中心に診療を行っている。また、金沢医科大学病院や県立中央病院などの病診連携を密とし安静加療目的の患者の転院を積極的に受け入れている。当院患者をはじめ近医よりご紹介いただいた患者や救急搬送された患者の早期の手術加療を行う事が可能である体制を整えているため、新型コロナ感染症流行期であったが、手術数は増加した。

③ 今後は新型コロナ感染症に十分留意しながら、入院手術加療の拡充を計画していく。

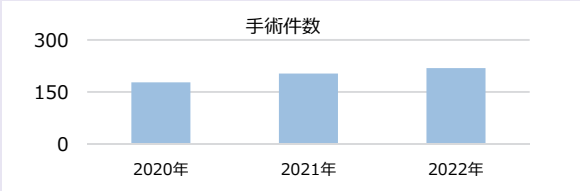
## 眼科

■所属医師

繰納 勉

**■2022年度のトピックス**

涙道手術を中心に、金沢大学病院眼科の協力のもとでの角結膜手術をより積極的に行い、手術件数を増加させた。




■事業報告

① 引き続き新型コロナウイルス感染状況に留意しながら診療を行っている。

② 入院患者数：233人（前年比：84.7%）

③ 外来患者数：2,356人（前年比：102.5%）

④ 手術件数：219件（前年比：107.9%）

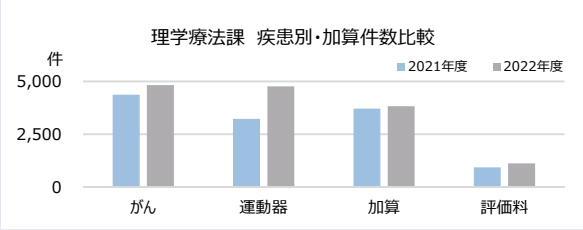
## 理学療法課

■部門代表者

諏訪 勝志

**■2022年度のトピックス**

リハ依頼患者数増のため病棟カンファレンスに参加した。




■事業報告

① 病棟Ns、MSWと連携し、病棟カンファレンス等でリハビリの必要な患者を検討し、主治医に相談し指示依頼したことでPT実施患者数が増加した。

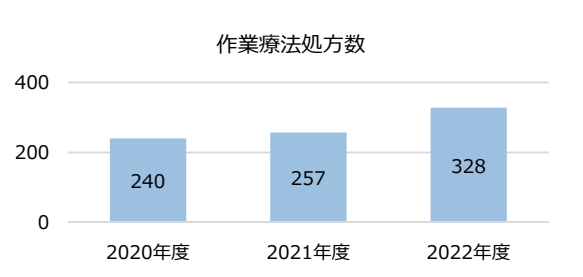
② 訪問リハビリでは、新規利用者数13名中12名が院内スタッフからの紹介で、スムーズな退院・在宅生活へ繋げることができた。

## 作業療法課

■部門代表者

東川 哲朗

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① カンファレンスの参加や他職種からの情報収集を行い、OT処方者の獲得に繋げている。算定単位数は前年度比109%であった。

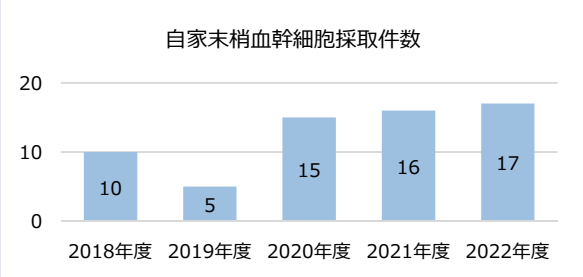
② 短期入院者にも早期介入できるよう働きかけ、がんリハの算定件数は前年度比157%、単位数も前年度比126%に増加した。

## 臨床検査課

■部門代表者

長面 佳央理

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 悪性リンパ腫や多発性骨髄腫等の血液疾患患者に対する自家末梢血幹細胞採取を17件実施した。また現在では、恵寿総合病院をはじめとした他病院からも採取・移植目的の紹介患者を受け入れている。

② 院内での新型コロナウイルス核酸検査を約600件実施した。

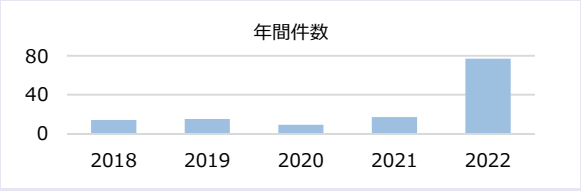
## 放射線課

■部門代表者

武村 真弓

**■2022年度のトピックス**

医師と連携し、糖尿病患者への頸動脈エコーを開始した。年間77件施行。




■事業報告

① CTを11月に機種更新した。
2,626件（前年比98.3%）

② マンモグラフィ3月に機種更新した。2023年度4月よりドック新オプショントモシンセシスを導入予定。
979件 （前年比103%）

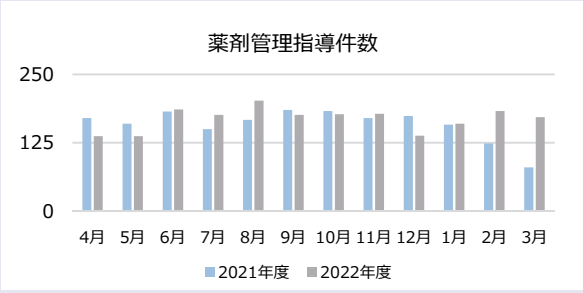
③ 日本放射線技師会主催の告示研修（実技）を4名受講した。

## 薬剤課

■部門代表者

宮森 久志

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 2022年度薬剤管理指導件数で前年度比106%。

② ファーマシークラーク（PC）を採用し、薬剤師業務の負担軽減の取り組みを開始した。

③ 抗体薬投与時のフロー見直しを行い、医療の質を保ちつつ医療スタッフ負担の軽減を実現した。

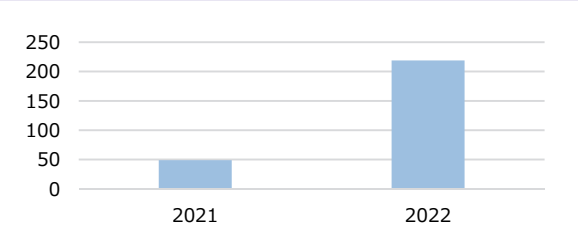
## 臨床栄養課

■部門代表者名

羽根 由子

**■2022年度のトピックス**

外来栄養指導実施件数




■事業報告

① 外来栄養指導の実施

2021年度実績49件に対し、2022年度は219件と積極的に実施した。

② 臨地実習生受け入れ

2023年3月に1名の臨地実習生を受け入れ地域に貢献した。

## 人間ドックセンター

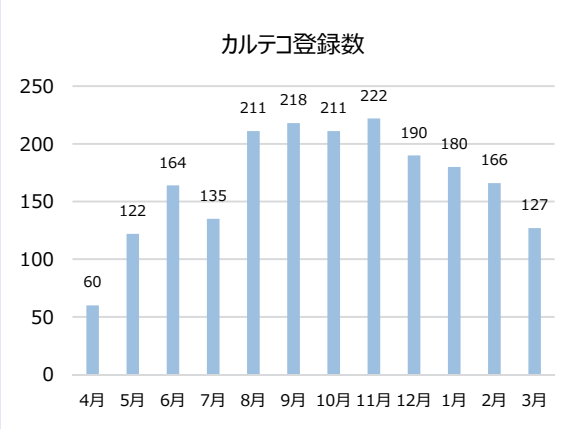
■所属医師

上田 幹夫、土田 達、垣内 博成、佐賀 務

**■2022年度のトピックス**

人間ドック受検者数 2,206人（前年度2,222人）

コース比率は1泊2日が73.4%、1日が15.9%、半日が7.8%だった。カルテコ登録者数は2,006人（ドック1,858人、健診148人）だった。




■事業報告

① コロナ禍の影響により今年度の人間ドック受検者数は2,206人で前年度より16人減少した。一方、腫瘍マーカー検査がドックコアコースの基本に、子宮がん検診が女性コースの基本に加えられたことにより、それぞれの件数は前者で3.4倍、後者で1.1倍に増加した。

② 体質や将来の病気（がん、生活習慣病、脳や神経のなど）の発症リスクを遺伝子解析によって示すGenovision検査は429人（全体の20%）が受検した。高額な検査ではあるが20%の人が受検されており、当院のドック受検者の健康志向の強さを示していると思われる。

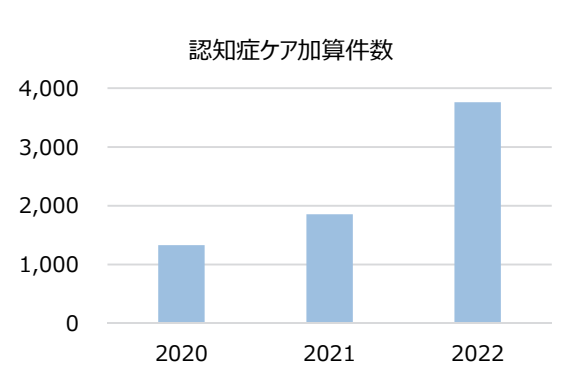
③ 2022年4月からドック・健診受検者を対象にカルテコの登録を開始した。カルテコとはドック検査での身体計測、各種血液検査結果、レントゲン・CT・内視鏡などの画像所見を自分のスマホで管理出来ていつでも見ることができるシステムである。また、登録者に問題となる異常があれば受診勧奨が届いている。自分の健康管理や疾病の早期発見・早期治療つながれば、健康寿命の延伸にもつながる。今までに82%の受検者が登録している。「自分のデータが持ち歩けて、かかりつけ医にも見ていただき大変有用である」との声も聴かれている。

## 看護部

■看護部長
前大道 綾子

**■2022年度のトピックス**

行った看護への評価という視点に立った加算取得へ向けて、院内の勉強会、意識合わせを行いスタッフ個々が意識をして取り組むことができた。認知症ケア加算は医事課と協働して取り組み昨年度より増加した。無菌室加算は医師との認識合わせを再度行い師長主導のもと、加算割合が増加した。



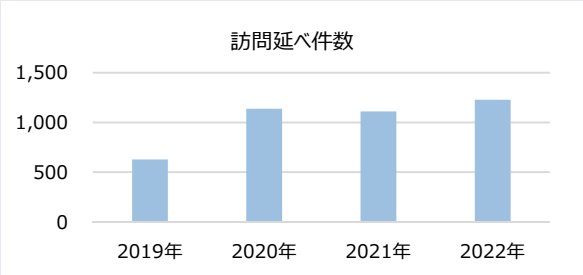

■事業報告

① 稼働率の上昇へ向け、病院全体で取り組んだ。昨年度に比べ9.5%上昇した。
② 8月～9月にかけ稼働率が90%となり、退院調整の必要性を強く感じ多職種で協働し、退院調整に取り組んだ。そのツールとして看護部主体で退院調整進捗シートの活用に取り組んだ。
③ 6月より2交代制を導入した。導入当初は超過勤務が前月より一人平均3.3時間減少した。2交代制導入により長日勤務の負担感が課題となり、師長・主任会で負担軽減に取り組んだ。
④ 新型コロナウイルスへの対応を継続して行った。入院前の検査がルーチンとなったが、入院後に発覚するケースや感染既往のある患者より陽性が判明し対応するケースなどがあった。看護師は、感染対応に追われたが感染が拡大することはなかった。
⑤ 看護師長、医事課で協働し入院業務のタスクシフト・シェアに取り組んだ。
⑥ 病棟・外来の応援体制が活発化した。特に、病棟の人員の少ない時間帯に、外来スタッフの応援があり大いに手助けとなった。

## けいじゅ金沢訪問看護ステーション

■部門代表者
籔内 照美

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 訪問延べ件数は100件/月を超えるようになった。
② 居宅介護支援センターや開業医に年間で53ヶ所の営業訪問を行った。
③ 退院共同指導加算を52回取得する事が出来た。
④ 利用者個々のカンファレンスを行い、ケアマネとの情報共有を積極的に行った。
⑤ 資格：終末期ケア専門士　1名

# 事務部

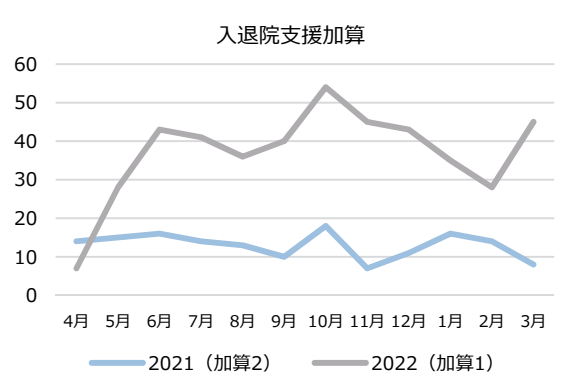
■部長

森田 均

**■2022年度のトピックス**

日々の医療行為に対し、加算の算定基準・方法を見直し、仕組みを構築した。

特に「入退院支援加算」については、MSWを１名増員し、「加算1」の基準を満たし、より多くの患者へ退院支援を行った結果、156件から445件へ増加した。




■事業報告

① 地域連携活動

恵寿まるわかりブックを作成し、地域の基幹病院やクリニックへ当院の医師と共に訪問して、アピールを行った。当院は以前から血液内科の印象が強いようだが、一般内科や緩和ケア、整形外科やリハビリテーションの他、ポストアキュート・サブアキュートの患者受け入れが可能であること理解していただき、紹介数アップに繋げた。

② オンライン面会実施

コロナ禍で入院患者への面会を制限せざるを得ない中、オンラインによる面会の仕組みを整え、患者・患者家族の満足度向上に繋げた。面会の仕組みについて前期TQMで発表を行った。

③ タスクシフト・タスクシェア

管理課から看護部へのシーツ交換手伝いを継続実施した。更に今年度は入院時の看護部の業務を一部医事課へタスクシフトし、結果を後期TQMで発表した。また、検査課の検体ラベル貼り業務を管理課とタスクシェアし、専門職種が業務に専念できる環境を構築した。

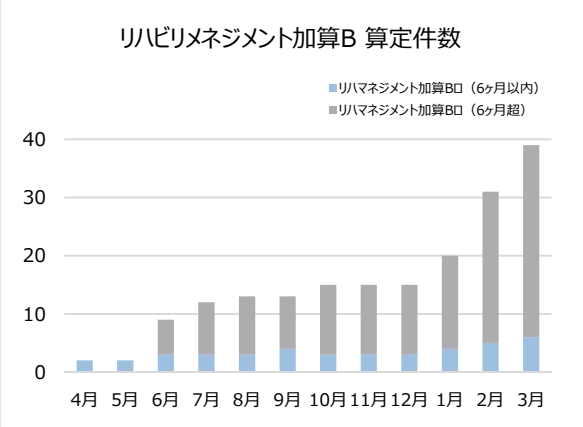
医療事業統括部門
クリニック

# 田鶴浜診療所

■所属医師
廣正 修一

**■2022年度のトピックス**

コロナ禍での受診控え、長期処方の増加などにより診察患者数は減少した。その中で、付属の鶴友苑の通所リハビリとの連携強化を行い、リモートによるリハビリ関連の加算取得を積極的に行った。




■事業報告

① 定期的に検査を実施し、疾病管理を行っている。

② 心臓、血管系などを中心とした生活習慣病、睡眠障害、骨粗鬆症などのスクリーニング検査及び管理を前面に出し、「元気で長生きするために」をテーマに掲げ、プライマリー医療を実践している。

③ 新型コロナウイルスワクチン接種及びインフルエンザワクチン接種に積極的に取り組み、地域住民の感染予防及び健康管理に貢献している。
新型コロナウイルスワクチン接種：775件
インフルエンザワクチン接種：447件

## 鳥屋診療所いきいき

■所属医師

斎藤 靖人、中谷 茂和

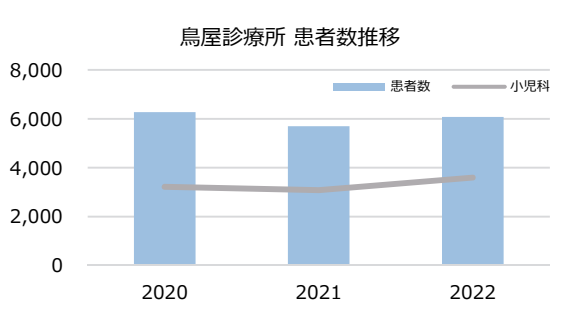
**■2022年度のトピックス**

① 鳥屋診療所

初診・再診の増加を目指す。定期検査を行い、疾病管理を継続した。患者数は年々減少の傾向ではあるが、小児科については、前年度より増加した。

② いきいき

リハビリ会議を開催して、ケアマネ、家族、医師と目標を共有した。




■事業報告

① 鳥屋診療所

総外来患者数は、前年度（5,778人）を上回る6,076人であった。このうち小児科患者数が514名増加（小児科患者数増加率は17%）した。これは、コロナ感染症やインフルエンザ感染症疑いの患者が増加したためである。本院との連携により、感染対策を整え、コロナ感染症患者の対応を行った。

② いきいき

延人数（予防）871人、延人数（介護）2,053人

延人数合計：2,924人

稼働率：62.0%

今年度の1単位平均数は、4月：9.4人から3月：10.9人まで平均数を伸ばすことができた。理学療法士・作業療法士・介護福祉士が中心となり、一人ひとりの体力や健康状態に配慮しながらリハビリを提供している。いきいきのスペースでは、常に利用者の笑い声や笑顔があふれており、専門知識に長けたスタッフと共に目標達成（目標達成証書授与）に向けて取り組んでいる。

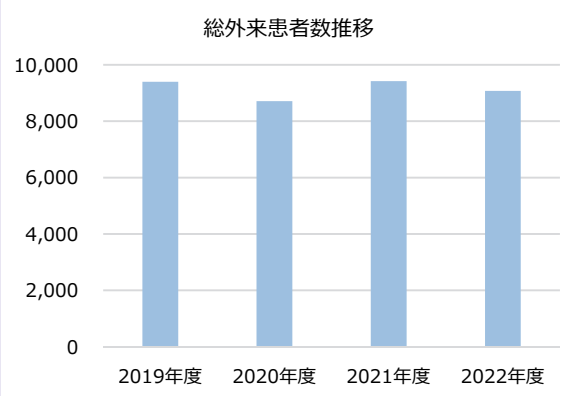
## 恵寿ローレルクリニック

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、上田 一輝

**■2022年度のトピックス**

総外来患者数は前年度に比べてやや減少した。新型コロナワクチン接種対応を継続して行った。訪問診療件数も前年度実績をやや下回った。今後も、恵寿総合病院訪問看護ステーションとの連携と強化し、終末期の訪問診療にも対応していく。




■事業報告

① 2022年度実績

総外来患者数：9,074人（前年度比96%）

訪問診療件数：576件（前年度比89%）

② 新型コロナワクチン接種

前年度に引き続いて、新型コロナワクチン接種対応を行った。前年度と比べて接種件数は減少した。

③ 感染対策について

本院感染制御センターとの連携で、感染防止体制の強化を行った。新たに外来感染対策向上加算、連携強化加算の算定を開始した。

④ 高血圧治療補助アプリの導入

通院と通院の間の生活習慣の修正をサポートするアプリの導入により、患者個別のニーズに合わせて、治療方法の多様性を図る。

⑤ 今後の在宅医療について

在宅支援診療所として、がん患者さんの終末期診療にも対応すべく、在宅がん医療総合診療料の施設基準申請を行った（2023年4月から実施可能）。

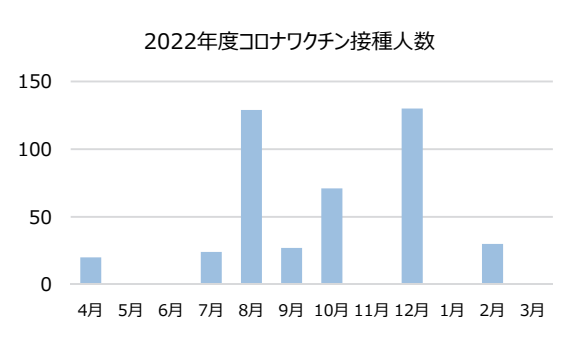
# 恵寿鳩ヶ丘クリニック

■所属医師

宮本 正俊

**■2022年度のトピックス**

患者数1,236人（2021年度650人、2020年度630人）。今期も昨年に引き続き主にコロナワクチン接種が事業の中心となった。年間接種件数は、431件。患者数が倍増したのは、インフルエンザ予防接種に関して、当ヘルスケアシステム穴水地区職員分を当クリニックで一元的に管理する流れとしたためである。




■事業報告

① 新型コロナワクチン接種事業について、主に穴水ライフサポートセンター・介護医療院恵寿鳩ヶ丘入所者、職員を対象に行い、入所者の感染予防に万全を期した。

② インフルエンザ予防接種事業について、今年度当ヘルスケアシステム穴水地区職員分を一元的に管理する流れとした。

③ 主に恵寿鳩ヶ丘入所者のレントゲン一般・CT撮影を行い、病気の早期発見・治療に努めた。また入所者の胃瘻交換及び経鼻経管栄養患者の胃管カテーテル交換後の造影撮影等を行った。

④ 徳充会穴水ライフサポートセンターの入所者の嘱託医として診察・検査・処方を行い、健康管理に努めた。診察・検査の結果、専門医療機関への受診が必要と判断された方については、恵寿総合病院はじめ地域の医療機関と連携を図った。

⑤ 穴水町の特定健診事業及び近隣市町の肺炎球菌ワクチン等の予防接種事業に参加し、地域住民への予防医療に努めた。

介護事業統括部門

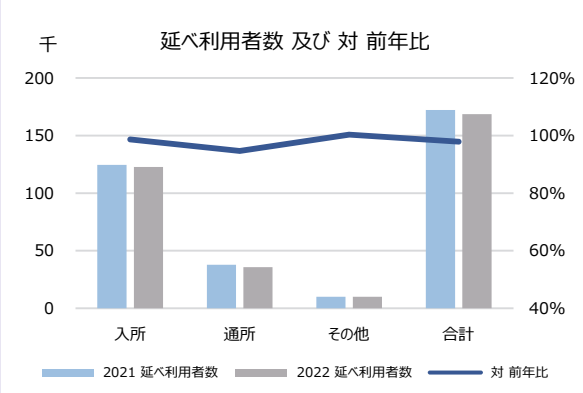
# 介護事業統括部門

■部門代表者

吉田 茂和

**■2022年度のトピックス**

本年度も新型コロナウイルスの感染拡大による利用者・職員・職員家族などの感染者が続出し、その対応などに悩まされる年となった。地域の感染拡大により、在宅系サービスへの影響が顕著にみられ、感染を恐れた利用控えなどもあり、特に通所系サービスの利用が停滞した。




■事業報告

① 「けいじゅ介護技能グランプリ」の開催

介護スタッフのスキルアップなどを目的に、8月に「けいじゅ介護技能グランプリ」を開催した。各施設で「食事」「入浴」「排泄」のいずれかの部門について予選会を実施。各部門の優秀者が法人主催の本選に出場した。さらに、この「けいじゅ介護技能グランプリ」の各部門で最優秀となったスタッフが、10月に県で行われた「いしかわ介護フェスタ」の「介護技能グランプリ」に出場。和光苑からの選出者が入浴部門の「技能賞」に輝いた。

② マイスター研修の継続実施

コロナ禍ではあったがリモート環境などを活用し、「おむつマイスター」「Foot活マイスター」「ノーリフトマイスター」の3つのマイスター研修を実施し、スキルアップを図った。

③ 「けいじゅヘルスケアシステムスポーツフェス2022」の開催

介護の日（11月11日）にちなんで、「スタッキングタワー」や「ピンポンカップイン」などの簡単な4種目を実施するスポーツイベントを開催。石川県作業療法士会主催の「リハスポーツフェス2022」のプレ大会として実施し、けいじゅヘルスケアシステムの介護施設など計17事業所から、延べ554名が参加した。

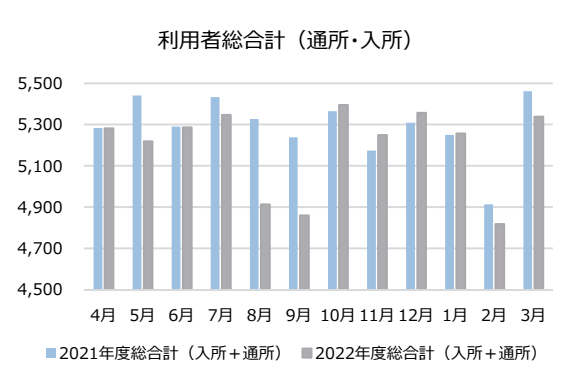
## 介護老人保健施設 和光苑

■部門代表者

渡邉 博之、奥本 健司

**■2022年度のトピックス**

インドネシアの技能実習生6名が新しく仲間として加わり、3フロアに2名ずつ配置する事ができ、親切で優しいと入所者からとても喜ばれている。また、本年度はインスタグラムを開設し、入所、通所問わず当苑の取り組み、行事、利用者の笑顔等、幅広く発信することができた。




■事業報告

① 今期目標と達成度

入所稼働率 98.4%（前年比+0.2%）

通所稼働率 72.7%（前年比－4.5%）

入所は1年を通じて、ベッドコントロールが上手くできた。しかし、8～9月にかけての新型コロナ感染者が続出、クラスターとなったが施設内療養にて離脱者も出さず乗り切った。しかし、通所の営業をしばらくの間、中断せざるを得なく、利用人数、稼働率にかなり影響があった。

② 教育研修

介護福祉士4名（高卒3・既職1）、技能実習指導員3名、技能実習生活指導員2名、介護福祉士養成施設実習指導者研修2名、介護技能実習初級試験合格5名、スマート介護士2名、リスクマネジャー1名

③ 今後の課題

今年度は昨年の転倒予防システムネオスケアに続き、移乗サポートロボットHugを導入し、腰痛予防、ノーリフトケアに取り組んだ。次年度は移乗支援機器、HALやサスケなどの導入を予定しているが、介護DXは待ったなしと考える。AI・IOT・ICTのデジタル技術を取り入れ、介護業務のワークフローを変革し、是非とも利用者、職員の笑顔を増やしたい。

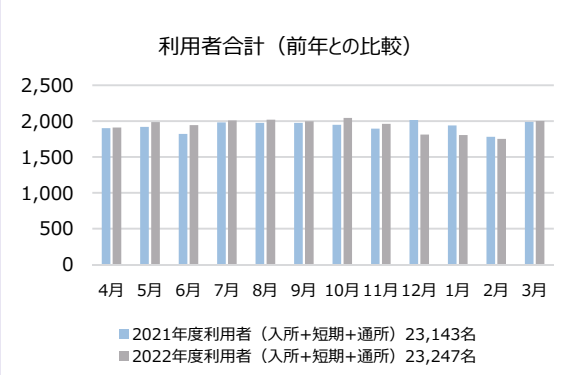
## 介護老人保健施設 鶴友苑

■部門代表者

廣正 修一、古木 恵実子

**■2022年度のトピックス**

新型コロナウイルスのクラスター発生により一時的に落ち込んだ時期はあったが、利用者数全体としては前年度に比べ増加させることができた。通所においては、リハビリ関連の加算取得件数の増加した。インスタグラムを開設し、日々の出来事や利用者の様子を投稿し、情報発信に努めた。




■事業報告

① 今期目標と達成度

入所稼働率 95.7%（前年比－0.1%）

通所稼働率 76.1%（前年比+0.5%）

利用延人数(入所:短期入所) 17,474名（前年比－0.1%）

〃 （通所リハビリ） 5,773名（前年比+2.2%）

リハビリマネジメント加算B186件（前年比＋186件）

認知症・短期集中個別リハビリ加算 134件（前年比+33件）

生活行為向上加算 22件 （前年比＋22件）

褥瘡マネジメント加算Ⅱ 141件（前年比+141件）

排泄支援加算Ⅱ・Ⅲ 108件（前年比＋26件）

療養食加算 48,615件（前年比＋1,455件）

再入所栄養連携加算 4件（前年比＋4件）

② 在宅復帰率は平均61.4%で、在宅復帰者60名（前年比+11名）だった。

③ ノーリフトマイスター研修1名、Foot活マイスター研修3名が修了した。

④ 田鶴浜地区の3ヶ所で介護者教室を開催し、介護相談や認知症予防体操等を企画し、地域の方とふれあうことができる取り組みを行った。

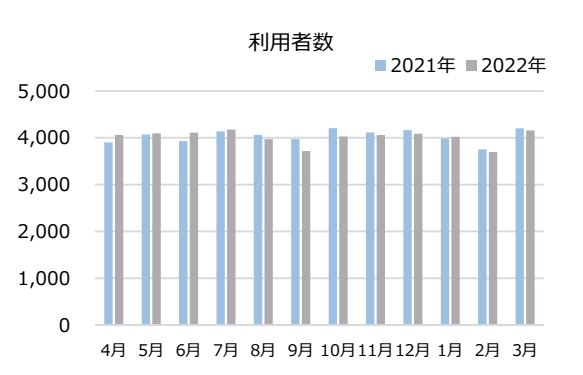
## 介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

■部門代表者

宮本 正俊、岡田 亮一

**■2022年度のトピックス**

8月末から9月初めに新型コロナの影響で利用者数が落ち込んだが、その後さらに徹底した感染対策を行い、早期に収束、年間延べ利用者数はほぼ前年並みとなった。年間を通じてACPの仕組みづくり強化に力を入れ、BCPを見直し各種災害訓練の機会を増やし安全安心を目指した。




■事業報告

① 年間延べ利用者数は48,180人（前年比99.3%）

② アドバンスドケアプランニング（ACP）の充実に取り組んだ。終末期における医療やケアだけでなく、最期までその人らしく「生きる」に重点を置き、一人ひとりに寄り添ったケア、PDCAサイクルに基づく実践の確立を目指した。

Ⅰ他職種の役割の明確化、記録様式の作成。

Ⅱ私のこれからシートの見直し。

ACPカンファレンスの実施回数 25件。

③ BCPに基づく各種災害訓練を実施した。

防災訓練（地震火災）前年度2回→今年度6回

感染対策訓練　前年度2回→今年度5回

④ 介護の質の向上に向けて、各種マイスター認定取得を推進した。結果、ノーリフトマイスターは7人に増加、Foot活マイスターは3名に増加した。おむつマイスターは新たに1名誕生した。

⑤ コロナの周辺状況を見ながら、スタッフ独自のレクリエーション（ミニ春まつり・ミニ秋まつり等など）を実施した。

⑥ シルバー世代の採用をはじめ、多様な働き方を定着させるため、介護専門職との役割分担の見直しを継続した。

⑦ 次年度は「鳩ヶ丘におけるDXへの取り組み」をテーマに取り組んでいく。

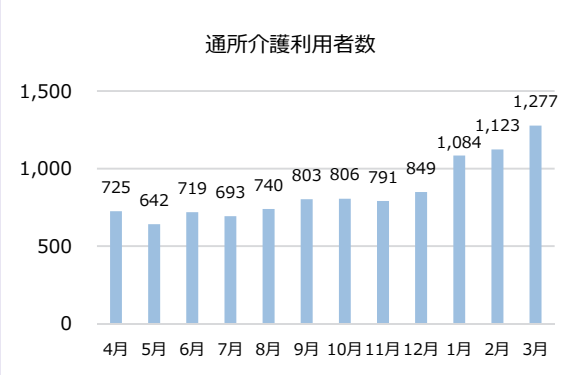
## 在宅複合施設 ほのぼの

■部門代表者

一谷 真澄

**■2022年度のトピックス**

2023年1月より、いこいとほのぼのデイサービスが統合し、新ほのぼのがスタートした。利用者と職員がともに元気になれる事業所を目標として、中能登町の利用者・ご家族がこの住み慣れた町で安心・信頼してご利用できる場所（選ばれる場所）としてほのぼの全職員で体制を整えお迎えしていく。




■事業報告

① 今期の目標と達成度

稼働率目標値：通所介護85.0% 短期入所85.0%

通所介護稼働率：77.5%　達成度91.1%

短期入所稼働率：76.5%　達成率90.0%

今年度は、通所介護及び、短期入所ともに定員数の変動があり、比較は困難であった。

② 教育研修

介護福祉士2名、Foot活マイスター2名が資格を取得し、業務や職員指導へと活かしている。オンライン研修受講や研修会等へ積極的に参加した。また、今年度はLIFEの取り組みを強化し、一人ひとりの利用者をいろいろな角度から分析できる仕組みづくりに着手した。

③ 今後の課題

来年度は、通所介護は定員数65名→55名、短期入所21床→24床と定員数を変更し、1日平均人数の確保に努める。通所介護では、ほのぼのの強みを出すために、来年4月から理学療法士の専従が決定しており、心も身体（足腰）も元気になる施設を目指していく。短期入所では、見守り介護ロボット「ネオスケア」の積極的な活用により、転倒・転落件数の減少につなげ、安心・安全な施設であることを外部にアピールしていきたい。

## けいじゅ一本杉

■部門代表者

高木 ひとみ

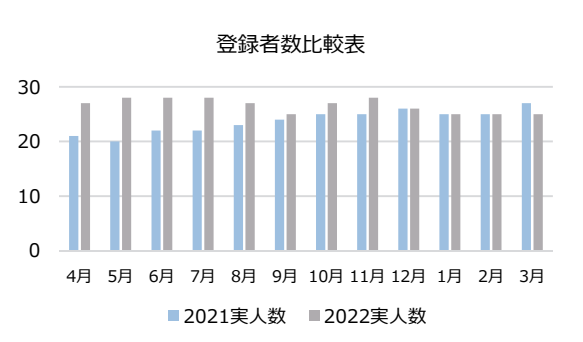
**■2022年度のトピックス**

登録者数について、月平均26.6名で達成度は97.7%だった。今年度は地域と防災意識を高める仕組み作りを行った。

① お便りを発信し、災害時の注意事項を呼びかけた。

② 地域の防災避難訓練に参加した。

③ 「けいじゅ一本杉」の防災避難訓練に地域住民にも参加していただいた。




■事業報告

① 地域の清掃活動や避難訓練に参加するなど、地域との関係作りに注力した。お便りでの情報発信や地域行事への参加で「けいじゅ一本杉」をより知ってもらうことができ、近隣住民からの利用相談が増え、登録者数の増加に繋がった。

② 「けいじゅ一本杉」の防災避難訓練に地域住民にも参加していただいた。車いすの操作体験会や介護の疑問や不安に答える時間を設けた。地域の方と改めて防災意識を高め、関係を深めることができた。

③ 11月に開催されたななお健康&福祉まつりに出展し、施設の説明や活動の様子を紹介するパネル展示を行った。地域に向けて施設のPRをすることができた。

＜今年度の活動＞

鳥居醤油店見学、梅干しつくり、ジャガイモ掘り、夏祭り、感謝祭、柚子みそ作り、年忘れお楽しみ会（卓球バレー大会）、年賀状作り、防火訓練、みそ作り、節分豆まき、ひな祭り、お茶会

④ 事業所運営について、収支のバランスを図ることが重要課題である。

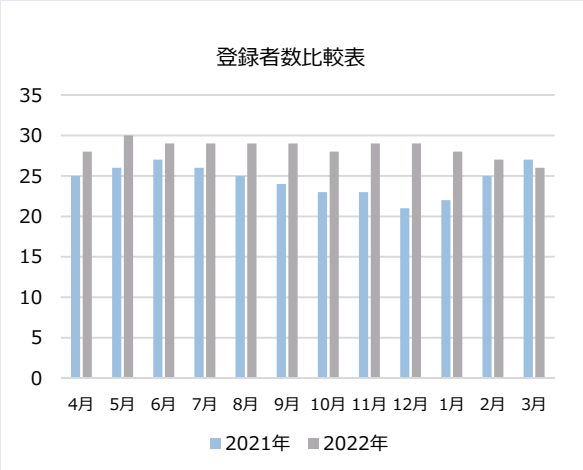
## 恵寿みおや

■部門代表者

愛徳 亜矢

**■2022年度のトピックス**

登録者数について、居宅事業所へのアピールを続け、年間を通して、前年比116%と伸ばすことができた。ただ、年明け以降、施設入所者が6名と続き、やや減少となった。




■事業報告

① 今期目標と達成度

目標登録者数29名のところ、月平均28.4名（前年比＋3.9名）で達成率は97.9%だった。目標稼働率95%のところ、94.2%（前年比+14.9%）で達成率は99.2%であった。

② 教育研修

おむつマイスター1名、ノーリフトマイスター1名取得し、勉強会で伝達講習を行った。県の介護グランプリに1名参加し、介護技術を披露した。

③ 今後の課題

安定した稼働率を確保するために、地域の事業所も含め、PR活動を継続していく。オンラインツールを活用し、職員間の情報共有の場を増やしていく。また、利用者・家族との情報交換や発信の手段として活用できるよう、職員全員が学んでいく。提供するサービスを見える化し、質の向上に取り組んでいく。

## ケアマネステーション恵寿

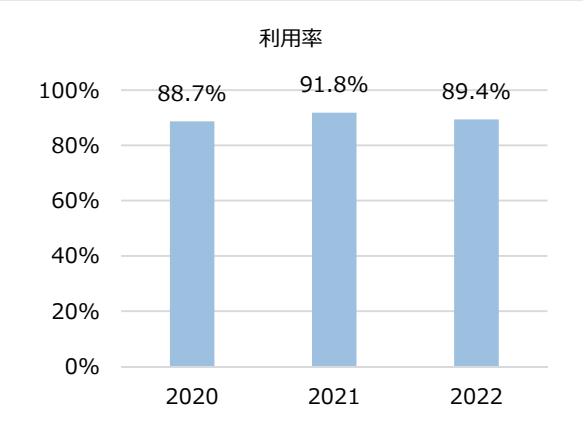
■部門代表者

清水 光代

**■2022年度のトピックス**

① 新しく理学療法士のケアマネジャー1名が配属となり、総勢12名で居宅介護支援業務にあたった。

② 今年度から「かいごの相談室」を開設し、外来患者・家族、地域の方の介護に関する相談受付を始めた。




■事業報告

① 年間延べ利用者数 5,063人（前年比：97.8%）
新規利用者 145人（前年比：113.3%）

② 加算
初回加算 118件
入院時情報連携加算 252件
退院・退所加算 259件
通院時情報連携加算 61件
ターミナルケアマネジメント加算 2件
医療との連携に注力し、通院時や入退院時には病院へ訪問し、病院職員との連携を図ることで、在宅介護における利用者・家族の不安等の相談援助やサービス調整を行った。

③ 「気づきの事例検討会」
年4回実施し、介護支援専門員の資質向上に努めた。

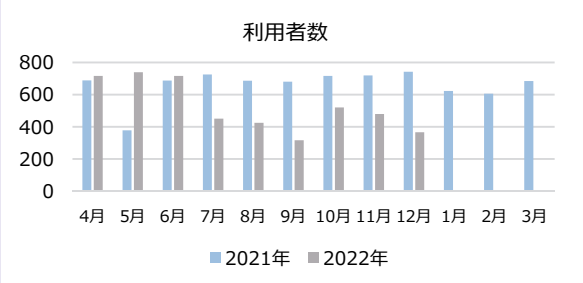
④ 資格
主任介護支援専門員 5名
介護支援専門員 7名（うち4名更新研修受講）

## デイサービスセンター いこい

■部門代表者

吉田 茂和

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

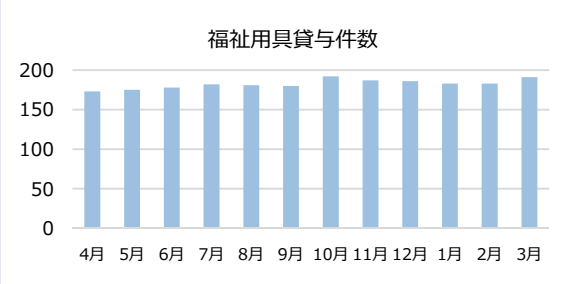
① 中能登地区 デイサービス事業を統合
中能登町の通所事業の利用実態に合わせ、限りある介護資源を集約する意味からも、同町で同じ通所介護（デイサービス）を展開する「ほのぼの」と、事業を統合することとなり、「いこい」は12月末日をもって営業を終了した。

## レンタルステーション恵寿

■部門代表者

安井 智美

**■2022年度のトピックス**




■事業報告

① 福祉用具新卒者の加入と理学療法士の加入
新戦力として、新卒の福祉用具専門相談員と経験豊富な理学療法士が加入したことで、利用者の状態に応じた、丁寧な福祉用具レンタルの相談が可能となった。

② 「めぐみニュース」の活用
「めぐみニュース」を通じて、利用者に有用な福祉用具の紹介を行った。

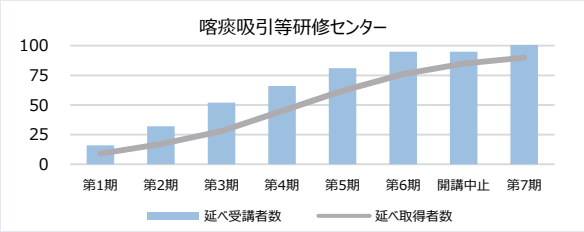
# 喀痰吸引等研修センター

■部門代表者

吉田 茂和

**■2022年度のトピックス**

受講者と資格取得者の推移




■事業報告

① 2017年度に開講してから、今年度で第7期を迎え、これまでに延べ103名の修了生を輩出した。

② このうち 2022年度までに実地研修を含むすべての研修を修了し、修了証を発行した受講生は、のべ人数で90名となった。

社会事業統括部門

# 社会事業統括部門

■部門長　　■オブザーバー

進藤 浩美　　神野 厚美

**■2022年度のトピックス**

2022.10.5 デリカサプライセンター機器診断 厳しい状況。

| | | |
|---|---|---|
| テストキッチン | スチコン | 手入れ必要 |
| | 氷温庫 | 入替必要 |
| 下処理 | 冷蔵庫1.2 | 手入れ必要 |
| | 冷凍庫1.2.3 | 経年劣化 |
| 保存 | 冷蔵庫1.2.3.4 | 手入れ必要 |
| | 冷凍庫1.2.3 | 経年劣化 |

■事業報告

① 医師会立七尾看護専門学校の経営協力のため、事務長の出向を行い、本院の医師、看護部、医療技術部門から講師を派遣継続している。

② 全施設のおかずを週5日稼働のけいじゅデリカサプライセンターで5,000食/日生産している。

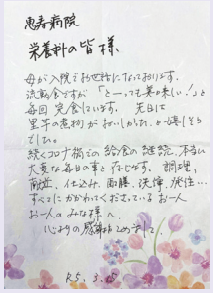
③ 医療福祉ショップめぐみとベンリーは、生活未来部として、事業統括部門管理とした。

# けいじゅデリカサプライセンター

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

**■2022年度のトピックス**




シダックス様の励みになる

お褒めの手紙

■事業報告

① シダックスグループで、全国に技能実習生を配置する中、初めてベトナム人女性2名の実習生を受け入れた。

② 大型機器として、冷凍庫、冷水をつくる機器を更新した。

③ 2023.1.26低温、水道管の問題により、七尾市から供給される水が赤水となり何度も貯水タンクの水の入れ替えが必要となったが、各施設への食材配送に影響なし。

# 七尾看護専門学校

■事務長

山崎 茂弥

**■2022年度のトピックス**

26名が卒業し、能登地域の病院には14名（内 恵寿総合病院7名）就職した。加賀地域の病院が11名、病院以外への就職が1名だった。

入学者の状況

| | 能登 | 加賀 | 富山県 | 福井県 | 他県 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021 | 22 | 7 | 3 | 0 | 1 | 33 |
| 2022 | 21 | 4 | 1 | 0 | 0 | 26 |

卒業生の就業先

| | 能登（董仙会） | 加賀 | 富山県 | 福井県 | 他県 | 病院以外 | 進学、その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2021 | 24 (9) | 11 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 41 |
| 2022 | 14 (7) | 11 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 26 |

■事業報告

① 出願者数41名、受験者数38名、入学者数26名と昨年より7名減少した。出身別では、能登北部7名、能登中部14名、石川中央3名、南加賀１名と県内は25名、県外は富山県１名であった。新入生のうち能登中部は54%だった。

② 入学生確保のため、11月19日推薦入学試験、1月19日一次入学試験、2月16日二次入学試験、3月1日三次入学試験を実施した。

③ 2023年度修学支援新制度の対象校となった。これにより、世帯収入等の要件を満たすと授業料、入学金の免除または減額と返還を要しない給付型奨学金が受けられる。

④ 本校の教育活動や学校運営等の質の向上を図ることを目的とした第１回学校関係者評価委員会を開催した。

⑤ 委員と自己評価・自己点検自己評価・自己点検、学生募集等について意見交換を行った。

徳充会

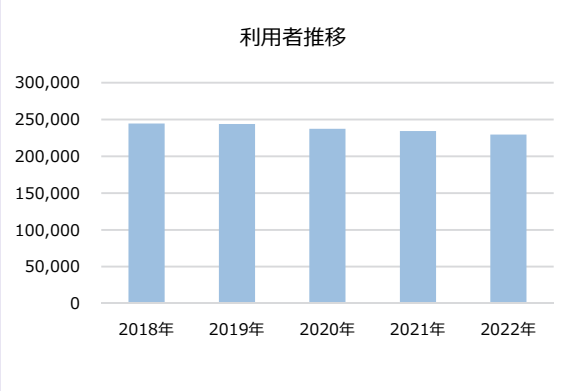
# 徳充会

■部門代表者

今寺 忠造

**■2022年度のトピックス**

コロナ感染拡大の影響で、全体の延べ利用者件数は22万9,676件で、昨年より4,637件減少した。過去最低。通所系・短期入所系の休止や利用者の利用控えが大きく影響した。ロボット導入の新しい試みや社会貢献交流を再開した。事務局は、時代に見合う仕組みの改善・考案を実行した。




■事業報告

① 「人を責めるな、仕組みを責めろ！」をテーマに、各事業所が強みを活かし、一致結束して取り組んだ。

② 障がい者事業局：入所施設2ヶ所でクラスターが発生したが、最低限で食い止めた。高齢化・重度化が進み、医療的ケアのニーズが年々高く入院が多くなっている。通所系は日中活動・働くニーズが高く、時代に見合った支援、オンラインイベント、テイクアウト等を推進した。

③ 高齢者事業局：通所・入所でクラスター発生。応援体制で凌いだ。新しい価値観・ニーズに対応するため、情報発信の強化、Foot活の強化、カルチャー教室、看取り・ターミナル期の訪問入浴、ロボット活用、イルミネーションの点灯等、時代に合った新しいチャレンジを行った。

④ 事務局：コロナ対策の応援（人的・物的・制度的）、給与規定等の見直し、職員教育の推進（資格習得支援・Web研修の開催等）、オンラインでの積極的な見学・相談会・採用試験、基盤整備申請、徳充会ボランティアとの継続的な関わりを行った。処遇改善加算による賃上げの実施。技能実習生の受け入れ。補助金等の効果的申請・活用。

⑤ 地域貢献：創意工夫をして積極的に推進した。

⑥ コロナ：一致結束して感染・クラスター対応に取組んだ。

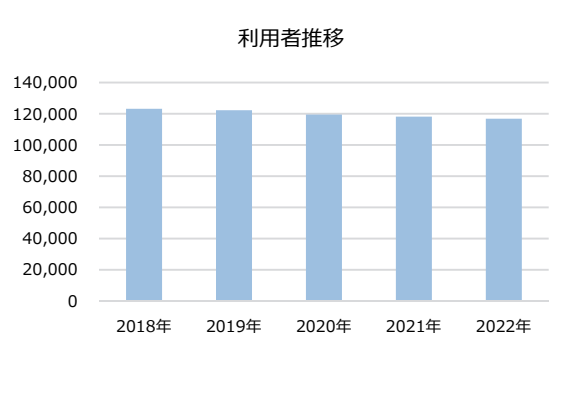
## 障がい者事業局

■部門代表者

今寺 忠造

**■2022年度のトピックス**

新型コロナ感染拡大の影響もあり、クラスターが発生した。各事業の創意工夫と適切な対応で、幸い重症者を出さずに済んだ。通所・短期入所の利用者数は減少したが、各事業所時代に見合ったコロナ禍での新しい創造とサービスの提供を推進した。




■事業報告

① 「人を責めるな、仕組みを責めろ！」を意識し、全事業所、コロナ禍の支援と感染予防に努めた。

② さいこうえんの障害者生活支援センター：リハセンターと同一敷地内に移転。相談支援事業はキララ（穴水）と一体運営で経営基盤安定。

③ セェレーナ青山：現状維持。

④ 青山彩光苑リハセンター：多機能型通所事業開始、就労移行支援：6名就職し、就職定着率は高水準。

⑤ ワークセンター田鶴浜：新規利用者8名、洗濯事業は順調。アグリ事業は、資材等高騰。

⑥ 青山彩光苑ライフサポートセンター：コロナは別エリアで対応し最小限にとどめた。移動販売、オンライン太鼓の定期開催、リハビリ機器の充実でニーズに対応した。

⑦ 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター：コロナ対策を徹底し、利用者感染ゼロ。オンラインのスポーツ活動参加、小中学校での出張福祉教育を再開した。

⑧ 石川県精育園：7月中旬より130名規模のクラスター発生。施設内療養であったが、重症化しなかった。収束後は、楽しみに繋がるミニ祭り・小グループ旅行、保育園との交流を再開した。自立ホームけいじゅは、短期入所の送迎を2市2町に拡大したが、コロナの影響があった。

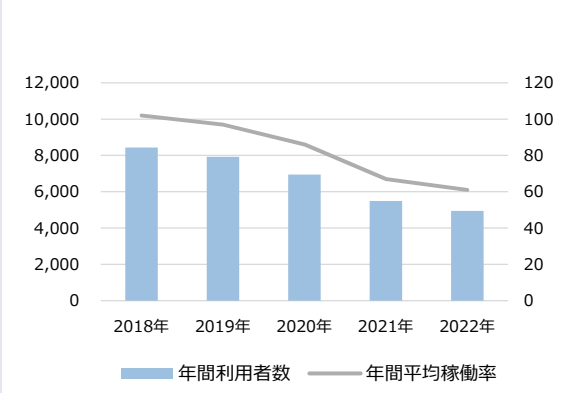
## 障がい者事業局　青山彩光苑
## 青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

久保 奈保

**■2022年度のトピックス**

2022年4月1日より、多機能型通所事業として新たなスタートを切った。近年機能訓練事業への新規相談の減少が著しかったが、例年に比べ相談件数が微増し、5名の方が新規利用を開始した。




■事業報告

① 目標と達成度

機能訓練稼働率を100%以上とする

→61%であったため、達成度としては61%

就労移行支援稼働率を100%以上とする

→61%であったため、達成度としては61%

② 2023年度より、七尾市任意事業地域生活支援事業生活訓練（機能訓練）開始に向けて、準備を行った。

③ 就労移行支援事業については、6名の利用者が就職し、6ヶ月以上の定着者も3月時点で5名と高水準の結果となった。このことから2023年度も報酬単価最高値となった。今年度は利用が短期間で、就職するケースもあり、稼働率の維持に苦慮したが、4月以降の新規相談もあり複数名あり、稼働率の上昇に向けて取り組んでいる。

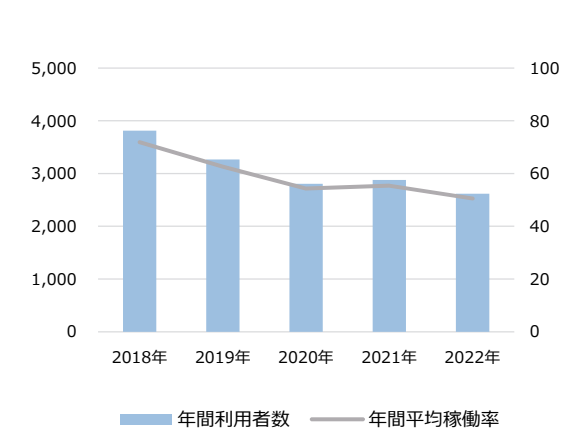
## 障がい者事業局　青山彩光苑
## さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者

前田 奈津子

**■2022年度のトピックス**

４月に七尾市袖ケ江町から青山町に移転したことに伴い、地域活動支援センターでは高階地域の一員として地域に根差した活動に取り組んだ。また、相談支援事業ではキララと一体的運営を行うことで安定した経営基盤が確保できた。




■事業報告

① 七尾市・中能登町からの委託を受け、地域活動支援センターⅠ型事業を実施している。地域で生活している障がい者が通所し日中活動を行っている。従来通りの生産（作業）活動や創作活動の他、今年度は高階地区コミュニティーセンター協力のもと手話や太鼓など新しい活動や、青山彩光苑リハビリテーションセンターと合同でのスポレク活動、敷地を活用しての畑作業など充実したプログラムを展開した。

② 相談支援事業（指定特定・指定一般・指定障害児）は、障がいのある人の様々な相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数　6,558件）。今年度から穴水町のキララと一体化したほか、七尾市・中能登町の他相談支援事業所と協定を結ぶことで、相談支援専門員の資質向上や地域の障がい福祉の発展に寄与することができた。

③ 障害者就業・生活支援センター事業は障がい者・企業からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数2,111件、就職件数32件、職場実習研修32件）。

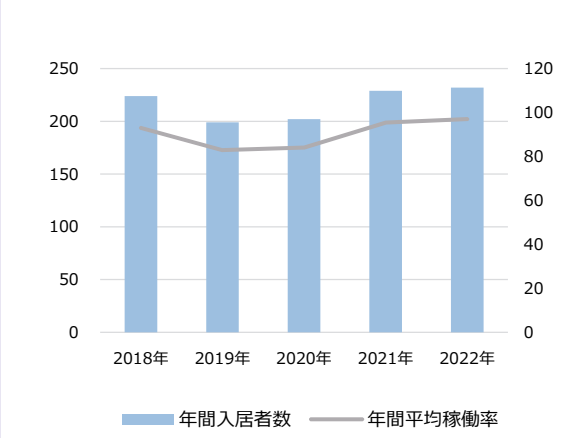
## 障がい者事業局　青山彩光苑
## バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者

久保 奈保

**■2022年度のトピックス**

2022年4月は19床から開始し、2022年3月末には18床の稼働となった。多少の入退居はみられたが、年間通じて定員20名に対し、19～20名で推移した。




■事業報告

① 退居２名、新規入居者は1名であった。年間平均稼働率は前年比2%の上昇となった。

② 入居者の法人内サービス利用の内訳

※重複利用を含む

【日中活動系】

リハビリテーションセンター：7名

ワークセンター田鶴浜：7名

障害者生活支援センター：1名

【生活支援系】

ローレイルハイツ恵寿（ホームヘルプ）：5名

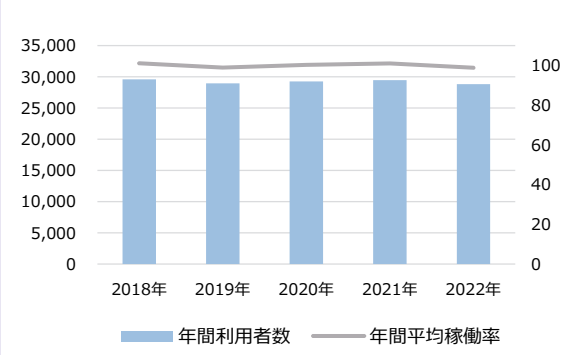
## 障がい者事業局
## 青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

**■2022年度のトピックス**

コロナ禍において、利用者の日常生活への支障を最小限に止めるため、移動販売の導入やオンラインによる太鼓教室を定期的に実施してきた。また、リハビリ機器の充実を図り、重度者中心の身体障がい者施設において中程度の身体障がいを抱える方々のニーズを満たすよう努めてきた。




■事業報告

① 日中の生活介護事業は、目標稼働率110%に対し、106%で達成率は96.3%であった。施設入所支援事業は、目標稼働率100%に対し稼働率、達成率は98.8%であった。また、短期入所事業は、目標稼働率70%とし、前年度を上回る稼働率を残せたものの53.2%に止まり、達成率は76%という結果であった。入所者の入院が多数出たことで、生活介護と施設入所の数値に大きな影響を及ぼした。また、短期入所では、長期利用者の確保が困難であったことと、緊急受け入れの対象者がなかったことが影響した。

② コロナ対策では、感染者に居室エリアではないスペースで療養してもらい、専属職員を置いて対応することで感染の拡大を最小限に押さえることができた。また、地域の感染状況を踏まえ、一時的ではあったが、家族に入所者の生活状況を生で見てもらう機会を提供できた。

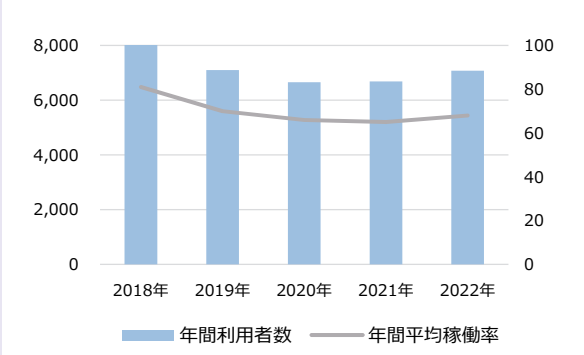
## 障がい者事業局
## 青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

細木 俊逸

**■2022年度のトピックス**

延べ利用者数は、稼働率目標70%に対し、68.3%で昨年対比3%増、利用者数は7,078名で昨年より392名増となった。 新規の利用者が増えたこと、コロナ感染対策を行い、感染拡大を防げたことが要因である。総事業活動収入は、横ばいで、授産事業は資材高騰の影響はあるものの調達コストをできるだけ抑え、支出をできるだけ抑えることができた。




■事業報告

① 新規利用者は８名であった。退所者は３名であり、2名は本人の希望、1名は長期入院のための退所であった。利用者の高齢化はすすんでいるが、新規利用者もあり、新たな戦力となっている。「ワークセンターは平均工賃が高水準であること」（2021年度：ワーク平均30,766円石川県平均15,982円）、「作業内容が多く、利用者が仕事を選択できること」を強みとし、利用者の獲得を目指し取り組んでいく。登録者は2023年3月31日時点で34名であり、前年同期と比較すると4名増である。

② 授産事業においては、軽作業はコロナ禍の影響から脱し、受注数は戻りつつある。受注品を確実に、丁寧に生産することに注力した。アグリ事業（水耕・土耕）においては資材等高騰の影響もあり、収益は低調であった。洗濯事業においては堅調に推移しており、コロナ感染者の洗濯物に関しても、施設側と連携を図り対応を行った。七尾市からの委託業務（ペットボトル圧縮・家具解体）も継続委託を受けており、安定収入となっている。今後はアフターコロナを意識して、基本に忠実に、確実に仕事を行い、依頼主から信頼されるよう事業をすすめていく。

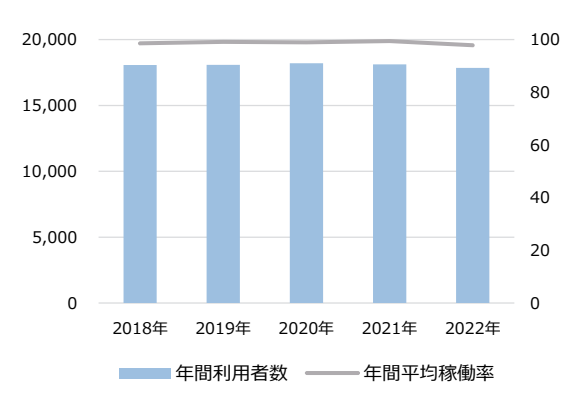
## 障がい者事業局
## 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者

今寺 忠造

**■2022年度のトピックス**

新型コロナ対策を徹底し、利用者の感染者を一人も出さなかった。利用者支援では、自粛していた活動を感染対策を行いながら再開させ、スポーツ大会や交流会などの地域企画にも参加した。社会貢献の一環として、福祉教育事業で出張教室を地元小・中学校で実施した。




■事業報告

① 施設入所支援事業は、稼働率の実績は97.9%であり、前年度比98.6%で入院者が多く目標値に至らなかった。通所事業は稼働率86.5%、前年度比128.4%。短期入所事業は稼働率52.3%、前年度比は118.2%で、コロナの影響で利用を控えていた方が徐々に再開され昨年度より持ち直した。 短期入所は、近年の動向や稼働率を鑑みて来年度からは定員を1減らす予定。

② 「変革と進化」をテーマのもと先入観を無くし可能性を拡げる支援を推進してきた。日中活動では、コロナ禍でも充実した生活が送れるよう、感染対策を講じながらカラオケや足浴、調理や外出など実施した。地域交流では、中止していた夏祭りを秋フェスにし地域発表を企画したが、周囲の感染が収まらず内容を変更して行った。その他、県のスポーツ大会や北信越ボッチャ大会への参加、施設間交流ではボッチャ大会の実施やオンラインでのフライングディスク大会の参加ができた。昨年度好評であった衣料品店の訪問販売や地元の飲食店のテイクアウトも、頻度を増やし、地域方々との交流の場を設けることができた。

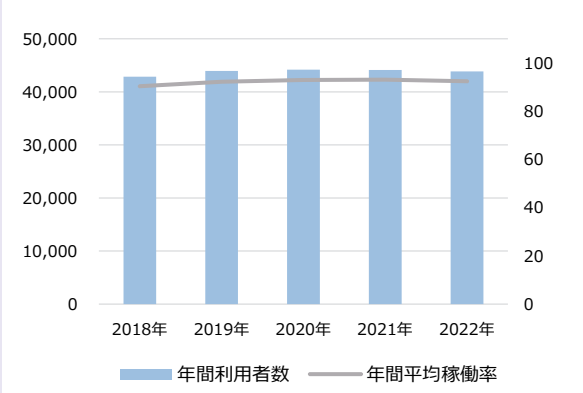
## 障がい者事業局
## 石川県精育園・自立ホームけいじゅ

■部門代表者

今寺 忠造

**■2022年度のトピックス**

コロナ禍での感染対策を継続していたが、7月中旬よりクラスターが発生した。入所者122名中87名が感染。全員施設内療養で、幸い重症化する方もなく約２ヶ月後に収束した。地域貢献の一環としては、いしかわ百万石文化祭2023穴水町プレイベントへ利用者と職員で参加した。




■事業報告

① 利用者の社会参加への支援として、穴水地区の海岸沿いのゴミ拾いやバス停の清掃活動を行った。利用者の参加意欲も高く、次年度も継続していきたい。

② 口腔嚥下プロジェクトにて、専門医による職員向け勉強会をオンラインで実施し、利用者向けの歯磨き教室を年2回実施した。また、歯科衛生士による訪問も導入し、口腔内点検、歯石除去や助言等受けることで、職員や利用者の口腔ケアに対する意識が高まり、要治療者については、適切な歯科通院支援が実施できた。

③ コロナ禍で県内外で実施される研修への参加を控えている状況が続いていたため、富山県の施設とオンラインで交流機会を作り、お互いの施設の取り組みや支援の工夫等について情報交換や意見交換する機会をつくった。

④ 権利擁護委員会の取り組みで、法人内施設の部長に協力を得て、月1回施設内の巡視を行った。面会制限により外部の目が入りにくい状況で、管理監督職の視点による確認と助言は、職員の意識向上に繋がった。

⑤ コロナ収束後には、ミニ夏祭り、ハロウィン喫茶、小グループ毎での秋の日帰り旅行、地元保育園とのリモート交流や園内レクリエーション等、利用者の楽しみに繋がる支援を提供することができた。

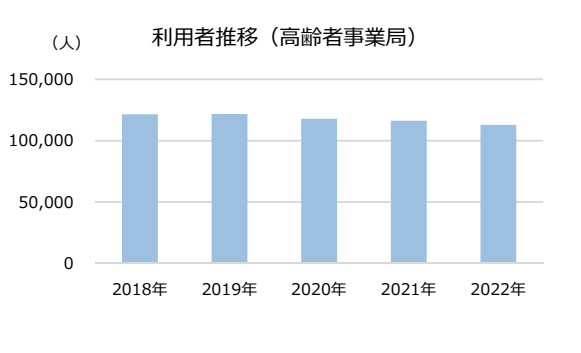
## 高齢者事業局

■部門代表者

吉田 茂和

**■2022年度のトピックス**

本年度は、前年にも増して新型コロナウイルスによる影響が拡大した。入所施設に感染者が発生したほか、在宅サービスでも本人・家族の感染が複数見られ、サービスの中止や利用控えなどへの影響が大きくあったが、そのような中にあっても生活を支える支援が途切れることのないようにと、サービス提供のあり方に苦悩した年であった。




■事業報告

① エレガンテなぎの浦・アンジェリィなぎの浦：新型コロナの発生や拡大を防ぐため、積極的な検査と施設内感染防止対策を徹底した。コロナ禍であっても利用者が楽しむことができるようフロア単位での行事や、ケアハウスでは、焼きたてパンの提供など、食への楽しみにも努めた。

② エレガンテたつるはま・もみの木苑：特養では、上期は比較的好調だったものの、下期には新型コロナの感染が広がり入院者が増加。年間の利用率は前年並みとなった。もみの木苑もコロナ禍の中、活動や参加にポイントを付与する「まんぷく大作戦」が好評で参加者が増加した。

③ ふれあいの里：コロナ禍で厳しい状況であったが、趣味や興味を引き出す支援を提供することで、楽しく利用できるデイサービスとして定着してきた。訪問入浴は在宅での看取り対象利用者が増加。配食は他社の参入やコンビニ活用などがあり、利用件数は減少傾向となった。

④ ローレルハイツ恵寿：他の施設と同様に、新型コロナウイルスによる職員不足などに苦慮したが、ヘルパー事業所との連携や、各階に感染対策必需品カートを設置するなどにより窮地をしのいだ。一方では、ロボット活用としてpepperを導入。レク体操の幅が広がり、談話コーナーではコミュニティづくりの一助ともなった。

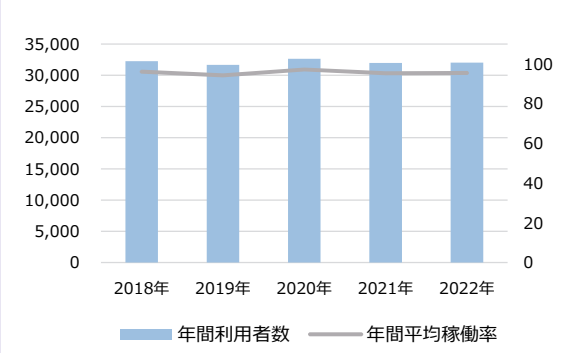
## 高齢者事業局
## エレガンテなぎの浦・アンジェリィなぎの浦

■部門代表者

藤澤 優子

**■2022年度のトピックス**

本年度は、8月、1月に新型コロナウイルスのクラスター発生による影響で、ショートステイ、デイサービスの受け入れ中止や利用控えなどがあり、稼働率目標を大きく下回った。デイサービスにおいては、実利用者数の減少及び利用率が低下し、年間を通して稼働率が伸び悩んだ。




■事業報告

① クラスター発生により、新型コロナウイルスの発生を可能な限り食い止めるため、積極的な検査を実施するとともに、施設内感染防止対策を改めて徹底することした。できる限りフロア別での勤務に取り組み職員の行き来を最小限にし、安全・安心のサービスを展開した。

② コロナ禍で、大きな行事を行うことはできなかったが、フロアごとで行事を実施することで、利用者・職員ともに楽しむことができた。ケアハウスでの月1回の食事の有料メニューでは、焼き立てパンを提供するなど食への新たな提供も実施した。

③ タブレットの使用普及により、オンライン面会の継続、個別支援や娯楽等での取り組みを行うとともに、勉強会でも積極的に活用し、Web配信での講義を取り入れた。Teams、Zoomを使用し、オンライン会議や連絡などに積極的に活用した。

④ インドネシアより外国人技能実習生1名を受け入れ、3名となり介護技術の継承及び指導者のスキルアップにも繋がっている。

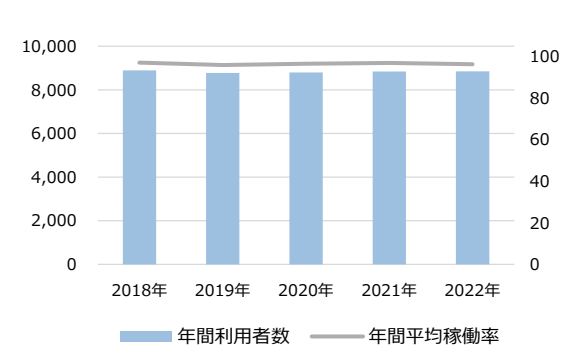
## 高齢者事業局
## エレガンテたつるはま・もみの木苑

■部門代表者

芳原 哲弥

**■2022年度のトピックス**

入所事業は12月中旬から約1ヶ月間、コロナ感染が蔓延し入院者・退所者が増加したが、年間の稼働率は前年度並みの96.3%となった。通所事業はコロナ禍によるサービス利用控えの影響があり前年度比で約10%低下する。新プログラムを増やすと共にSNSによる情報発信を積極的に実施することで年度後半は新規紹介者数が増加傾向にあった。




■事業報告

【エレガンテたつるはま】

① 上半期は稼働率100%を記録する月も多く安定した運営ができていたが、下半期に入りコロナ感染が広がり、入院者が激増し年間平均稼働率は昨年度並みとなった。

② 気付きの共有を目的に実施した「ありがとうレポート」は報告件数19件であった。内容は、業務中のポジティブな言動や行動に対しての「イイネ」が中心だった。

③ デジタル・リモートを活用しコロナ禍でも家族との絆をつなぐためにZoomやLINEを使用した面会や映像等の提供等を実施した。

【デイサービスセンターもみの木苑】

① Foot活プロジェクトの参加利用者11名。

② 活動（Foot活も含）や参加に応じてポイントを付与する表彰制度『まんぷく大作戦』では前年度を大きく上回る63名のご利用者が参加。最多ポイント賞も含めて、23名のご利用者を表彰。

③ プログラムの充実を図るべく職員のスキルを取り入れたメニューを導入、年度当初14項目だったメニューも年度末には40項目に増加し、選んで参加していただく体制づくりが軌道に乗った一年であった。

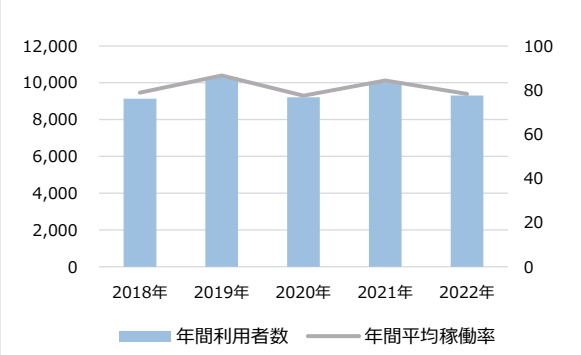
## 高齢者事業局
## ふれあいの里

■部門代表者

江澤 恵太

**■2022年度のトピックス**

通所介護は、目標稼働率87%に対して78.3%であった。前年度比は92.7%であった。年度当初から徐々に稼働率が上昇したがコロナクラスターにより、休止や縮小したことが大きく影響した。訪問入浴は、前年度比101%であった。利用中止となっても新規利用者の獲得にて安定した稼働となった。




■事業報告

① 通所介護事業は、新型コロナウイルスのクラスターの影響により、稼働目標は達成できなかった。しかし、利用者の趣味や興味が持てるような支援等を様々な内容で提供した。結果、利用者のみならず、ケアマネの方からも活動的で楽しく利用できるデイサービスとして認識していただき、当デイサービスを選択していただいた。どのような支援でも目的、遊び心、達成感など、実施した後に「またやりたい」という気持ちで帰宅していただくことができた。意欲が引き出されたことで、休むことが減少し、また行きたいと思うことが身体的、精神的維持につながった。

② 訪問入浴事業は、利用件数が前年より増加。これまでも看取り介護の利用者の方はいたが、入院していた方が、最期は自宅で看取りたいと単発もしくは数回の利用の方が増えた。そのような方に対して、迅速に対応し、入浴を提供後に看取ることができたケースもあった。

③ 配食事業については、七尾市の委託事業である。配食件数は、前年より減少した。新たな形での弁当提供事業者も増え、コンビニの活用などニーズが減少してきている傾向である。

④ 地域との交流等は、コロナ禍で実施できなかったが、ホームページやインスタグラムなどで取り組みを発信した。

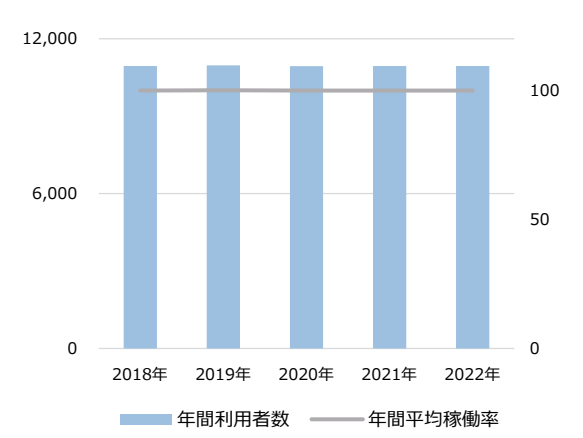
## 高齢者事業局
## ローレルハイツ恵寿

■部門代表者

松井 智子

**■2022年度のトピックス**

『安心して暮らせるしくみづくり』を目標に、コロナ禍でもご家族様との関わりが途切れないよう支援した。平均稼働率は特定ケアハウス99.9%、一般ケアハウス99.9%、サ高住94.4%。ヘルパー平均延べ人数635人。




■事業報告

① 安心・安全なしくみ

コロナ感染による職員不足に見舞われ、施設内で応援体制をとり、またヘルパーは適宜、支援中止するなど施設内感染防止に努めた。引きこもり予防として、レクや各種教室の実施やFoot活測定・体操を毎月実施。自主的に歩行訓練を行う方が増えた。2のつく日に職員がFoot活サンダルを履き、良さをアピールしメディアにも取り上げられた。特定ケアハウスでは個別機能訓練を実施し加算取得開始。こうした取り組みを行うが転倒・骨折による入院や退居となるケースも多くあった。

② 安心・安全に過ごせる5S

感染発生時にすみやかな対応ができるよう、各階に感染必需品カートを設置した。入居者の健康面のサポートとして、健康教室を毎月実施し、多くの参加があった。

③ 人が集まるしくみ

ロボット活用としてpepperを導入し、レク体操の幅が広がり、談話コーナーではコミュニティづくりの一助にもなった。12月にはクリスマス会の実施、地域交流として恒例のイルミネーションを点灯した。また、介護実習生34名の受入れを行った。

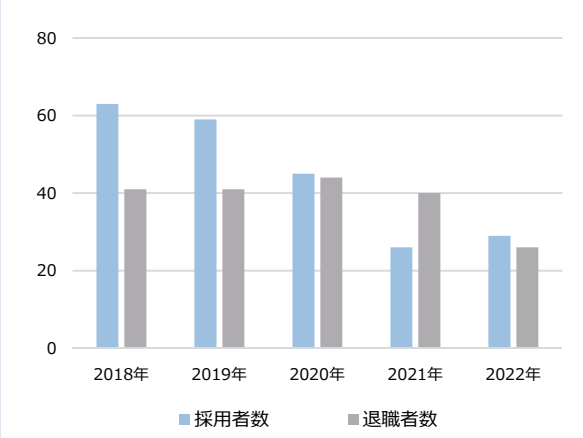
## 事務局

■部門代表者

山下 賢

**■2022年度のトピックス**

2022年度における採用者数は29名、また退職者数は26名で差し引き+3名であった。期首の職員総数は436名、期末の職員総数は439名。




■事業報告

① 職能資格等級表のスリム化（全９等級→全８等級）の実施。

② 介護職員処遇改善加算により賃上げの実施、介護職員等特定処遇改善加算による年度末手当支給、介護職員等ベースアップ等支援加算による月次手当支給。

③ 外国人介護職員として技能実習生１名（インドネシア）を受入れ。

④ 石川県精育園指定管理第三期公募申請による受託決定。

⑤ 石川県監査委員監査及び会計監査人の監査を実施。

⑥ 感染症対策として、情報の共有と法人内職員間の応援体制の拡充。

⑦ 補助金受入れ

- 新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業（石川県）
- 新型コロナウイルス感染症に係る障害福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業（石川県）
- 抗原定性検査キットを活用した高齢者施設等従事者の検査事業（石川県）
- 省エネ投資緊急支援事業（石川県）
- 自動車事故被害者受入環境整備事業（国土交通省）
- 省エネルギー投資促進支援事業補助金（経済産業省）

## 事務局
## 総務部

■部門代表者

畑中 浩樹

**■2022年度のトピックス**

① 職務基準能力チェックシートの新規作成、既存等級の見直しを実施

② 内定者の集いを2022年12月10日に初開催（オンライン）

③ 産業医不在事業場への医師派遣事業の活用

④ 2023年度新卒内定者（介護5名、事務1名）

■事業報告

① 2021年度に作成した『職能資格等級制度構成表』を踏まえて、職務遂行能力チェックシートは8、7等級の新設と6-4等級の見直し。3-1等級は実状業務と職種毎に見直しを行う。2023年度より運用開始。

② 小規模事業所職員の健康診断結果に基づいた健康管理等の指導、助言サービスを活用。全職員への健康管理体制を確立。

## 教育研修委員会

■委員長

畑中 浩樹

**■2022年度のトピックス**

| 日程 | 内容 |
|---|---|
| 4月1、15日 | 新人職員研修 |
| 6月15日 | 管理監督者研修（課長以上） ※オンライン |
| 7月8日 | 主任研修 |
| 7月29日 | 新人職員フォローアップ研修 |
| 10月17-28日 | ハラスメント研修（主任以下）※動画配信 |
| 11月16日 | アンガーマネジメント研修 ※オンライン |
| 11-1月 | 介護福祉士受験対策講座 ※対面、オンライン対応 |

■事業報告

① 新たな階層別研修として、主任研修を追加。また、2023年度に向けて、中堅職員研修を新たに体系化するための企画案を検討した。

② 外国人技能実習生の日本語教育について、七尾市国際交流協会の協力のもと企画。2022年7月より月1～2回の頻度で開催。技能実習生3名の内、1名が日本語能力試験N3に合格。

## 事務局
## 経営企画部

■部門代表者

松下 清寛

**■2022年度のトピックス**

① 新型コロナウイルス感染予防のための衛生用品、自己検査等の備品確保

② 感染拡大予防にかかる経費等の補助申請（石川県）「介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業」「障害福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業」

■事業報告

① 会計処理の内部統制強化（特定仕分の承認等）

② 銀行業務の効率化（WEBの活用）

③ コスト増への対応（電気契約、委託料等見直し）

④ スキル向上（オンライン研修の活用）

⑤ 理事会・評議員会開催（6月、３月）

⑥ 法人登記手続き

⑦ 監査対応（石川県指導監査、会計監査人監査）

## 福利厚生委員会

■委員長

百成 公美子

**■2022年度のトピックス**

2022年度も新型コロナウイルスの影響で、旅行・イベントは中止とした。代わりに、職員間の親睦・日頃の運動不足解消・免疫力を高めることを目的としてヨガ教室を開催した。月1回講師の先生に来てもらい七尾会場および穴水会場、オンラインでの参加も可能とした。

■事業報告

① 感染拡大の為、10回中5回の開催となった。

② 参加した職員からは次の日調子が良い、気分転換になった等好評であった。コロナ禍のためリモートで行えたこともよかった。

③ 勤務等で参加できない職員も多く、全員が受けられる取り組みをしてほしいとの意見もあった。

## 事例研究大会

■委員長

松柳 満城子

**■2022年度のトピックス**

大会テーマ「人を責めるな、仕組みを責めろ」で、2023年2月10日（金）、新型コロナウイルスの感染及び拡大防止のため、Zoomを利用し開催した。1事業所1事例。発表、質疑応答を録画、後日法人内職員が視聴できるよう配信した。

■事業報告

① 感染症が落ち着いてもZoomでの開催が良いとの意見と、直接発表を聴講し質疑したかったとの意見の双方があった。

② 昨年よりブラッシュアップできていると言う意見もあったが、機器の不備についての指摘も多かった（聴き辛いなど）。

③ 動画視聴後のレポートでは、他事業所の事例を参考にこれからの支援に活かしていきたいとの感想が多数あった。